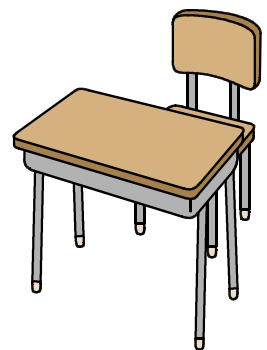


平成26年度版

複式学級の特質を生かした

学習指導の進め方ガイド



岩手県立総合教育センター

はじめに

複式学級では、学級を構成する人数が少ないという特質を生かし、一人一人を大切にしながら以下のような授業を展開させることができます。

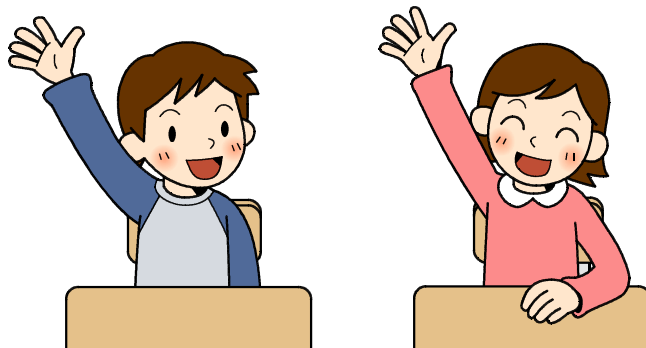
- ◇ 児童一人一人の実態をきめ細かに把握して行う授業
- ◇ 個々の興味・関心に即して、全ての児童の個性を引き出す授業
- ◇ 学習内容の習得状況に応じて、個々の伸びを実感させる授業

私たちは、このような授業によって「自分の学びの意義を見出し、自分とかわる友だちの学びも大切にしながら学習を進める児童」を育成することができます。また、「自分の学びに対する成就感や充実感を持ち、異学年集団の中で共に高め合う喜びや価値を感じ、主体的に学びを進める力をもった児童」をも育むことができます。

このように、複式学級の特質を理解した上で効果的な学習指導の進め方を工夫・改善することはとても意義深いことなのです。

この冊子は、「理論編」「授業理論編」「授業アイデア編」「資料編」の4部で構成しています。

先生方のニーズに合わせてお使いください。



ガイドブックの構成

はじめに	1
ガイドブックの構成	2

複式学級における学習指導を進める前に

① 理論編の目次

■ 複式学級の特質

Q 1 「複式学級」には、どのような特質がありますか？

複式学級の特質

Q 2 「複式学級の特質」を生かして、どのような指導を行えばよいですか？

- 1 学級経営では
- 2 学習指導では

■ 指導内容の組合せの類型

Q 3 「複式学級における学習指導」には、どのような指導の組合せがありますか？

- 1 指導内容の組合せの類型
- 2 各類型の利点
- 3 類型選択の視点

■ 指導過程の例

Q 4 学年別指導や類似内容指導に、どのような「指導過程」がありますか？

- 1 学年別指導や類似内容指導を行う場合の指導の特徴
- 2 一単位時間の指導過程の設定
- 3 基本的な指導過程5つのモデル

■ 直接指導と間接指導のポイント

Q 5 「直接指導と間接指導」は、どのようなことに留意すればよいのですか？

- 1 直接指導のポイント
- 2 間接指導のポイント

複式学級における学習指導を進めるために

② 授業理論編の目次

■ 授業づくりの手順

Q 6 「授業づくり」は、どのような手順で行えばよいのですか？

- 1 ステップ1：学習内容の整理・分類
- 2 ステップ2：年間指導計画の見直しと修正
- 3 ステップ3：単元指導計画作成のポイント
- 4 ステップ4-1：学年別指導の授業づくり
- 5 ステップ4-2：類似内容指導の授業づくり

複式指導充実のために

③ 授業アイデア編の目次 -----35

■ 間接指導の児童の活動を支える指導の工夫

Q7 「主体的に学ぶ子ども」を育てるために、どのような工夫が考えられますか？

- 1 リーダー学習
- 2 学習シートの活用
- 3 教室内環境の諸準備
- 4 板書の工夫
- 5 思考を広げる工夫

■ 人間関係を広げる指導の工夫

Q8 「人間関係を広げる指導」には、どのようなことが考えられますか？

- 1 合同学習とは
- 2 集合学習とは
- 3 交流学习とは
- 4 人間関係を広げる指導の具体1－合同学習
- 5 人間関係を広げる指導の具体2－集合学習
- 6 人間関係を広げる指導の具体3－交流学习

複式学級における学習指導の具体例

④ 資料編の目次 -----46

■ 資料編の見方

■ 学習指導の具体例

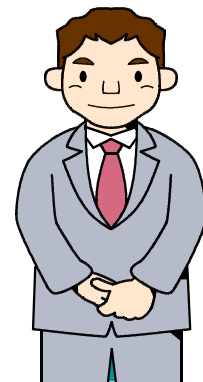
- 1 国語科の指導例
- 2 算数科の指導例
- 3 その他の教科の指導例

■ 番外編

複式学級を迎える諸準備に関すること -----80

* 複式指導に使われる用語解説 -----100

* 引用文献・参考文献 -----107



複式学級における学習指導を進める前に

理論編

目次

■ 複式学級の特質	5
Q 1 「複式学級」にはどのような特質がありますか？	5
複式学級の特質	5
Q 2 「複式学級の特質」を生かして、どのような指導を行えばよいですか？	6
1 学級経営では	6
2 学習指導では	6
■ 指導内容の組合せの類型	7
Q 3 「複式学級における学習指導」にはどのような指導の組合せがありますか？	7
1 指導内容の組合せの類型	7
2 各類型の利点	7
3 類型選択の視点	7
■ 指導過程の例	8
Q 4 学年別指導や類似内容指導に、どのような「指導過程」がありますか？	8
1 学年別指導や類似内容指導を行う場合の指導の特徴	8
2 一単位時間の指導過程の設定	10
3 基本的な指導過程5つのモデル	12
■ 直接指導と間接指導のポイント	19
Q 5 「直接指導と間接指導」はどのようなことに留意すればよいのですか？	19
1 直接指導のポイント	19
2 間接指導のポイント	21

■ 複式学級の特質

Q1

「複式学級」には、 どのような特質がありますか？

複式学級とは、2つ以上の学年で構成されている学級です。特質をよく理解し、その特徴を生かすと同時に、長期的な見通しに立った学級経営や指導方法の工夫・改善を行っていくことが大切です。

複式学級の特質(□特質 ○よさ ●課題)

◇1 学級を構成する人数が少ないこと

- 複式学級は、1年生を含む組合せではその合計が8名以下、それ以外の組合せでは合計が16名以下である場合が基本となります。
- 学年の人数や組合せによっては、複式学級と単式学級の両方を経験する児童もいます。
- 学年の児童数や男女比がアンバランスになりがちです。
- 一人一人の児童が主役となることがより強く期待されます。
- 一人の担う役割が多く感じられる場合があります。



◇2 対人関係の範囲が限られていること

- 親戚関係にある児童が多いことがあります。
- 安心した環境の中で、落ち着いて学習を進められます。
- 児童相互の協力的な活動が容易に行えます。
- 行動が消極的であったり、学習意欲が低調になる傾向がみられることもあります。
- 多様な経験をもちにくいことがあります。



◇3 学級の中で、上学年や下学年を経験すること

- 上学年の児童はリーダーとしての、下学年の児童はフォロワーとしての自覚をもつようになります。
- 上学年の児童の負担が過重となることがあります。
- 下学年の児童が上学年の児童に対して、依頼心をもちやすくなる場合があります。



■ 複式指導の特質

Q2

「複式学級の特質」を生かして、 どのような指導を行えばよいですか？

1 学級経営では

複式学級には、様々な特質が見られますが、これらをよく理解した上で、学級経営を進めることにより、効果的な学習指導のための環境を整えることができます。「小学校複式学級指導資料 算数編」文部科学省(1995)P.5～P.7には、以下のように複式学級の特質を生かした学級経営について3点示されています。その特質に着目して、それを生かす学級経営に努めることが大切です。

◇1 少人数である特質を生かした指導

複式学級は、人数が少ないため、一人一人の児童と接する時間や場面が多くもてます。学級全体ばかりではなく、児童一人一人の個性をとらえ、その個性を伸ばす計画を立てるなど工夫して指導することが大切です。

<配慮事項>

小集団であるため、意欲が高まりにくいということが課題になることもあるので、役割分担や責任をはっきりさせ相互に協力し合える活動を積み重ねるようにします。



◇2 異年齢集団である特質を生かした指導

同一の学級内に、上学年と下学年が協同で生活しています。このことを生かし、上学年にリーダーとしての自覚をもたせた指導を行うことが大切です。下学年のお手本となるような活動を設定したり、それをお手本として下学年の伸びを見取る活動を設定したりして、相乗的に伸びていくような指導をすることが大切です。

<配慮事項>

上学年の児童の負担が過重とならないようにします。



◇3 児童同士が協力関係にある特質を生かした指導

学級での生活を共にしているうえに、地域社会でも行動を共にしているので、児童はお互いが協力的な関係にあります。共同で行う活動を多く取り入れた指導を積み重ね、チームワークの大切さを確かめ合ったり、互いの長所を生かしていくことのよさを味わったりしていくようにするとよいでしょう。

<配慮事項>

幼児期から互いに知り合っていることによって、それぞれの役割を固定的にとらえることも見られるので、お互いの新しいよさが発見できるように、役割を変えて経験させるようにします。



2 学習指導では

複式学級における学習指導では、複数の学年の児童を指導していくため、指導内容の組合せを考慮したり、指導方法を工夫したりすることが必要になってきます。以下に示す、複式指導(学習)の特質を考慮して、効果的に指導しましょう。

- ・1単位時間内に、2つ以上の学年の学習内容を同一教室内で同時に指導する。
- ・1単位時間は、教師が直接指導する場面と、児童が自主的に学習する場面で構成される。

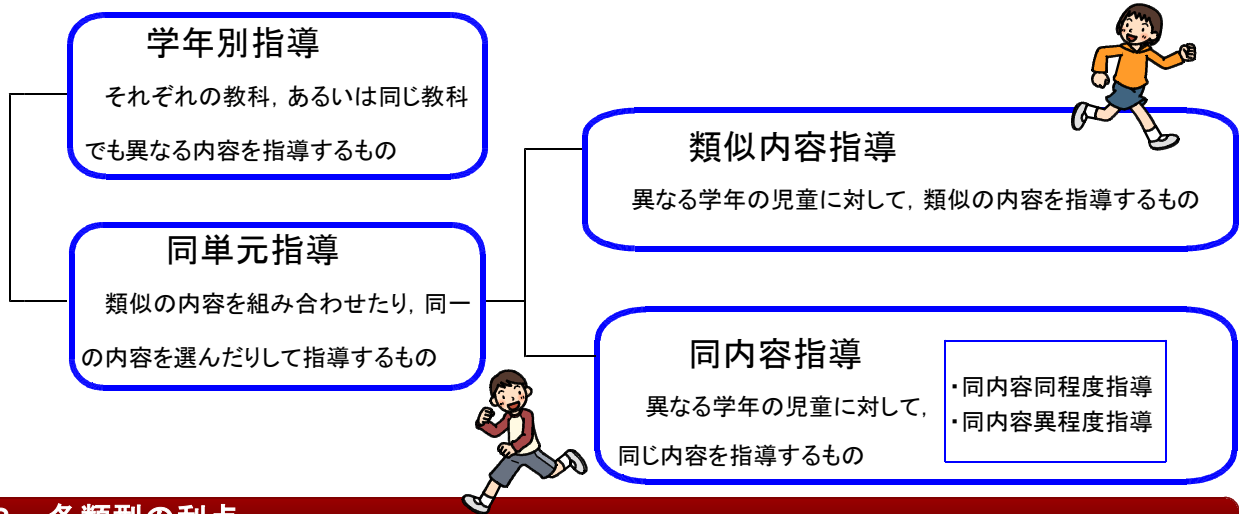
■ 指導内容の組合せの類型

Q3

「複式学級における学習指導」には、 どのような指導内容の組合せがありますか？

指導内容の組合せの類型は、「小学校複式学級指導資料 算数編」文部科学省に示されています。以下に示した「類型や」その利点、類型選択の視点は、P.9～P.11に示されている内容を参考にまとめたものです。

1 指導内容の組合せの類型



2 各類型の利点

教科や内容の組合せ方を考える場合には、それぞれの指導の利点をうまく生かすようにします。

[学年別指導]

- ・教科の系統性を踏まえやすい。
- ・指導計画が作成しやすい。
- ・転入や転出の児童に対応しやすい。

<学年別指導の教科や内容例>

例えば
2年生→国語科 5年生→社会科「私たちのくらしと国土」
3年生→社会科 6年生→社会科「日本の歴史」

[同単元指導]

- [類似内容指導]
- ・異学年の児童が協力しながら学習できる。
- ・それぞれの学年に応じた基礎的・基本的な内容を身に付けられる。

<類似内容指導の教科や内容例>

例えば
2年生→算数「3けたのかず」
3年生→算数「大きい数のしくみ」
5年生→国語「なまえつけてよ（読むこと）」
6年生→国語「カレーライス（読むこと）」

[同内容指導]

- ・単式学級と同じように指導できる。

<同内容同程度指導の教科や内容例>

例えば、AB年度方式
今年度→生活科 1年生内容
来年度→生活科 2年生内容

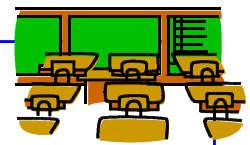
<同内容異程度指導の教科や内容例>
例えば、計算の指導で、計算に係る時間を
下学年の児童に対しては多くする。

※AB年度方式は児童の転入・転出を考慮し、現在ではあまり使われていません。

3 類型選択の視点

各校においては、上記のような複式学級における指導内容の組合せの類型を選択し、指導計画を作成します。類型選択の視点としては、次のようなことが考えられます。

- 児童の基礎的、基本的学習内容の定着状況
- 児童一人一人の学習意欲の状況
- 学習内容の系統性や各教科の特性
- 今後の児童数、学級編制の見通し
- 転入、転出児童への配慮



■ 指導過程の例

Q4

学年別指導や類似内容指導には、 どのような「指導過程」がありますか？

同内容指導は、単式学級と同じように考えて指導過程を考えればよいのですが、学年別指導や類似内容指導には複式学級特有の指導過程を考えなければなりません。指導の仕方に決まりはありませんが、いろいろな指導過程を習得した上で、それらを教科や単元、単位時間の指導の流れや児童の実態等に即して、一番適切であると考えたものを選択することが望ましいです。



1 学年別指導や類似内容指導を行う場合の指導の特徴

◇1 直接指導と間接指導

複式学級において、学年別指導や類似内容指導を行う場合には、それぞれの学年の児童に異なる(類似した)内容を指導するため、1つの学年に指導している間は、他の学年の児童は自主的に自分たちの学習を進めていく必要があります。このような指導では、次のような「直接指導」や「間接指導」が行われます。

- 直接指導 … 複式形態の授業において、一方の学年の児童が教師から直接指導を受ける学習指導場面を指します。
- 間接指導 … 複式形態の授業において、教師が一方の学年の児童を直接指導している間に、他の学年の児童が、教師の指導を離れ、自分たちで課題を解決するために個人または集団で学習活動を進める学習指導場面を指します。

◇2 直接指導の位置付け

複式学級の学習指導では、直接指導の時間的な制約や指導過程の構成上の位置付け等から、教師主導型の授業ではなく、児童の主体的な学習活動を目指した授業が展開されるように配慮します。

そのために、間接指導前の直接指導では、課題把握や課題解決にかかわる学習技能、学習方法や手順をつかむための指導を十分に行う必要があります。

◇3 間接指導の位置付け

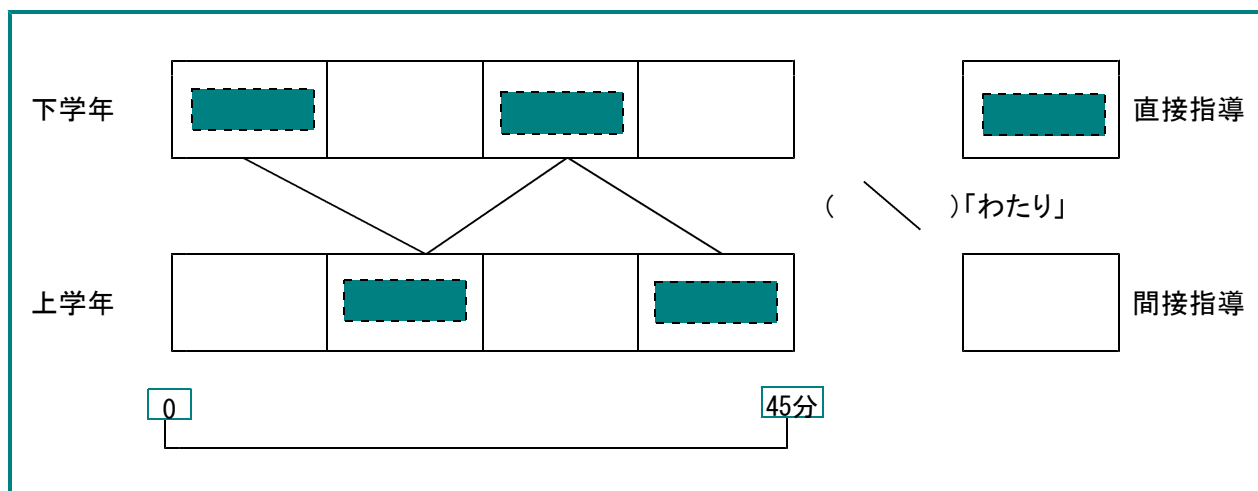
間接指導は、児童のみで学習が進められるように指示や示唆を与えた上で行われる指導です。直接指導の付属的なものとしてのドリル的な学習ではなく、主体的に学習を進められるように指導方法を工夫します。

◇4 指導過程の中での教師の「わたり」

学年別指導や類似内容指導では、同じ時間に2つの学年を対象にして異なる教材を指導します。この場合、直接指導と間接指導を組み合わせながら、教師が一方の学年から他方の学年へ交互に移動して直接指導に当たります。このように学年の間をわたり歩く指導形態(教師の動き)を「わたり」と呼んでいます。

「わたり」の基本的な位置付け方

「わたり」の位置付け方については、『21世紀を拓く教育シリーズⅠ 学習指導方法の工夫・改善』全国へき地教育研究連盟編集(1998)P.44に、以下の図で示されています。



「わたり」を位置付ける場合には、複式形態の授業に不慣れな下学年を先に直接指導するようにしますが、教科や単元の内容、児童の実態に応じて上学年を先に位置付けることも考えられます。

「わたり」を位置付ける際の配慮事項

ア 児童に学習の見通しをもたせる

児童に、教師と学習する場面(直接指導)と、児童だけで学習する場面(間接指導)を理解させます。児童だけで学習する場面では、先生の手を借りずに自分たちの力で学習を進めるという意識をもたせます。特別に困ったことがない限り、もう一方の学年に指導している先生に声をかけることをしない約束をします。

イ 間接指導の学習を充実させる

直接指導した後、間接指導となった学年が、主体的に学習を続けられるように、学習の仕方を確実に身に付けさせるようにします。学習の進め方を黒板に提示したり、学習シートに明記したりするなどの工夫が考えられます。

ウ 間接指導時の学習状況を把握する方法を工夫する

間接指導後の直接指導を充実させるために、教師が捉えにくい間接指導時の学習状況を把握する方法を工夫します。黒板に板書させたり、学習シートに記録させたりするなどして児童の学習の軌跡を把握することが考えられます。

2 一単位時間の指導過程の設定

複式学級で授業を進めるためには、児童が自ら意欲的に活動できるように毎時間の学習過程を同じにし、学習過程を見通して主体的に学ぶことができるようにすることが大切です。

児童の思考の流れに即し、その思考を中断させないようにするため、学習過程を確実に身に付けさせ、各教科で共通して活用できるようにします。児童が基本的な学習過程を理解できるようになったら、児童の実態や指導の効果に合わせてバリエーションを増やしていくようにします。

また、複式学級において学習指導を行う場合には、以下に示した段階を基本とし、2つの学年の指導内容や指導方法を考慮して両学年の指導過程の段階を効果的に組み合わせる工夫をします。

【指導過程の基本的な4段階と直接・間接指導】

導 入	展 開 ①	展 開 ②	終 末
(課題把握)	(課題追究)	(解決・定着)	(適用・発展など)
(例) 直接指導	(例) 間接指導	(例) 直接指導	(例) 間接指導

※この表は、『21世紀を拓く教育シリーズ I 学習指導方法の工夫・改善』、全国へき地教育研究連盟編集(1998)P.43の「4段階学習過程と直接・間接指導」を参考に作成しています。

【学習過程の4段階:算数高学年児童用例】

算数の学習の進め方

つかむ

かだいを もつ
もんだいを よみましょう。
今日の かだいを 考えましょう。

じぶんで

まなぶ ほうほうを 考える
答えを よそうしましょう。
計算の ほうほうを 考えましょう。

みんなで

自分で かいけつする
一人学びで たしかめます。
時間は○○分です。よいい、はじめ。

まとめる

みんなで かいけつする
ペアで 発表します。
全体で 発表します。

まとめる

学習を まとめ、ふりかえる
学習の まとめを 書きましょう。
ふりかえりを 書きましょう。
練習もんだいを すすめましょう。

これは、岩泉町立門小学校で実際に使用されている学習過程です。
教室に掲示して、児童がいつでも学習の進め方を理解できるように工夫しています。

【学習過程の4段階:国語高学年児童用例】

まとめる	みんなで	じぶんで	つかむ
<p>学習を まとめ、ふりかえる 学習したことを まとめましょう。 ふりかえりを 書きましょう。</p>	<p>みんなで 解決する ペアで 発表します。 全体で 発表します。</p>	<p>自分で 解決する 一人学びで たしかめます。 時間は○○分です。よいい、はじめ。</p>	<p>かだいを もつ かだいを 読みましょう。 かだいを 書きましょう。 学ぶ方法を 考える 手がかりを さがしましょう。 学習の 進め方を 考えましょう。</p>

国語の学習の進め方

「6年生は、『つかむ』と『まとめる』のところをリーダーを中心に自分たちで進めてください。先生が作ったシートに進め方が書いてあります。」
というように、本時はこの「学習の進め方」のどの部分が間接指導となるのか知らせることによって、1時間の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組ませる意識を高めることができます。



指導過程の中で行われる指導の「ずらし」

複式学級の授業では、2つの学年を交互に「わたり」歩いて、直接指導と間接指導を行います。2つの学年の指導過程の組合せを考える場合、学習活動を無理なく効率的に行うために、指導の段階や時間配分を学年別にずらして組み合わせることも必要になります。この組合せを「ずらし」と呼んでいます。

基本的な「ずらし」の模式図

「課題把握」や「解決・定着」段階のように、教師が直接指導した方がよい場面にわたるために、2つの学年の指導段階や時間配分をずらして両学年の「課題把握」や「解決・定着」段階が重ならないようにします。

以下はその基本的な組合せ方を図式化したものです。この図は、『21世紀を拓く教育シリーズⅡ 効率的な学習指導と学校・学級経営』全国へき地教育研究連盟編集(1999)P.46の『指導段階の基本的な「ずらし」の模型図』と『上・下学年に共通の指導場面のある「ずらし」』を参考にして作成しています。

〈導入〉 課題把握 直接指導	〈展開①〉 課題追究 間接指導	〈展開②〉 解決・定着 直接指導	〈終末〉 適用・発展 間接指導
〈前時終末〉 適用・発展 間接指導	〈導入〉 課題把握 直接指導	〈展開①〉 課題追究 間接指導	〈展開②〉 解決・定着 直接指導



複式学級の授業では、上・下学年の授業のはじめやおわりに共通の指導場面を設定すると、同じ教室で学習しているという一体感をもたせることができます。その場合には、以下のように導入段階や終末段階で両学年に相互の学習状況等を知らせるなどの活動を位置付けます。

学習 把握	〈導入〉 課題把握 直接指導	〈展開①〉 課題追究 間接指導	〈展開②〉 解決・定着 直接指導	〈終末〉 適用・発展 間接指導	学習 交流
	共通				
学習 把握	〈前時終末〉 適用・発展 間接指導	〈導入〉 課題把握 直接指導	〈展開①〉 課題追究 間接指導	〈展開②〉 解決・定着 直接指導	学習 交流



3 基本的な指導過程5つのモデル






2つの学年の指導段階の組合せを考える場合には、以下の点に配慮します。

- ・組み合わせる教科は何か
- ・2つの単元(教材)の目標に系統性や関連性はあるか
- ・どちらかの学年に重点をかける場面か
- ・直接指導しなければならないところはどこか
- ・児童の学習意欲や実態はどうか
- ・各段階に必要な時間はどれくらいか 等



岩手県内では、学校や地域の特色、教師の複式指導経験年数や児童の実態等を考慮して、指導過程も様々工夫されてきました。ここでは、県内の複式学級で行われている授業を整理・分類し、基本的なモデルとして示しました。

【基本的な指導過程5つのモデル】

モデル名	組合せの概要	指導の特徴(○よさ, ●留意点)
モデル1-1  13ページ	■指導の4段階をずらして組み合わせる(「<u>わたり</u>」を複数回行う)	○「課題の把握・まとめ」を両学年に直接指導する場面を設定しやすい。 ○児童の実態を細かく把握できる。 ●わたりの回数が多すぎて、授業がとぎれとぎれにならないように配慮する。
モデル1-2  14ページ	■指導の4段階をずらして組み合わせる(「<u>わたり</u>」の回数を最小限にする)	○直接指導する時間をまとめて設定できる。 ○学習活動にじっくり取り組ませることができる。 ●わたりの回数が少ない分、児童には「自力で解決する力」が必要になる。
モデル2-1  15ページ	■指導の4段階はずらさず、各段階の時間配分をずらして組み合わせる(共有の時間なし)	○児童の一単位時間の学習の流れを崩さずに指導できる。 ●間接指導時での学習の進み具合によって、授業全体が左右されることがあるので配慮する。
モデル2-2  16ページ	■指導の4段階はずらさず、各段階の時間配分をずらして組み合わせる(共有の時間として個別指導の場を設定)	○自力で解決するときに困難さを抱える児童に対して、自由にわたり歩きながら支援できる。 ●直接指導が十分にできるため、教師主導になりすぎないように配慮する。
モデル2-3  17ページ ~18ページ	■指導の4段階はずらさず、各段階の時間配分をずらして組み合わせる(共有の時間として共通思考の場を設定)	○学習内容の系統性や連続性等、両学年の学習内容を関連付け、学習の理解を深めさせる指導ができる。 ●交流場面を設定するため時間がかかるので工夫する。

※この5つのモデルは、基本的な指導過程を例示したものです。他にも、児童の実態や教科・単元の内容に即して、指導過程を柔軟に考えることができます。

モデル1-1 指導の4段階をずらして組み合わせる（「わたり」を複数回行う）

以下に示す例は、上学年の指導段階を一段階ずつずらして組み合わせ、教師が「導入」と「展開②」に直接指導できるようにしたものです。この場合、教師の「わたり」は複数回行います。

下学年段階	指導形態(わたり)		上学年段階
導 入	直接指導	間接指導	前時終末
①展 開	間接指導	直接指導	導 入
②展 開	直接指導	間接指導	①展 開
終 末	間接指導	直接指導	②展 開 終 末

ずらし

○「課題の把握」や「まとめ」を両学年に直接指導する場面を設定しやすくなります。

○教師は、複数回わたることができるので児童の実態を細かく把握できます。

●わたりの回数が多すぎて、授業がとぎれとぎれにならないよう配慮する。

教師の「わたり」



指導展開例 ※G←グループ、直接指導（ぬりつぶしあり）間接指導（ぬりつぶしなし）

留意点	下学年学習活動	形 態	段 階	指導形態	段 階	形 態	上 学 年 学 習 活 動	留意点
・見通しの確認 ・進め方の確認	1 課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える (4)見通しをもつ	全 体	課 題 把 握		適 用 発 展	個 人 G	1 学習を振り返る (1)前時の学習を振り返る	・前時までの学習の 掲 示 ・リーダーの 活 用
・個への支援の用意 ・リーダーの活用	2課題を追究する (1)一人で追究する (2)ペア・グループで追究の仕方を確認し合う	個 人 G	課 題 追 究		課 題 把 握	全 体	2課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える (4)見通しをもつ	・見通しの 確 認 ・進め方の 確 認
・間接指導時の学習状況の把握と教師によるまとめ	3課題をまとめる (1)追究方法を発表する (2)まとめる 4 定着問題を追究する	全 体	解 決 定 着		課 題 追 究	個 人 G	3課題を追究する (1)一人で追究する (2)ペア・グループで追究の仕方を確認し合う	・個への支 援の準備 ・リーダー の 活 用
・リーダーの活用	5学習を振り返る (1)本時の学習を振り返る 6次時の学習を知る	個 人 G	適 用 発 展		解 決 定 着	全 体	4課題をまとめる (1)追究方法を発表する (2)まとめる 5本時の学習の振り返る 6次時の学習を知る	・間接指導 時の学習 状況の把 握と教師に よるまとめ

※ここで使用しているモデルの表は、『複式学級における学習指導の在り方 ～はじめて複式学級を担任する先生へ～』北海道立教育研究所・北海道教育大学（2001）P. 6の表を参考にして作成しています。以降のモデルの表も同様です。

モデル1-2 指導の4段階をずらして組み合わせる(「わたり」の回数を最小限にする)

以下に示す例は、例えば授業の前半は下学年の「導入」「展開①②」と上学年の「本時の課題につながる学習内容」、後半は、下学年の「終末」と上学年の「導入」「展開」「終末」とを組み合わせるといように、段階をいくつかまとめて組み合わせるようにしたものです。この場合、教師の「わたり」は1回だけ行います。

下学年段階	指導形態(わたり)		上学年段階
導入	直接指導	間接指導	前時の習熟と本時の課題につながる学習等
①展開			
②展開			
終末	間接指導	直接指導	導入
			展開
			終末

○どちらの学年にも、「導入」から「課題のまとめ」までの一連の学習の流れを途切れさせることなく直接指導することができます。

○教師とのまとまった学習の時間を設定することができます。

●わたりの回数が少ない分、児童には間接指導時に「自力で解決する力」が多分に必要になります。

※間接指導時は、主に、学習シートや学習リーダーを活用して学習を進めます。



指導展開例 ※G←グループ、直接指導(ぬりつぶしあり) 間接指導(ぬりつぶしなし)

留意点	下学年学習活動	学習形態	段階	指導形態	段階	学習形態	上学年学習活動	留意点
・教師主導にならないように児童の主体的な学びを展開させるようにする。	1 課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える (4)見通しをもつ 2 課題を追究する 3 課題をまとめる (1)追究したことを発表する (2)まとめる	全 体 ・ 個 人 ↓ G	課 題 把 握 追 究 解 決		前 時 終 末 や 本 時 導 入	個 人 ↓ G	1 前時の学習の復習をする 2 本時の問題と出会い課題を追究する	・課題を前もって確認し、自力で追究させる。 ・間接指導が長く続くので、G学習も取り入れる。
	4 追究したことを広げる 5 本時の学習を振り返る						個 人 ↓ G	

モデル2-1 指導の4段階はずらさず、時間配分をずらして組み合わせる(共有の時間なし)

以下に示す例は、指導の段階をずらさず組み合わせるようにしたものです。それぞれの学年に直接指導した方がよい場面には、各段階の時間配分をずらしてわたるようにします。

下学年段階	指導形態(わたり)		上学年段階
導入	直接指導	間接指導	導入
①展開	間接指導	直接指導	①展開
②展開	直接指導	間接指導	
終末	間接指導	直接指導	②展開
	直接指導	間接指導	終末

○児童の一単位時間の学習の流れを崩さずに指導できます。

●直接指導時の児童の理解度によって計画した通りにわたることができない場合もあるので注意します。計画通りに教師がわたらない場合の指示を、他方の児童に明示しておくなど工夫するようにします。



指導展開例 ※G←グループ、直接指導(ぬりつぶしあり) 間接指導(ぬりつぶしなし)

留意点	下学年学習活動	学習形態	段階	指導形態	段階	学習形態	上学年学習活動	留意点
・見通しの確認 ・進め方の確認	1課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える (4)見通しをもつ	全 ↓ 個	課 題 把 握	[ぬりつぶし]	[ぬりつぶし]	課 題 把 握 ↓	1課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える	・前時までの学習の 掲示 ・教師による課題や 見通しの 確認
	・個への支援の用意 ・リーダーの活用	2課題を追究する (1)一人で追究する (2)ペア・グループで追究方法を 確認し合う	全 ↓ 個 G			課 題 追 究	課 題 追 究 ↓ 個 G	
・間接指導時の児童の学習状況の把握 ・教師によるまとめ ・答え用のシート準備	3課題をまとめる (1)追究したことを発表する (2)まとめる 4 追究したことを広げる	全 ↓ 個 G	解 決 ・ 定 着	[ぬりつぶし]	[ぬりつぶし]	解 決 ↓ 定 着	(2)ペア・グループで追究したことを確認し合う 3課題をまとめる (1)追究したことを発表する (2)まとめる 4 追究したことを広げる	・リーダーの活用
	・適用・発展状況の確認	5 学習したことを振り返る 6次時の学習を知る	個 ・ G 発 展			適 用 ・ 発 展	適 用 ・ 発 展	全 体

モデル2 - 2 指導の4段階は必ず、時間配分を必ずして組み合わせる(共有の時間あり①)

以下に示す例は、指導の段階を必ず組み合わせるようにしたものです。さらに、段階の時間配分を必ずして、両学年に個別指導の時間を設定できるように組み合わせています。

下学年段階	指導形態(わたり)		上学年段階
導入	直接指導	間接指導	導入
①展開	間接指導	直接指導	①展開
	※同時直接指導 →個別指導の場の設定		
②展開	直接指導	間接指導	②展開
	間接指導	直接指導	
終末	間接指導	直接指導	終末

○自力で解決するときに困難さを抱える児童に対して、自由にわたり歩きながら支援できます。

●直接指導できるため、教師主導になりすぎないように配慮します。

※「同時直接指導」の中でも、2つの学年を自由にわたり、個別に行う指導のことを「同時個別指導」と呼びます。

※「同時直接指導」については、14ページで説明しています。



指導展開例 ※G←グループ、直接指導(ぬりつぶしあり) 間接指導(ぬりつぶしなし)

留意点	下学年学習活動	学習形態	段階	指導形態		段階	学習形態	上学年学習活動	留意点
				直接指導	間接指導				
・見通しの確認 ・進め方の確認	1課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える (4)見通しをもつ	全 ↓ 個	課 題 把 握			課 題 把 握	個 ↓ 全	1課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える (4)見通しをもつ	・前時までの学習の 掲示 ・教師による課題や 見通しの確認
	2課題を追究する (1)一人で追究する (2)ペア・グループで追究したことを確認し合う	個 ↓ G	課 題 追 究	同時 個別 指導		課 題 追 究	個 ↓ G	2課題を追究する (1)一人で追究する (2)ペア・グループで追究したことを確認し合う	・個人追究への教師 による支援
・間接指導時の児童の学習状況の把握 ・教師によるまとめ	3課題をまとめる (1)追究したことを発表する (2)まとめる 4 追究したことを広げる	全 ↓ 個	解 決 ・ 定 着			解 決 定 着	個 ↓ G	3課題をまとめる (1)追究したことを発表する (2)まとめる 4 追究したことを広げる	・リーダーの活用
	5学習したことを振り返る 6次時の学習内容を知る	個 ↓ G	適 用 発 展			適 用 発 展	全 ↓ 体	5学習したことを振り返る 6次時の学習内容を知る	・適用・発展状況の 確認

モデル2-3 指導の4段階は必ず、時間配分をずらして組み合わせる(共有の時間あり②)

類似単元指導などのように、単元によっては、両学年の学習内容を関連させて指導した方が理解を深められる場合があります。そのような単元の場合には、児童自ら関連する内容に気付くような場面を意図的に設定する指導過程を工夫します。工夫する際には、お互いの学習内容に共通性や関連性、また学びの連続性に気付かせるとともに、発展的な学習に深まりや広がりをもたせる共通思考の場を設定するようにします。このような指導過程で学習することを積み重ねると、複式学級に一体感が生まれ、学習意欲が高まるなどの効果が期待できます。

下学年段階	指導形態(わたり)		上学年段階
導入	同時直接指導A		導入
①展開	直接指導	間接指導	①展開
②展開	間接指導	直接指導	②展開
	直接指導	間接指導	
終末	同時直接指導B		終末

《同時直接指導Aの留意点》
 上学年と下学年の目標の関連付けを行い、共通点や相違点に目を向けさせます。
 →共通導入

- 学習内容の系統性や連続性等、両学年の学習内容を関連付け、学習の理解を深めさせる指導ができます。
- 交流場面を設定するため時間がかかります。指導内容を精選する等の工夫をする必要があります。

《同時直接指導Bの留意点》
 2つの学年の共通点や相違点について、それぞれの学年の立場から振り返りをさせます。
 →共通終末



同時直接指導

2つの学年に共有する時間を設定して教師が直接行う学習指導のことを「同時直接指導」と言います。その中で、ねらいを共有する導入指導のことを*「共通導入」、ねらいは別々に設定しますが、導入の段階は必ず行う場合は、*「同時導入」と呼びます。

また、まとめを共有する終末指導のことを*「共通終末」、学年相互で感想交流するなど、終末の段階は必ず行う場合は、*「同時終末」と呼びます。

モデル2-2のように、2つの学年を自由にわたり、両学年一緒に個別指導を行うことは*「同時個別指導」と呼びます。(*本冊子での呼び方)



指導展開例 ※G←グループ, 直接指導(ぬりつぶしあり) 間接指導(ぬりつぶしなし)

留意点	下学年学習活動	学習形態	段階	指導形態	段階	学習形態	上学年学習活動	留意点
・相互の課題の共通点や相違点を見付けさせる。	1課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える (4)見通しをもつ	全体	課題把握	共通導入	課題把握	全体	1課題をつかむ (1)既習事項を想起する (2)課題をつかむ (3)追究方法を考える (4)見通しをもつ	・相互の課題の共通点や相違点を見付けさせる。
・個への支援 ・発表の仕方を確認する。	2課題を追究する (1)一人で追究する (2)ペア・グループで追究したことを確認し合う	個人・G	課題追究		課題追究	個人・G	2課題を追究する (1)一人で追究する (2)ペア・グループで追究したことを確認し合う	・個への支援の用意 ・リーダーの活用
・リーダーの活用	3課題をまとめる (1)追究したことを発表する	G	解決		解決	全体	3課題をまとめる (1)追究したことを発表する (2)追究したことをまとめる	・間接指導時の児童の学習状況の把握 ・教師によるまとめ
・間接指導時の児童の学習状況の把握 ・教師によるまとめ	(2)追究したことをまとめる 4追究したことを広げる	全体・個人	定着		定着	個人・G	4追究したことを広げる	・個への支援の準備 ・リーダーの活用
・相互のまとめを共有し、共通点や相違点に気付かせる。	5課題をまとめたことを共有する 6次時の学習を知る	全体	適応・発展	共通終末	適応・発展	全体	5課題をまとめたことを共有する 6次時の学習を知る	・相互のまとめを共有し、共通点や相違点に気付かせる。

学年の内容を意図的に関連付けた指導は、どんな単元でも行うことができるわけではありません。同系統の学習内容を、異程度に扱う指導のできる単元を選択して効果的に行わなければなりません。特に大切なことは、「どんな力を身に付けさせるために」「何を」「どんな方法で」関連付けるかということです。

そのためには、学習内容や学び方の系統性、連続性、関連性、発展性を明確にし、これまでに学習した内容を教師自身が整理する必要があります。

※異程度に扱う指導については、P7を参照してください。



■ 直接指導と間接指導のポイント

Q5

**「直接指導と間接指導」は、
どのようなことに留意すればよいのですか？**

1 直接指導のポイント

直接指導は、複式形態の授業において、一方の学年が教師から直接的に指導を受ける学習の仕方です。したがって、児童は単式の学習形態と同様に、教師と一緒に課題に向かって安心して学習を進めることが出来ます。しかし、この直接指導は、児童だけで学習を進める間接指導と密接に関係して行われるため、目的を明確にして指導に当たらなければなりません。

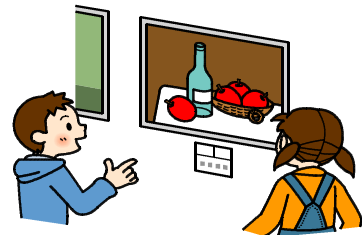
◇1 間接指導につなげる直接指導（直接指導から間接指導への橋渡し）

直接指導1（導入→展開①の場面へつづくとき）

直接指導が、展開場面へ続くときには、児童が自分の力で課題を解決するために、『課題の把握』や『解決の見通し』（時には『解決の方法』）まで、直接指導時に把握させることが必要です。児童が自分のもっている力を十分発揮し、主体的に学習に取り組むことができるよう、「何のために」「何を」「どのように」すればよいのか明確にしておきます。特に、展開場面に児童による話し合いを位置付ける場合には、その視点を確実に理解させる必要があります。黒板に話し合いの視点を記したり、話し合いのリーダーとなる児童に時間配分等を知らせるなど工夫します。

また、主体的に学習に取り組ませるためには、直接指導のときに「できそうだ」「やってみたい」というような学ぶ意欲を高めることも大切です。教材のおもしろさはもちろんですが、それ以上に自分を高めようとする意欲をもたせるための工夫をすることも大切です。

単式学級における導入時の留意点と違うところは、間接指導時に教師の支援が行えないことです。よって、教師の支援の代わりになる手立てを考えておくことが必要になります。



直接指導2（展開②→終末の場面へつづくとき）

直接指導が、終末場面（特に練習・活用・応用・発展的な活動等）へ続くときには、終末場面で課題のまとめを生かして学習を深めたり広げたりするために、その直前の直接指導時に「分かった・できた」という実感をもたせることが大切です。単式学級における一斉指導とは違って、児童だけで学び直すことは大変難しいことです。困った時に友だちに相談できる環境を整えておいたり、後で教師が必ず評価する時間を設ける等の工夫をすることが必要です。

また、短い時間の中で分かる指導を行うためには、児童の学び方も大変重要になってきます。直接指導時に、学び方をきちんと身に付けさせ、無駄のない学習の時間を過ごすことを心がけます。

間接指導が順調にいくようにとの配慮から、直接指導時に丁寧な手立てをとりすぎたり、支援となるものを与えすぎたりしないように注意しましょう。


◇2 間接指導からつながる直接指導（間接指導から直接指導への橋渡し）

直接指導3(展開② 一人学びやペア・グループの話合い直後)

間接指導時に、児童の『自分の力で解決した方法』や『つまづいたこと』『話合いで見出したまとめの糸口』等を受けて直接指導を行うときには、教師が見とれていないそれまでの活動を的確に把握することが必要です。

どんな方法で解決したのか、どんなことにつまづいたのかを工夫して把握するようにします。

【算数科 5年 『小数のかけ算とわり算』における「学習リーダー」を活用した例】

T	赤いリボンが2.4m, 黄色いリボンが1.8mのとき, 黄色いリボンは赤いリボンの何倍になったかみんなで話し合ってみましたね。 学習リーダーさん, その様子を教えてください。	<p>間接指導の間に、児童にどんなやりとりがあったのか、学習リーダーを使ってその様子を聞き出します。 教師は短い時間で、児童の考えやつまづきを把握することができます。</p> 
Cリーダー	AさんとBさんは, $1.8 \div 2.4$ と考え, CさんとDさんは, $2.4 \div 1.8$ と考えました。でも, Cさんたちは, Aさんがテープ図を使って説明したのを見て, 考えを変えました。	
T	CさんとDさんは, どうして考えを変えたのですか。	<p>リーダーからの報告のみにとどめず(児童だけの話合いをまとめにはせず), 教師からの支援により, それまでの考えをさらに深めさせるようにします。</p>
C	私は口を使って何倍かに当たる式を考えたのですが, Aさんのテープ図を見たら, 私の答えの大きさがおかしいことが分かったからです。	
T	みんなで考えて, どんなことがはっきりしてきましたか。	

この他にも、話合いの結果を黒板やノートに記す約束をする等、教師が見て取れない間接指導の児童の様子を見取る方法が考えられます。

直接指導4(終末 習熟や感想交流)

終末で行う直接指導は、1時間の学習内容を振り返り、練習して確実に定着したり、学んだことを交流してより深めたりする指導を行います。これらの活動を複式学級で行う場合には、人数の少なさを生かして一人一人の伸びを願った個別指導を行います。特に、学んだことを交流させる場合には、同時直接指導を行うなどして、上学年と下学年の学習にかかわりをもたせ、学習内容を深めたり広げたりすることができるようにします。

終末場面を同時直接指導で行う利点は、一見すると学年別でバラバラに学習しているように見える学習も、異学年交流をすることによって一体感をもたせた指導を行うことができることです。

2 間接指導のポイント

間接指導は、複式形態の授業において、一方の学年が教師から直接指導を受ける間、他の学年が自分たちの力で学習を進める学習指導形態です。したがって、児童は、教師の直接的な支援なしに個別、あるいは、グループで主体的に学習しなければなりません。

そこで、間接指導を行うときは、児童の学習活動が止まってしまうまいよう工夫する必要があります。また、自分たちの力で学習を解き進めるためには、学び方を確実に身に付けさせることが重要になってきます。さらに、直接的に指導はできないものの、個々の児童の学習への思いに沿った学びになるよう支援の仕方を工夫します。

間接指導時の学習が、児童にとって無理なく進められるためには、学び方を確実に身に付けさせることが大事です。以下に示した表は、学習過程に沿った学び方を児童に示す場合の例です。

《各段階における学習活動（○）やポイント（●），教師の支援（☆）》

<p style="text-align: center;">導 入</p>	<p>○前時のまとめの確認をして復習する。</p> <p>○前時の続きの活動を行い、先生の指示にしたがって進め解いていく。</p> <p>○本時の問題を読んで、課題を考え合う。</p> <p>○学習計画表から(前時の学習から)本時の課題を確認する。</p> <p>○解決の見通しをもつ(これまでの方法を使って追究する、初めての方法で追究する)</p> <p>○「何を」「何時までに」「誰と」行うのか、先生に確認する(一人で■分、ペアで■分、グループで■分、全体で■分)</p> <hr/> <p>●事前に学習計画表やノートの記事を見て、本時の学習内容を確認しておく。</p> <p>☆学習プリントに指示を書いたり、掲示を活用したりして支援する。</p> <p>☆学習の進め方を明確に指示する。</p>
<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>○自力で課題を追究する。</p> <p>○ペアやグループで課題の解決方法を話し合う。</p> <p>○課題に沿って、今日の学習の大事なことをまとめる。</p> <hr/> <p>●分からないことがある場合は、友だち(学習リーダー)にいつでも相談する。</p> <p>●先生が来たときに、どんな話し合いをしたか説明できるように記録をとっておく。</p> <p>☆学習リーダーに学び合いのポイントや時間配分を知らせておく。</p>
<p style="text-align: center;">終 末</p>	<p>○自分の力で不足しているところを明確にして練習する。</p> <p>○応用・発展問題にチャレンジする。</p> <p>○お互いの学年の関連について確認する。</p> <p>○学習を振り返り自己評価・相互評価する。</p> <p>○今日の学習を振り返って感想を書く。</p> <p>○感想を交流し、意見を言う。(他の学年とも交流)</p> <hr/> <p>☆練習・発展問題は児童で丸をつけられる工夫をしておく。</p>



◇1 間接指導1（導入）

既習の学習内容を活用して復習したり、前時に確認した課題に沿って解決を進めたり、自分たちで課題を新たに立てて解決を図ったりする活動が主に行われます。どの活動にしても、そこでの活動が、その後の直接指導で行う学習活動に生きるよう指導を工夫します。

◇2 間接指導2（展開）

間接指導の時間に、自力で課題を解決させるときは、その活動が止まってしまうように配慮することが大切です。活動が止まる要因として考えられることは、「①何をすればよいのか分からない、②解決の見通しがもてない、③解決につまずいた、④解決し終わり、活動することが見つからない」など、様々あります。もちろん間接指導でつまずかないように、その前の直接指導で「何を」「何のために」「どのようにする」のか明確に押さえさせることが重要です。

間接指導を行っている学年の活動は、とても気になります。しかし、思い切って児童に活動を任せ、自分たちでじっくりと考える時間を与えることが主体的に学ぶ力の育成につながります。気になるあまり、小まめに「わたり」の時間をとってしまうと両学年共に落ち着いた授業展開になってしまうので気を付けます。

◇3 間接指導3（終末）

練習問題や発展問題に取り組んだり、学習内容のよさに浸ったり、自己評価をしたりする活動が主に行われますが、本時の学習を振り返って自分の学習の足りないところを補ったり、さらに難しい問題に挑戦したり、生活に活用する(自分の生活と結びつける)など児童の積極的な活動を促したいものです。

また、終末が間接指導だけで終わることは避けるようにします。児童が目標に到達したかどうかの教師による評価や児童による自己評価・相互評価は、教師によって直接把握するようにします。

間接指導時に、児童が解決の参考になるような手立てには、様々な方法があります。直接指導時に確認した内容や間接指導時の指示等、直接指導の内容がいつでも振り返られるように工夫します。

単元全体を通した学習計画や、教科ごとの学習のポイント、これまでの学習の流れ等を掲示しておく、自力で解決する場合の支援として有効に活用することができます。



複式学級における学習指導を進めるために

授業理論編

目次

■ 授業づくりの手順	24
Q6 「授業づくり」は、どのような手順で行えばよいのですか？	24
1 ステップ1：学習内容の整理・分類	25
2 ステップ2：年間指導計画の見直しと修正	25
3 ステップ3：単元指導計画作成のポイント	26
4 ステップ4-1：学年別指導の授業づくり	29
5 ステップ4-2：類似内容指導の授業づくり	30

■ 授業づくりの手順

Q6

「授業づくり」は、 どのような手順で行えばよいのですか？

複式学級で授業を行うことには、多くのメリットがあります。2つの学年を同時に指導するという複式学級の特質を生かし、「学習内容や児童相互をつなげる指導」を行うことができることはそのよさの一つと言えます。それぞれの学年の学習内容をすり合わせ、上下学年が共に考え合うような「共通に思考する場面」をつくることによって、2つの学習内容の系統性、発展性、関連性、連続性等に気付きながら、学習を深めたり広げたりすることが可能になります。何よりも、児童に「異学年で、一緒に学習するおもしろさ」を体感させることができます。

目標が2学年まとめて示されている国語や社会等は、学年の組合せによっては(例えば1・2年, 3・4年, 5・6年の組合せ)、同じ教材を使って指導したり、教材は学年別々でもねらいを同方向に向けたり、言語活動を統一したりすることも考えられます。その場合、少人数であることを生かし、学年毎にというよりは、2年間の計画で一人一人を個別に指導することが大切になります。



また、学年の目標がそれぞれ明示されている算数や理科等は、系統性が明確であるため、指導計画や指導方法の工夫により、系統性をより強く意識させ、学びの連続性や発展性に気付かせる指導ができます。

このように複式学級のよさを生かした授業を行うためには、以下に示すステップで授業をつくります。

<p>ステップ1 学習内容の整理・分類</p>	<p>複式学級を構成する2つの学年の学習内容を、系統性や関連性という観点で整理・分類する。 ※ねらいを共通にすると効果のある学習内容を明確にする。</p>
<p>ステップ2 年間指導計画の 見直しと修正</p>	<p>整理・分類した2つの学年の学習内容を含む単元の組み合わせ方を考えるという視点で、年間指導計画を見直す。 ※児童の実態や学校の実情を考慮する。</p>
<p>ステップ3 単元指導計画作成の ポイント</p>	<p>学習内容や学び方の系統性や関連性等を考慮して、単元の指導計画を立てる。 ※単元の中でも特にすり合わせたい場面を考慮する。</p>
<p>ステップ4-1 学年別指導の授業づくり</p>	<p>それぞれの学年の系統性を重視した授業づくりを行う。 ※同時導入や同時終末を取り入れ、学級としての一体感をもたせるよう配慮する。</p>
<p>ステップ4-2 類似内容指導の授業づくり</p>	<p>2つの学年の内容に共通性を見出し、協力しながら学習を深めたり広げたりできる授業づくりを行う。 ※共通導入や共通終末を取り入れる工夫をする。</p>

1 ステップ1:学習内容の整理・分類

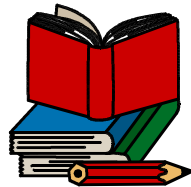
はじめに、1年間に学習する両学年の単元を、「系統性、発展性、関連性、連続性等がある単元とない単元」に整理・分類します。

【表1】は、第2学年と第3学年の算数科単元を配列したものです。(使用教科書—東京書籍 平成24・25年度版)

★印の付いた単元は、系統性、発展性、関連性、連続性等を考慮して指導できる単元を表しています。

単元のほとんどが、かかわらせて指導できる内容であることが分かりますが、指導時期には、かなりのずれが見られます。例えば、第2学年の「ひょうとグラフ」は4月に指導する計画ですが、第3学年の「ぼうグラフと表」は3月が指導時期です。

そこで、この中から共通のねらいをもって指導した方がよい単元を選択し、年間指導計画を作成します。そのために、目標を確認します。



【表1】第2学年と第3学年の単元配列表—1(算数科)

教科書通りの単元配列表(算数科)	
第2学年	第3学年
★「ひょうとグラフ」	★「かけ算」
★「たし算のひっ算」	★「時こくと時間のもとのめ方」
★「ひき算のひっ算」	★「長いものの長さのはかり方」
★「長さのたんい」	★「わり算」
★「3けたの数」	★「たし算とひき算の筆算」
★「水のかさのたんい」	★「暗算」
★「時こくと時間」	「あまりのあるわり算」
★「計算のくふう」	★「大きい数のしくみ」
★「たし算とひき算のひっ算」	★「かけ算の筆算(1)」
★「長方形と正方形」	「大きい数のわり算」
★「かけ算(1)」	★「小数」
★「かけ算(2)」	★「重さのたんいとはかり方」
★「4けたの数」	★「円と球」
★「長いものの長さのたんい」	★「分数」
★「たし算とひき算」	★「口を使った式」
★「分数」	★「かけ算の筆算(2)」
★「はこの形」	★「三角形と角」
	★「ぼうグラフと表」
	「そろばん」

2 ステップ2:年間指導計画の見直しと修正

◇1 目標を明確にする

教科の目標と学年の目標の両方を視野に入れ、具体的な目標を設定します。2学年の目標をすり合わせる場合には、教科の目標のように大きくくりで考え、総括的に全体の目標をとらえることが必要になります。

◇2 指導内容とその系統性を明確にする

まず、取り上げる単元の内容が、学習指導要領のどの部分に対応するかを明らかにします。そして、その単元の内容が系統的に見てどのような位置付けにあるのかを明確にし、両学年の組合せを考えます。

◇3 児童の実態把握

児童の実態をよくとらえ、組合せを考えます。例えば、6年生のかけ算学習に復習を必要とする児童が多ければ、5年生のかけ算学習にかかわる単元と組み合わせて指導するようにします。

◇4 単元配列の組替え

今ある年間指導計画を見直す場合の視点は、例えば、以下のようなことが考えられます。

- ① 児童の実態から、重点的に指導した方がよい領域や単元を選択する。
- ② 学校の研究の重点を考慮して選択する。
- ③ 単元の指導時数を考慮して選択する。

見直しの手順は、はじめに【表2】のように、年間の指導単元の中から内容をすり合わせて指導した方がよい単元を決定し、この単元の指導時期をそろえます。その際には、教科書の単元内容がそれまでの学習内容をふまえて積み重ねられて展開されていることに留意することが必要です。

次に、学年別指導を行う他の単元の配列を考えて、現在の年間指導計画を見直し修正します。

【表2】第2学年と第3学年の単元配列表ー2(算数科)

指導時期をそろえて配列する単元(算数)	
第2学年	第3学年
「ひょうとグラフ」	「ぼうグラフと表」
「時こくと時間」	「時こくと時間のもとめ方」
「たし算のひっ算」 「ひきざんのひっ算」	「たし算とひき算の筆算」
「3けたの数」	「大きい数のしくみ」
「正方形と長方形」	「三角形と角」
「長いものの長さのたんい」	「長いものの長さのはかり方」

◇5 単元の組合せ

【表3】 第1・2学年 国語年間指導計画例(一部)

月	第1学年	第2学年
4	◇あさ	◇ふきのとう
9	◇うみのかくれんぼ	◇どうぶつ園のじゅうい
	(言語活動) クイズ大会をひらこう (指導事項) 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと	
	※1年生は、うまくできなくてもよい。教師がたくさんかかわって指導する。	※2年生は、教師の手を借りずに行えるようにする。身に付けた力を生かして1年生に教える。

国語のように2学年まとめて示されている教科の場合には、両学年に同じ(または似たような)言語活動を位置付けられる単元を組み合わせます。言語活動を同じにし2年間繰り返すことによって、指導事項の理解を深めたり、児童に自分の進歩を感じ取らせたりすることができます。

【表3】は、第1・2学年の年間指導計画の一部例です。言語活動を同一にしますが、それぞれの学年で何をどこまでねらう学習を行うのか、児童自身にも理解させることが大切です。

3 ステップ3:単元指導計画作成のポイント

組み合わせで指導する単元決定後は、2つの単元の「何を」「どの時間に」「どのように」組み合わせで指導すると効果的か検討します。一緒に組み合わせで指導した方がよい内容には、たとえば以下のようなものがあります。指導時数も加味しながら、組合せできる範囲内で計画します。

- 目標
- 指導内容とその系統性
- 児童の実態把握
- 言語活動
- 解決方法
- 日常生活への活用の仕方



◇1 単元指導計画例—1 (学年別指導)

以下の表は、国語科の説明的文章、第5学年「生き物は円柱形」と第6学年「生き物はつながりの中に」を学年別で指導する場合の単元指導計画案です。この計画では、第6学年は単元導入の1時間を第5学年の前単元と組み合わせます。また、第5学年の単元終末の2時間は、第6学年の次単元と組み合わせます。特に共通して指導する時間は設けず、それぞれの指導内容をそれぞれの学年に指導する計画です。

学年別指導の例： 国語科 第5学年「生き物は円柱形」 第6学年「生き物はつながりの中に」

第5学年		第6学年	
【単元名】		【単元名】	
筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう		文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう	
【教材名】		【教材名】	
「見立てる／生き物は円柱形」(光村図書)		「感情／生き物はつながりの中に」(光村図書)	
【単元目標】		【単元目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 要旨をとらえて自分の考えを明確にしながらか読み、筆者の考えや文章の書き方について感想を発表し合って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 文の構成、文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 筆者の意図を考えながらか読み、筆者がこの文章を通して読者に何を伝えたいのか、筆者の考えを推察することができる。 筆者の意図を推察し、自分の考えを推察し、筆者の考えと交流することができる。 	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
	前単元	1	・今までの文章の読み方を振り返り、「文章と対話しながら読み、自分の考えをもつ」という学習課題を設定する。
1	・単元名やリード文を読み、学習の見通しをもつ。 〈「見立てる」〉 ・題名について話し合い、全文を音読する。	2	・学習の見通しをもつ。
2	・文章全体の構成をつかむ。	3	・「感情」を読み、問題提起に沿って筆者の意図を読み取り、自分の考えをまとめる。
3	・事例の挙げ方をもとに、筆者の説明の仕方について話し合う。	4	・「感情」で学習したことをモデルに「生き物はつながりの中に」を読み、筆者の意図を予想する。
4	・要旨をまとめる。	5	(5～7ままとまりごとに生き物の特徴を読み取る。) ・問題提起の文から読みの視点をもつ。 ・文章全体の大まかな構成をつかむ。
5	〈「生き物は円柱形」〉 ・題名について話し合い、全文を音読し、感想を書きまとめる。	6	・生き物の特徴について自分なりにまとめる。
6 本 時	・文章全体の構成をつかむ。	7 本 時	・本物のイヌとロボットのイヌとの違い、比べられていることを文章に沿って考え、生き物の特徴をまとめる。
7	・筆者の説明の仕方の工夫について話し合う。	8	・文章全体を通した筆者の考えをまとめる。
8	・要旨をまとめる。	9	・筆者の考えに対する自分の考えを簡単にまとめる。
9	・「生き物は円柱形」を読んで自分が考えたことを書きまとめる。 ・重文を単文に、単文を重文にする。	次単元へ	
10	・書いたものを発表し合う。 ・本の紹介を聞く。	第6学年の「次単元」と組み合わせ て指導する部分。2時間	

第5学年の「前単元」と組み
合わせて指導する部分。1時間

第6学年の「次単元」と組み
合わせて指導する部分。2時間

◇2 単元指導計画例—2（類似内容指導）

以下の表は、国語科の説明的文章、第1学年「みいつけた」と第2学年「どうぶつ園のじゅうい」を組み合わせた単元指導計画案です。両学年の言語活動を統一し、単元の導入と終末には「合同で行う学習活動場面」を設定しています。このようにすると、児童が学習のゴールをとらえやすくなり、また、自分の学習する内容の系統性や発展性を把握しながら共に学習を進めることができます。

学年別指導の例： 国語科 第1学年「生き物カードをつくろう」 第2学年「一日の仕事紹介カードをつくろう」

第1学年			第2学年		
【単元名】			【単元名】		
「生き物カード」をつくろう			「一日の仕事紹介カード」をつくろう		
【教材名】			【教材名】		
「みいつけた」 (光村図書)			「どうぶつ園のじゅうい」 (光村図書)		
【単元目標】			【単元目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の順序に気を付けて、大体的内容を読み取ることができる。 ・文章の内容と自分の経験を結びつけて意見を発表し合うことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、獣医の仕事やそのわけを読み取ることができる。 ・文章の中の大事な言葉を書き抜き、自分の経験と結びつけて、感想を伝えることができる。 		
【単元を貫く言語活動】			【単元を貫く言語活動】		
「いきものカード」を紹介しよう			「身近な人の一日の仕事」を紹介しよう		
【指導計画】			【指導計画】		
次	時	学 習 活 動	次	時	学 習 活 動
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にいる小さい生き物について話し合い、学習への意欲をもつ。 ・「いきものカード」をつくり、みんなで交流するという学習の見通しをもつ。 (1・2年生合同)	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・動物園について知っていることや、様子について話し合う。 ・身近な人の一日の仕事を紹介し、交流するという学習の見通しをもつ。 (1・2年生合同)
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」の文を読み取る。 ・だんごむしの見つけ方を「どこにいるのか」「どんないきものか」「どうしたら見付けられるのか」の3点に注目して読み取る。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の大体を読み取り、文章を三つの大きなまとまりに分ける。 ・獣医さんの仕事とわけを読み取る。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・せみの見つけ方を「どこにいるのか」「どんないきものか」「どうしたら見付けられるのか」の3点に注目して読み取る。 		3	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうぶつ園のじゅうい」に関する仕事を読み取る。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ばったの見つけ方を「どこにいるのか」「どんないきものか」「どうしたら見付けられるのか」の3点に注目して読み取る。 		4	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な人の一日の仕事」に関する仕事を読み取る。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの生き物について、「知って知ったこと」をまとめる。 		5	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な人の一日の仕事」に関する仕事を読み取る。
3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきものカード」をつくる手順や調べ方を知る。 ・だんごむし、せみ、ばったの中から選んで生き物カードにまとめる。 	3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・一番ひきつけられたところをもとに感想を書き、「じゅういさんの仕事紹介カード」にまとめる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書きたい生き物を決め、生き物を探したり、「いきものカード」を書いたりする。 (1・2年生合同)		7	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の中から紹介したい仕事を見付け、カードに書く。 (1・2年生合同)
	8			8	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきものカード」を発表する。 (1・2年生合同)		9	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な人の一日の仕事」を紹介する。 (1・2年生合同)

1・2年合同で指導する部分。

- 導入1時間
- 終末3時間

国語科の類似内容指導は、共通部分を見出して指導することだけでなく、同じ目標に向かって協同で学習する意識をもたせる計画を立てるようにすると効果的です。





5 ステップ4-2:類似内容指導の授業づくり

類似内容指導は、単元の学習内容が類似している単元を組み合わせることで指導する方法です。同単元指導の中の指導法の一つで、共通のねらいを設定する等の工夫により、学習内容を深めることが期待できます。

◇1 同単元指導の効果

複式学級において共通する内容や類似的な内容を用いて指導することを同単元指導と呼んでいます。『小学校複式学級指導資料 算数編』文部科学省(1995)P.24には、同単元指導には、以下に示すような効果があるため、年間指導計画には、可能な範囲で同単元指導を取り入れて行くことが望ましいと記されています。以下にその効果を表にまとめて示します。

- 異なる学年の児童が同じ雰囲気の中で学習を進めていくことができる。
- 下学年の児童にとっては学習についての発展的な見通しをもつことができる。
- 上学年の児童にとっては既習事項と現在学習している内容との関連が明らかになり、理解を一層確実なものとするができる。

さらに、『小学校複式学級指導資料 算数編』文部科学省(1980)P.4では、「同単元指導」の利点を次のように述べています。

- ア 上・下2個学年にわたって類似または同系統の内容で単元を編成し、そこに共通した数学的な考え方や原理が押さえられるようにする。これに相当するものを「共通のねらい」といっている。これを通して、核となる考え方や原理を浮きぼりにして、学習指導が徹底されるようになる。
- イ 学習の導入時に、上・下2個学年に同一の素材を与えることができ、その中から上・下学年に適切な課題を取り出す、といった展開が可能となる。このとき、学級全体が共通の学習をしているという一体感が生じやすく、よい雰囲気をつくることができる。この方法は、学習のまとめの時期にも、取ることができる。また、両学年の学習形態をそろえやすいという利点がある。
- ウ 類似、または同系統の内容を学習させるために、教師がいわゆる「わたり」を行うにあたって、頭の切り替えがしやすい。また、教材研究や教材の準備も効率よくできて便利である。

◇2 「共通のねらい」の場を設定する意義

『小学校複式学級指導資料 算数編』文部科学省(1980)P.16では、「共通のねらいを考えることの意義」について次のように述べています。

算数は、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4領域について、系統的、発展的に学習しうるよう各学年の指導内容が構成されている。しかも、それを個々の内容の面から見ると、上学年で指導される内容は、常に下学年の学習内容を含みながら、次第に概念を深め、一般化や抽象化が進められるような方向で組み立てられているのである。したがって、隣接学年においては、当然程度の差はあるにしても、それらの内容に関する原理的な面や、数学的な着想などの面に目を向けていけば、共通点を見

出せる面がかなりある。

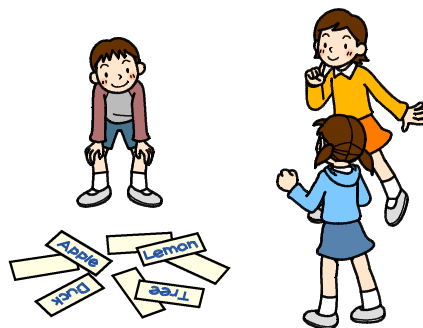
もちろん、具体的な指導内容は学年によって異なるし、発達段階や生活経験等の差も考慮しなければならないので、全ての内容について共通点にたった扱いをすることはできない。しかし、できるだけ前記のような点に着目すれば、「共通のねらい」をとらえて指導する機会は、比較的設けやすいと言えよう。

また、算数科のねらいとして、数学的な見方、考え方を育てることが重要であるが、それは本来個々の指導内容に限定されるものではない。もちろん、それらの見方、考え方に関する基礎的、基本的な事柄は、当該学年の具体的な内容に即して指導されるわけであるが、学年の枠にこだわらずに自由に思考を働かせ、他の内容についてもそのような見方、考え方を活用しようとしていくことは、むしろ望ましいことである。

特に、その見方、考え方は個々の児童によって様々であり、低次なものからより進んだものまで、必ずしも学年差によらない場合がしばしばある。それらの児童の考えが相互に働き合うことによって、より望ましい見方、考え方を身に付けていくこともできる。「共通のねらい」を考えていくということは、そのような算数のねらいにつながる望ましい機会を児童に与えることになると言えよう。

国語科においても、同じように「共通のねらい」の意義を見出すことができます。国語科では、もともと、各学年の目標を2学年まとめて示しています。それは、児童の発達の段階や中学校との関連に配慮しつつ、学校や児童の実態に応じて各学年における指導内容を焦点化し、十分な定着を図ることをねらいとしているからです。ですから、1・2年、3・4年、5・6年という組合せの複式学級で目標を共有することは、算数科同様、国語科のねらいにつながります。

複式学級における指導計画の立て方はいろいろ考えられますが、同単元指導を可能な限り取り入れ、できるだけ「共通のねらい」を考えて指導するような配慮が大事です。

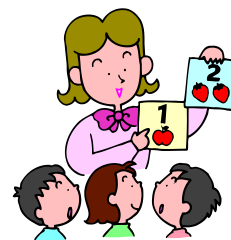


◇3 「共通のねらい」を設定した授業づくり

まずは、2つの単元の指導内容の「何を」「どの時間に」「どのように」すり合わせて指導するか考え、単元指導計画を立てます。その場合に大事なことは、共通思考させる内容を何にするかということです。

共通思考させる内容は、例えば次のようなことが考えられます。

- 指導事項や指導内容
- 言語活動や算数的活動
- 解決方法(見通しのもち方, 考え方等)
- 日常生活への活用の仕方



◆ここからは、具体的な単元を想定して「類似内容指導の授業づくり」を説明します。

■ ステップ1:「共通思考」する内容を検討する

事例：[想定] 2年「三角形と四角形」
3年「三角形」

まずは、学習指導要領から2つの指導内容のねらいを確かめます。この単元は、両学年共に「図形を構成する要素に着目させ、図形について理解すること」をねらいとしています。したがって、図形についての観察や構成などの算数的活動に共通性をもたせ、常に学習内容や解決方法を共有しながら思考する活動を繰り返します。こうすることによって、図形に関する意味理解を深めさせます。また、教科書の単元相互の内容を見比べると、学習の進め方が似ていることが分かります。図形領域の学び方を児童自身に理解させることによって、図形を学習する手順や解決方法を繰り返し身に付けているということを意識させることができます。

このように、学習指導要領のねらいをよくすり合わせたり、教科書の内容を吟味して、これから学習する内容やその学び方にどのような系統性や連続性がありそうか検討し、共通思考する内容を決定します。

【共通思考する内容】

指導内容：図形を構成する要素

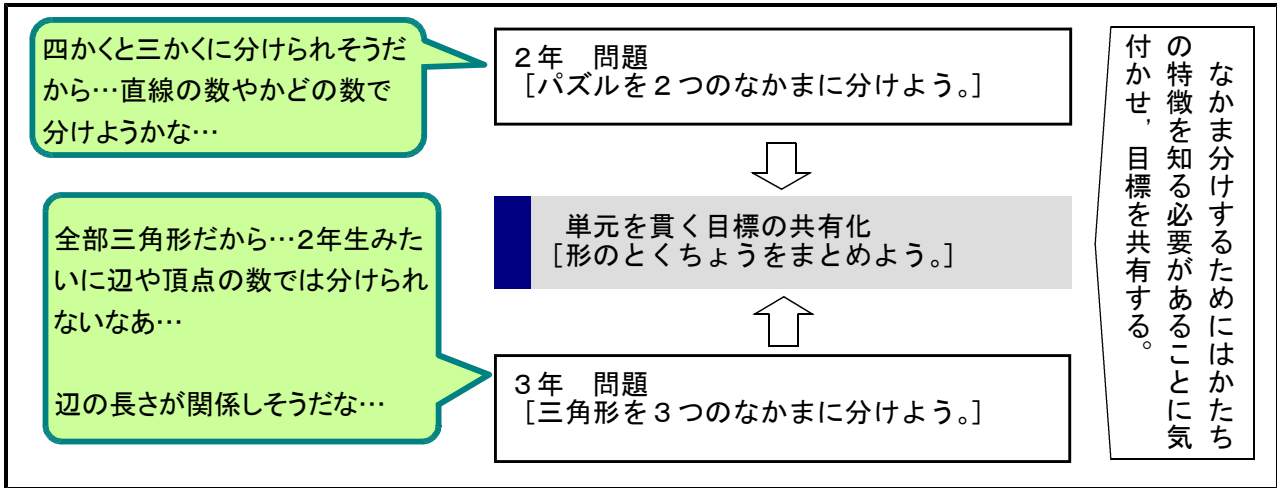
解決方法：要素を見付け出す方法

■ ステップ2:共有する目標を検討する

共通思考させる内容が決まったら、2つの単元のどの場面で、どのように共通思考させるか考えて単元の指導計画を立てます。また、単元のプロローグに、両学年の指導内容につながるこれまでの学習を振り返って両学年一緒に復習したり、今後の見通しをもたせたりする時間をとり、協同で学習を深める意識をもたせま

す。
想定したこの単元の導入場面では、2年生は「タングラム」を2つに、3年生は「円の中につくった三角形」を3つ『仲間分けすること』を共通の算数的活動とします。2年生はタングラムの形から「三かく」と「四かく」に分けることに気付かせ、辺の数や頂点の数に着目させます。3年生はつくった形がどれも三角形であることから、2年生のように数では仲間わけできないことをとらえさせ、辺の長さに着目することに気付かせます。このように、仲間分けをするためには、どちらも形の特徴をとらえる観点が必要なことに気付かせ、目標を共有します。扱う形はそれぞれ異なりますが、単元全体を貫いて[形の特徴をまとめるために学習をする]という意識をもたせま

【目標の共有化】



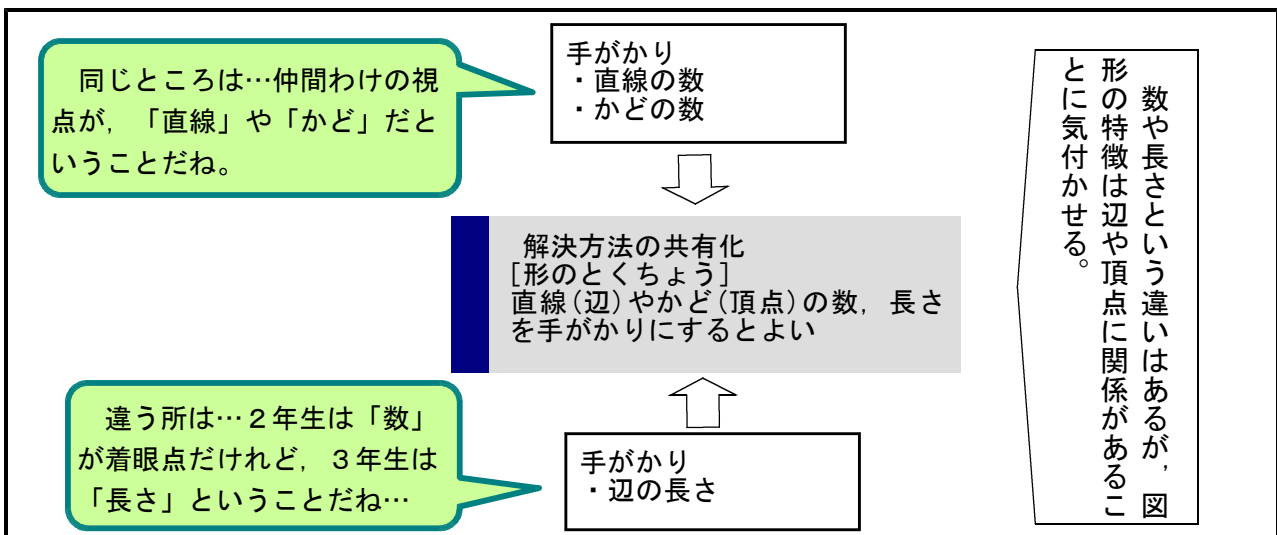
導入段階で目標を共有すると、「意図的にお互いの課題を考え合い、系統性を見付けようとする」数学的な見方や考え方を高めようとする力が育ちます。

ステップ3: 共有させる解決方法を検討する

お互いの「解決方法」に共通性を見出し、その解決方法が「何を」「どのように」思考するときに見えるものなのかを一緒に整理する場面を設定することによって、単学年で整理するよりもより一層「解決方法」を吟味したり、習得したりすることが期待できます。今後新しい問題に出会ったときに、「この学習だったらこの方法」で解き進めればよいというように、解決方法を共有します。

想定したこの単元では、終末場面の共通思考内容を、「それぞれの形をなかま分けした手立ての共通点は何か」に置きます。なかま分けするときの手がかりが、どちらも「辺」や「頂点」に関係があることに気付かせ、
「図形を学習するときには、辺や頂点に視点を当てて考えればよい」というように解決方法を共有します。

このように解き方を一般化することによって、この先学習する図形がどんな形であろうと、辺や頂点を手がかりにすると、三角形や四角形に分けたり、その特徴をまとめたりすることができるようになります。



ステップ4: 1単位時間の流れを考える

【授業展開案】

この指導の1時間の流れには、基本的に「共通導入」「共通終末」場面を位置付けます。

第2学年		第3学年		
経過	学習活動	学習活動	支援・と評価★	
導入	<p>「仲間分け」することを、共通の算数的活動とし、図形学習の学び方に連続性があることに</p> <p>・なかま分けする活動を通して、なかま分けには、手がかりが必要であることを気付かせる。(色、形、直線の数、かどの数)</p> <p>・なかま分けする場合に、既習の形(三角、四角)に着目することが自然であると思われるので、三角と四角になかま分けした後に、その形の特徴をこれまでに学習してきたことば(直線・かど)を使って説明するという学習の見直しをもたせる。</p> <p>共通のねらい</p> <p>・両学年共に形の特徴をまとめるという共通点に気付かせ、3年生の学習にも関心をもたせる。</p>	<p>いろいろな</p> <p>パズルを2つのなかまに分けましょう。</p> <p>②1つ1つの形に着目して、2つに分ける方法を考える。</p> <p>・三角形と四角形に分ける。 ・直線の数で分ける。 ・かどの数で分ける。</p> <p>2. 課題把握</p> <p>三かくと四かくのとくちょうをまとめましょう。</p> <p>①二かくと四かくになかま分けする</p> <p>目標を共有します。</p> <p>の見直しをもつ。</p> <p>〈同じ所〉 形のとくちょうをまとめる 〈ちがう所〉 手がかり</p>	<p>「共通導入」を設定し、ねらいを共有します。</p> <p>仲間分けをするためには、両学年共に「形の特徴をとらえる観点」が必要であることを話し合います。←共通思考</p> <p>特別な三角形の特ちょうをまとめましょう。</p> <p>①辺の長さでなかま分けする。 ②特別な形の特徴を辺の長さを手がかりにしてまとめるといふ学習の見直しをもつ。</p> <p>共通のねらい</p> <p>・三角形をさらに分類整理するという学習の見直しをもたせると共に、2年生との違いにも目を向けさせる。</p> <p>・両学年共に形の特徴をまとめるという共通点に気付かせ、学習の関連性に着目した学習の素地をつくる。</p>	<p>の円を使っていることを通る「三角形は、まかれた形(辺が3頂点がある)」を想起させる。</p> <p>・なかま分けの手がかりが「辺の長さ」であることを気付かせる。</p> <p>共通のねらい</p> <p>・三角形をさらに分類整理するという学習の見直しをもたせると共に、2年生との違いにも目を向けさせる。</p> <p>・両学年共に形の特徴をまとめるという共通点に気付かせ、学習の関連性に着目した学習の素地をつくる。</p>
	展開	<p>3. 課題を解決する</p> <p>・なかま分けした形の特徴を2つの視点から考える。</p> <p>〈直線の数に目をつけると〉 三角は直線の数が3本の形 四角は直線の数が4本の形</p> <p>〈かどの数に目をつけると〉 三角はかどの数が3つの形 四角はかどの数が4つの形</p> <p>・考えを伝え合う。</p> <p>4. 本時の学習をまとめる</p> <p>キーワード 三かく→直線3本 かど3つ 四かく→直線4本 かど4つ</p> <p>5. 本時の学習を習熟する(ペア学習)</p> <p>様々な三角や四角をキーワードを使って説明しよう。</p> <p>共通まよめのねらい</p> <p>・分けた形や分ける手だては違うが、なかま分けをするときは、形の特徴を調べる方法の一つであることを押さえる。</p>	<p>3. 課題を解決する</p> <p>(1) 個人</p> <p>・できた三角形を辺の長さに着目してなかま分けする。</p> <p>・なかま分けした三角形の特徴を考える。</p> <p>・3つの辺のうち2本が同じ長さの三角形。 ・3つの辺のうち、3本とも同じ長さの三角形。 ・3つの辺が全て違う長さの三角形。</p> <p>(2) 集団</p> <p>・考えを伝え合う。</p> <p>4. 本時の学習をまとめる</p> <p>特別な三角形の特徴をまとめる</p> <p>共通まよめのねらい</p> <p>・分けた形や分ける手だては違うが、なかま分けをするときは、形の特徴を調べる方法の一つであることを押さえる。</p>	<p>・分らないときには、友達に相談してもよいという指示を出しておき、活動が停止しないよう配慮する。ただし、その場合は、誰のどんなヒントで解決できたか記録させるようにし、指導に生かす。</p> <p>・学習リーダーを中心にして、学び合わせるが、リーダーには、話し合いの視点を事前に伝えておくようにする。</p> <p>共通まよめのねらい</p> <p>・分けた形や分ける手だては違うが、なかま分けをするときは、形の特徴を調べる方法の一つであることを押さえる。</p>
終末	<p>7. 学年間の関連を元</p> <p>共通まよめのねらい</p> <p>・上学年に感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。また、これから先に学習する内容に関心をもたせるようにする。</p> <p>8 学習を振り返る</p> <p>・本時を振り返る。 ・学習感想を伝える。 ・次時の学習内容を確認する。</p>	<p>5. 学年間の関連を見いだす</p> <p>共通まよめのねらい</p> <p>・上学年に感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。また、これから先に学習する内容に関心をもたせるようにする。</p> <p>6. 学習を振り返る</p> <p>・本時を振り返る。 ・学習感想を伝える。 ・次時の学習内容を確認する。</p> <p>共通まよめのねらい</p> <p>・上学年に感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。また、これから先に学習する内容に関心をもたせるようにする。</p>	<p>共通まよめのねらい</p> <p>・上学年に感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。また、これから先に学習する内容に関心をもたせるようにする。</p> <p>6. 学習を振り返る</p> <p>・本時を振り返る。 ・学習感想を伝える。 ・次時の学習内容を確認する。</p> <p>共通まよめのねらい</p> <p>・上学年に感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。また、これから先に学習する内容に関心をもたせるようにする。</p>	<p>共通まよめのねらい</p> <p>・上学年に感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。また、これから先に学習する内容に関心をもたせるようにする。</p> <p>6. 学習を振り返る</p> <p>・本時を振り返る。 ・学習感想を伝える。 ・次時の学習内容を確認する。</p> <p>共通まよめのねらい</p> <p>・上学年に感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。また、これから先に学習する内容に関心をもたせるようにする。</p>

複式指導充実のために

授業アイディア編

目次

■ 間接指導の児童の活動を支える指導の工夫	36
Q 7 「主体的に学ぶ子ども」を育てるために、どのような工夫が考えられますか？	36
1 リーダー学習	36
2 学習シートの活用	38
3 教室内環境の諸準備	39
4 板書の工夫	40
5 思考を広げる工夫	41
■ 人間関係を広げる指導の工夫	42
Q 8 「人間関係を広げる指導」には、どのようなことが考えられますか？	42
1 合同学習とは	42
2 集合学習とは	42
3 交流学习とは	42
4 人間関係を広げる指導の具体 1－合同学習	43
5 人間関係を広げる指導の具体 2－集合学習	44
6 人間関係を広げる指導の具体 3－交流学习	45

■ 間接指導の児童の活動を支える指導の工夫

Q7

「主体的に学ぶ児童」を育てるために、 どのような工夫が考えられますか？

1 リーダー学習

リーダー学習とは、小集団学習の一形態で、児童に自主的・主体的な学習態度を育成するために、児童の中から進行役を決め、間接指導時の学習をグループで行うものです。『21世紀を拓く教育シリーズⅡ 効率的な学習指導と学校・学級経営』全国へき地教育研究連盟編集(1999)P.35には、複式学級の間接指導でリーダー学習を取り入れることの意義を以下のようにまとめています。

- ・ 児童の自主的・主体的な学習態度の育成
- ・ 児童の学習の流れ(学習過程)の理解
- ・ 児童の学び方(自己学習力)の定着
- ・ 教師の学習指導へのゆとりと充実
- ・ 教師の指導観・授業観の改善
- ・ 複式学級の間接指導の充実
- ・ リーダー、フォロワーの役割や立場の理解

【リーダー学習とガイド学習の違い】

ガイド学習は、小集団学習の一形態で、児童の中から学習の案内役を決め、間接指導時の学習をグループで学習するという点ではリーダー学習とねらいは同じです。

異なる点は、ガイドの役割です。教師の指導の下に授業の内容を構造的に把握し、話し合い学習を促進したり、課題意識を強化したり、課題解決の効率化を図ったりする役目が求められます。

岩手県では、「ガイド学習」よりも「リーダー学習」の方が多くの学校で取り入れられています。

ガイド学習については、『21世紀を拓く教育シリーズⅠ 学習指導方法の工夫・改善』P.29～P.34に詳しく掲載されています。



◇1 学習リーダーの役割

学習リーダーは、基本的な学習の進め方を理解し、その進め方に沿って間接指導時に学習の進行役を行います。学習リーダーの主な役割は、例えば以下のようなことが考えられます。

- ・ 学習の流れにしたがって進行する
- ・ 話し合いの内容を整理する
- ・ 一人学びやグループ学習の時間の指示を出す
- ・ 間接指導時の学習の様子を教師に伝える
- ・ 話し合いや答え合わせのときに指名する
- ・ 困っている児童の相談役をする

※「話し合いの内容を整理する」とは、課題をまとめることではありません。

◇2 学習リーダー育成のポイント

学習リーダーは、その教科が得意な児童で、しかも統率力のある児童をイメージしますが、ここでいう学習リーダーとは、その役割を小学校1年生でも行うことができ、またその内容も、学級の誰もが行うことができるものを指しています。

学習リーダーを育成する場合には、以下のことに気を付けます。

- 学習リーダーは、「教師の代わりに授業を進める」ものではありません。
- 誰でも、ある型によって、進めることができるようにします。
- 輪番制で学習リーダーを交替し、児童全員に学習を進める力を育てます。

◇3 リーダー学習の進め方

学習を効果的に進めるためには、自分たちで学習を進めることへの意識を高めることが大切です。間接指導に限らず、複式学級で授業を進める場合には教師に頼らず自分たちで学習を進める自覚をもたせるようにします。

学習の進め方の例(高学年用) (～計算問題を追究する学習におけるリーダーの役割～)

○導入「問題把握」～「自力解決」の段階

- (a) 「問題を読んでください。」
- (b) 「昨日までの学習と違うところはどこですか。」
- (c) 「今日の課題を学習計画表で確認しましょう。」
- (d) 「課題に付け足したいことはありませんか。」
- (e) 「自分のめあてを書いてください。」
- (f) 「どんな方法で解けそうか考え、発表してください。」
- (g) 「自分の追究方法をホワイトボードに書いてください。○分になったら発表してもらいます。」

○展開1「定着(練り合い)」の段階

- (h) 「グループで話し合い、考えを整理してください。」
- (i) 「グループ毎の考えを発表してください。」
- (j) 「課題解決について、みんなで整理します。」

※高学年ならば、単なる発表会に終わらせず、考えを交流し合えるようにします。

○展開2「習熟・適用」の段階

- (k) 「練習問題をします。○○分までやってください。」

※丸付けは教師の用意したもので各自行えるようにします。

- (l) 「時間になりました。」
- (m) 「確かめをします。」

※練習問題を通して課題のまとめの再確認をします。

次年度から複式学級となる学級の児童には、前年度のうちに自主的に学習を進めるということについて意識化を図ったり、複式学級を構成する予定の児童を対象に複式指導を行う機会を設けたり、学習リーダーを立てた授業を行っておくと、次年度からスムーズに複式指導を開始することができます。



2 学習シートの活用

間接指導時の活動をスムーズに行うために、児童が、「何を」「どんな順序で」「どのように行えばよいか」分かるシートを作成します。学習の目的によって作り方は異なりますが、学習過程を指導する段階では、学習の流れがよく分かるように、教師の発問を明記します。児童同士で話し合う時間を設定する場合などには、話し合いの視点や時間配分を明記したシートを作成します。特に、間接指導の話し合いを把握したい場合には、話し合った内容を記入できるようにしておくといでしょう。

留意したいことは、学年の発達段階や児童の複式経験を考慮して、発展的に作成することです。いつまでも穴埋め形式のようなシートでは自分で考える力はなかなか身に付かないので気を付けましょう。

学習シート例：算数科 第6学年 「対称な形」

6年 算数学習プリント

ADEMNSZ

年 名前

問題 ひたたり重なるものと重ならないものに分けるよ！

7つの文字を2つの仲間に分けましょう。

課題 6年生と共通していることは何だろう？

6年生と違うところは何か？

調べた結果 ①Mと同じように「ひたたり重なる形」と「ひたたり重ならない形」に分けよう。
②どこで半分に折ったら、どこがひたたり重なったのか理由を説明する準備をしよう。

Mと同じようにひたたり重なる形は

理由を説明しよう

新しい視点

キーワード

Mと の形の持ちよう

①キーワードや新しく学んだ視点を使って、図形の特徴を説明しよう。
②ペアで説明し合おう。(友達の説明を聞いて、付け足したいことがあった時は、ホッペで書き足そう。)

【教師と一緒に学習する】

※間接指導で、児童が自分の学習を振り返って整理する学習を支える視点を示します。

【教師と一緒に学習する】

※直接指導で課題を焦点化し、間接指導のときに立ち返る視点を示します。

【学習リーダーを中心に自学する】

※どんな活動をすればよいか、内容を明確にします。

【学習リーダーを中心に自学する】

※本時の学習活動を通して教師と一緒に学んだことを、自分の力で整理する視点を示します。

学習シートは、どの部分を教師と一緒にやり、どの部分を自分たちで解き進めればよいか事前に知らせるようにします。

また、間接指導時に主体的に学習を進められるように、何をどのようにして解き進めればよいか、考えを支える視点や進め方をシートに示すようにします。



3 教室内環境の諸準備

複式学級は、直接指導や間接指導の移行がスムーズに行えるよう配慮して教室内の環境を整えます。児童の座席の配置や、黒板の位置と数、補助テーブルや教室内の壁面の活用の仕方、ICT機器の利用等を考慮します。

◇ 座席の工夫

児童の座席は、教科の特性や指導の意図を考慮して、学年別に配置したり、2つの学年を隣同士に位置付けたりします。

例えば、間接指導時に児童相互に学び合う時間を設定する場合には、座席は学年がまとまるように配置します。また、授業の終末場面に学年相互の感想交流を位置付けるような場合は、異学年が隣同士になるように座席を配置することも考えられます。このような座席配置の場合には、学年がまとまって話し合ったり、作業したりできるテーブル等を別に用意して実践している学校もあります。このテーブルは、教師ではなく児童がわたって学年別に学習する場所としても活用されています。

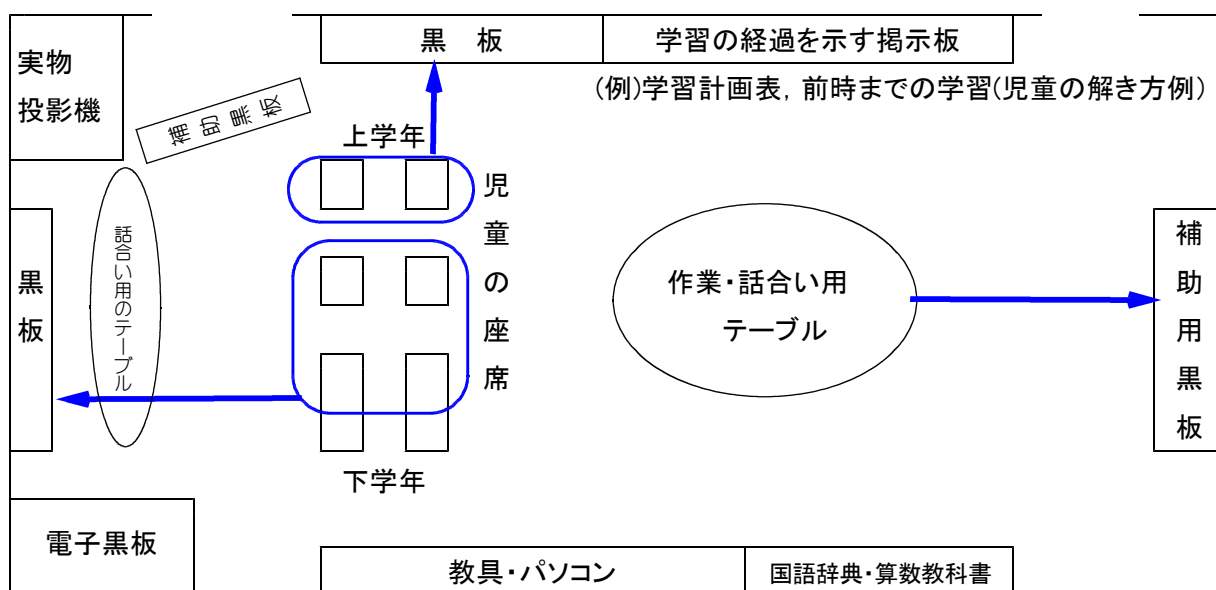
◇ 黒板の位置

学校の実態によっては、黒板の位置が「前だけ1枚」「前と後ろ2枚」「前と横2枚」等さまざまです。座席の位置や授業の意図を考慮して、児童にとって最適な位置を考えます。

共通導入や共通終末を位置付ける授業の場合には、共通のねらいやまとめが理解しやすいように前黒板1枚を使って板書すると効果的です。2学年分の学習内容を、1枚の黒板に書き表すことが難しい場合には、移動黒板を補助的に活用します。

※教具は、児童が自由に使えるように、それぞれの使い方の指導を徹底しておくことが必要です。

教室環境例



4 板書の工夫

2つの学年の学習内容を関連させて指導する場合には、板書の仕方も工夫します。共通のねらいをもって指導する場合には、1枚の黒板に、学習内容の系統性や学びの連続性を児童が理解できるように構造的に表すことが大切です。

板書例1：国語科 第3学年「わたしと小鳥とすずと」 第4学年「忘れもの」

【学習のゴール】おすすめの詩を紹介しよう。

【本時の課題】おすすめリーフを書いて、おすすめの木を完成させよう。

おすすめリーフのモデル

わたしと小鳥とすずと
金子みすず

詩を掲載

金子みすずの
詩を掲載

忘れもの
高田敏子

詩を掲載

高田敏子の
詩を掲載

場面の様子

- ・二期始業式の朝
- きもち・考え
 - ・夏休みが終わるのはさびしいけれど、二期もがんばろう
- 作者が伝えたいこと
 - ・たくさんの思い出を大切にしながら、前に進んでいこう
 - ・気に入った表現や、いいなあ、おもしろいなあと思ったところ
 - ・サヨナラのかわりに、素晴らしい夕立をふりまいて

性格がら

- ・明るい
- ・元気

作者が伝えたいこと

- ・みんなそれぞれにいいところがある
- ・気に入った表現や、いいなあ、おもしろいなあと思ったところ
- ・みんなちがって、みんないい

板書例2：算数科 第3学年「大きい数のしくみ」 第4学年「小数のしくみ」

第3学年	第4学年
<p>問</p> <p>新聞や広告から、数が10000をこえて表されている記事を探して読んでみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10000より大きな数があるんだなあ。 ・どれだけ大きな数があるんだらう。 <p>課</p> <p>10000より大きな数のしくみを調べよう。</p>	<p>問</p> <p>新聞や広告から、数が小数で表されている記事を探して読んでみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなところで、小数が使われているよ。 ・0.1より小さい小数があるんだなあ。 ・どれだけ小さな小数があるんだらう。 <p>課</p> <p>0.1より小さい小数のしくみを調べよう。</p>
<p>まとめ(大切な考え)</p> <p>数のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位取り → 何がいくつあることが ・何のいくつ分 → 大きさ、計算 ・数の線 → 大きさ、大きさを比べ (<, >) <p>学習計画</p>	
<p>10000より大きい数のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 書き方、読み方 位取りのひみつ 何を何こ集めた数が 大きさを比べ 計算(たし算、ひき算) 数のいろいろな表し方 <p>数の線</p>	<p>0.1より小さい小数のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> 書き方、読み方 位取りのひみつ 何を何こ集めた数が 大きさ比べ 計算(たし算、ひき算) <p>数直線</p>

5 思考を広げる工夫

学年の人数が少ないことが要因となり、集団解決場面で思考が深まりにくい場合があります。例えば、国語科学習で、友だち一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせたい場合や、算数科学習で、問題の解決方法を検討し合わせたい場合に、少人数のために交流を図りにくいことがあります。多くの考えに触れる機会を設けたい場合には、考える視点や方法を複数与えて一人でも多様に考えられるような支援をしたり、かかわらせる人や対象を増やす工夫を考えます。以下に、かかわらせる人や対象を増やす工夫について例示します。

◇ 教科書の活用

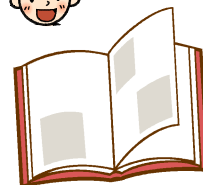
人数が少ないために、感じ方の違いに気付けなかったり、検討し合う意見が不足してしまうような場合には、教科書を活用する方法があります。

国語の教科書にも、算数の教科書にも、吹き出しを使って友達が考えを伝えようとしている場面があります。教科書の中の友達を、クラスの一員と考え、その考えに学んだり、ヒントにしたりして、学級の交流学習を深める一助とすることも可能です。

特に算数科では、複式学級に限らず教科書に書かれた友達の考えを図や式から読み取って説明することが、思考力や判断力を身に付けさせる上で有効な手立てとなります。

上から2けたの概数にするには、上から3つめの位で四捨五入すればいいんだ。

 たくみくん



◇ 校内の先輩の考えを活用



いろいろな考えに触れさせたい場合には、身近な先輩の考えに触れる機会をもたせるようにします。親近感がわくため、その考えを好意的に受け入れ自分の考えと比べながら考えを深めさせることができます。児童の思考を補うことができるよう、普段から児童の考えをストックし、共有できるようにしておきます。

常に少人数で学習している児童にとっては、多様な考えに触れる経験も必要ですが、それ以上に「自分と同じ考えの友達」の存在に気づき安心感を持たせることも大事なことです。

◇ 中学校区内の小学校との連携

集合学習や交流学習は、複数校が集合して学習する教育方法です。(資料42ページ参照) この方法では、同じ学年の人数が増えるため、多様な考えに触れることが期待できます。

また、実際に集合して学習しなくても、FAX等で考えをやり取りすることによって、より多くの同学年の考えに触れさせることもできます。

特に、同じ中学校区の小学校間でこのような児童の関係づくりを行っておくことは、中学校入学後の人間関係づくりにもよい影響を与えることが期待できます。



■ 人間関係を広げる指導の工夫

Q8

「人間関係を広げる指導」には、 どのようなことが考えられますか？

複式学級における学習指導は、少人数で学習することのメリットを最大限に発揮することが大切ですが、その後、中学校や高等学校、大学に進学したり、社会人になって働くことを考えると、多人数の中での経験も大切になります。そこで、人間関係を広げるために、校内体制を組織して「合同学習」を行ったり、他校と連携して「集合学習」や「交流学習」を行うことも県内各地で行われています。他の学級(学年)や他の学校の児童と共に学ぶ機会をもつ指導法を以下に示します。

1 合同学習とは

合同学習とは、学習においてある一定の集団が必要な場合や異学年集団による学習がより効果的であると思われる場合に行う指導方法です。同一校内の3つの学年以上(単式の学級では、2学級以上)の児童生徒で学習集団を編成するので、日常的な授業の一環として行うことが可能です。

2 集合学習とは

集合学習とは、その学校や学級単独では集団による学習活動が困難な場合に、近隣の二校以上の同学級の児童生徒または、各学校の全児童生徒を一カ所に集めて、各学校の教師の協力によって学習指導を行う指導方法です。実施するには、地理的な問題や経済的な問題があり、継続に当たっては難しい面もありますが、学習のねらいを達成させるために大切にしたい教育方法です。

特に、同じ中学校区内の小学校に所属する児童が集合して交流関係をもつことは、中学校入学後の早い段階で良好な人間関係を築くことに有効であると言えます。



3 交流学習とは

交流学習とは、学校規模や生活環境の異なる学校(小規模校と大規模校、国際姉妹校、山の学校と海の学校)や、異校種(同中学校区)同志が、姉妹的な関係を結び、それぞれの学校独自では体験できない学習や、生活をさせる指導方法です。交流学習をとおして、最終的には、お互いが相手の立場を思いやれるように、「豊かな人間形成のできる場」としてとらえていくことが大切です。

4 人間関係を広げる指導の具体1－合同学習

合同学習は、例えば、音楽科の合唱や器楽合奏、体育科のボール運動、図工の造形遊びなど、ある程度の集団を必要とする学習に効果的があります。ただし、同一校内で行うため、全校を一つの大きな集団としてとらえて効果を図ることと、各学年の発達段階を考慮してねらいに到達させる必要があります。

※学校行事(音楽発表会、学習発表会等)と連動させて指導することもできる。

〈事例1〉

【体育科における合同学習を取り入れた例】



合同学習

→

各学級で学習

合同学習

3年～6年で練習をする。
・共通のねらいを知る。

各学級毎に練習を行う。
・各学年のねらいを知る。

3年～6年でグループをつくり試合を
してみる。(練習・試合等)

〈事例2〉

【図工科における合同学習を取り入れた例】



合同学習

→

各学級で学習

→

合同学習

全校で学習する。
・共通の課題を知る。
・異学年によるグループを形成する。
・グループの目標を設定し、役割分担を決める。

各学級毎に学習する。
・学年のねらいに沿って
技能を磨く。

全校で学習する。
・グループ毎に造形活動を行う。
・グループで作成したものを発表したり、アドバイスし合ったりする。

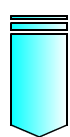
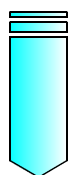
指導のポイント

- 単元の学習すべてを合同学習として考えるのではなく、あくまでも各学級あるいは各学年の学習を基本とします。
- 校内の教師間の共通理解のもと、各教師の役割を明確にし、展開します。
- 合同学習では、各学年の発達段階をふまえます。
- 低学年に過度な負担がかからないようにします。
- 中・高学年の指示通りの学習に終始しないようにします。

5 人間関係を広げる指導の具体2ー集合学習

同学年の児童の人数がある程度必要な「ゲーム、話し合い活動、相互評価活動、体験学習など」を行う場合に有効な学習活動です。実施される主なものとしては、生活、社会、理科、音楽、体育、総合的な学習の時間、外国語活動、特別活動などが考えられます。最近では、国語や算数などの教科でも実践している学校が増え、学習効果を上げています。

集合学習を行う手順(計画・実施・評価)



- 集合学習を行う共通のねらいについて学校間で確認する。
- 回数、期日、活動内容、当日までの日程、役割分担を決め、共通理解を図る。
- 事前に協同で指導案を作成・検討する。
- 事前事後で行う各学校毎の学習(分習)と集合して行う学習(全習)とを効果的に関連付ける。
- 児童の主体的な活動になるよう工夫する。

- 事前に自己紹介カードやメール・ファックス等でコミュニケーションを図る。
- 事前の分習では、相手意識や、目的意識をもって活動させる。
- 集合して行う学習では、チームティーチングを行う。
- 事後の分習を交流し合う場を設ける。

- 児童一人一人の変容の様子について交流する。
- 指導計画や指導方法を振り返り、次年度に向けての改善策を検討する。

指導のポイント

- 各学校共通の目標に基づいて学習を運営するための組織を作ることが必要です。運営にかかわっては、渉外・連絡・会計・輸送計画・記録などを担当する総務部と、指導内容の検討をする研究部が必要です。
- 「集団の拡大を図ることで、より効果的に目標を達成する」「経験、交流、視野の拡大が図られ、子どものもつ可能性を引き出し、活動意欲を高める」などのねらいを明確にして各学校のカリキュラムから内容を選び出し、構想を練ることが大切です。
- 全習(集合学習)と分習(各校での学習)の構成の仕方は、単元の構想によってそのパターンも様々です。単元を「問題把握」「問題追究」「問題解決(まとめ)」の三段階に分けるとすると、各段階のねらいに応じて全習をどの部分に取り入れるかが変わってきます。
- 集合学習は、全習と分習に分けて行うため、各学校の教師の共同体制を確立して行うことが大切です。指導の効果を上げるためには、協力教授(TT方式)の考え方を導入して、授業の充実を図ることが必要です。

6 人間関係を広げる指導の具体3—交流学习

規模や生活環境の異なる学校（小規模校と大規模校など）や異校種どうしが、姉妹校的な関係を結び、それぞれの学校単独では体験できない学習や、生活経験をさせる学習活動です。

同じ中学校に進学する大規模校との交流

少人数での固定的な人間関係を活性化することを主なねらいとしますが、それ以上に、交流学习で築いた他校の児童とのつながりは、中学校進学直後の生徒間の関係づくりの伏線となることを考えると大きな意義があると言えます。

学校の特徴を紹介し合うことを目的に挿入した交流

各学校の特色を生かし、最終的には、お互いが相手の立場を思いやることができる「豊かな人間形成」の場ととらえることが大切です。環境の異なった生活を、体験を通して学習し、経験させることによって、より広いものの見方、考え方、社会性を身に付けさせたいものです。

事前に、発表内容や生徒指導上の注意事項などについて、交流する相手の学校と十分協議した上で、準備を進めましょう。

指導のポイント

- それぞれの学校や地域の実態を事前に十分調査します。
- それぞれの地域のよさを尊重し、広い視野から地域の特色を理解させたり、さらに地域文化の向上に努めさせたりします。
- 交流するにあたって、移動にかかる手間や費用を最小限にするために、普通は小規模校が大規模校へ出かけることが多いですが、大規模校の児童が小規模校の様子を体験的に知ることも大切です。



複式学級における学習指導の具体例

資料編

目次

■ 資料編の見方	-----	47
■ 学習指導の具体例		
国語科	-----	48
算数科	-----	62
その他の教科	-----	88

資料編の見方

「資料編」では、県内で行われている授業実践事例を紹介しています。

1 構成

掲載している教科

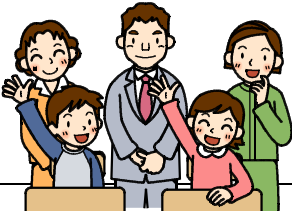
○国語科，算数科，その他の教科（社会科，音楽科）に分けて掲載しています。

各教科内の構成

○各教科毎に低学年，中学年，高学年の順に実践事例を掲載しています。

○実践事例は，見開き2ページで構成しています。

左ページ	右ページ
◇学年 ◇教科 ◇単元名 ◇単元目標 ◇単元指導計画	◇指導過程のモデル名 ←理論編P12参照 ◇本時の目標 ◇本時の展開



2 資料活用にあたって

- 目次から，教科別，学年別に見たい資料を選択できます。
- 記載された「指導過程のモデル名」から，モデルの特徴をどのように授業づくりに生かしているのか参考にしてください。
- 単元指導計画には，2つの単元のどの時間をすり合わせたか分かるように箱囲みしています。特に，「共通のねらい」を設定している実践は，展開案の中でその意図をよく理解した上で授業づくりの参考にしてください。
- 実践例の中には，そのまま活用できるものもありますが，学級の児童の実態をよく把握した上で，上学年や下学年の時間配分，指導段階の組合せ，指導形態，学習形態等を検討することをお勧めします。

国語科

目次

- | | | |
|-----|---|---------|
| (1) | 第1学年「みつけた」 第2学年「どうぶつ園のじゅうい」(モデル2-3) ① | -----49 |
| (2) | 第1学年「みつけた」 第2学年「どうぶつ園のじゅうい」(モデル2-3) ② | -----51 |
| (3) | 第2学年「たんぽぽのちえ」 第3学年「ありの行列」(モデル1-2) | -----53 |
| (4) | 第3学年「わたしと小鳥とすずと」 第4学年「忘れもの」(モデル2-2) | -----55 |
| (5) | 第5学年「生き物は円柱形」 第6学年「生き物はつながりの中に」(モデル2-3) | -----57 |
| (6) | 第5学年「大造じいさんとガン」 第6学年「やまなし」(モデル2-3) | -----59 |



第1・2学年 国語科単元指導計画

◇岩泉町立門小学校授業実践例

第1学年			第2学年		
【単元名】			【単元名】		
みんなでよもう			読んで考えたことを書こう		
【教材名】			【教材名】		
「みいつけた」 (光村図書)			「どうぶつ園のじゅうい」 (光村図書)		
【単元目標】			【単元目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の順序に気を付けて、大体の内容を読み取ることができる。 ・文章の内容と自分の経験を結びつけて意見を発表し合うことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、獣医の仕事やそのわけを読み取ることができる。 ・文章の中の大事な言葉を書き抜き、自分の経験と結びつけて、感想を伝えることができる。 		
【単元を貫く言語活動】			【単元を貫く言語活動】		
「みいつけたずかん」をつくらう			「おしごとせつめい書」を書こう		
【指導計画】			【指導計画】		
次	時	学 習 活 動	次	時	学 習 活 動
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にいる小さい生き物について話し合い、学習への意欲をもつ。 ・「みいつけた」に出てくる小さな生き物を確かめる。 ・「みいつけたカード」を集めて、「みいつけたずかん」をつくるという学習の見通しをもつ。 	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・動物園について知っていることや、様子について話し合う。 ・内容の大体を読み取り、文章を三つの大きなまとまりに分ける。 ・身近な人の一日の仕事を「おしごとせつめい書」で紹介し、交流するという学習の見通しをもつ。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」の文を読み取る。 ・だんごむしの見つけ方を、場所と見つけ方に着目して読み取る。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医さんの朝の仕事とわけを読み取り、表にまとめる。 ・朝の仕事とわけを読み、感じたことを友だちと交流する。
	3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・せみの見つけ方を、場所と見つけ方に着目して読み取る。 ・せみの「みいつけたカード」を書く。 	3	3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医さんの昼の仕事とわけを読み取る。 ・昼の仕事とわけを読み、感じたことを友だちと交流する。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ばったの見つけ方を、場所と見つけ方に着目して読み取る。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医さんの夕方仕事とわけを読み取る。 ・夕方仕事とわけを読み、感じたことを友だちと交流する。
3	5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書きたい生き物を決め、生き物を探したり、「みいつけたカード」を書いたりする。 <p>(1・2年生合同)</p>	3	5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の中から紹介したい仕事を見付け、「おしごとせつめい書」に書く。 <p>(1・2年生合同)</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・「みいつけたカード」を発表する。 <p>(1・2年生合同)</p>	3	7	<ul style="list-style-type: none"> ・「おしごとせつめい書」を紹介する。 <p>(1・2年生合同)</p>

第1・2学年 国語科学習指導案 (モデル2-3)

【本時の目標】	第1学年	【本時の目標】	第2学年
	・せみの見つけ方と自分の経験を結び付けながら読み、思ったことや考えたことを発表することができる。		・時間的な順序や事柄の順序を考えながら、昼の獣医の仕事やそのわけを読み取ることができる。

【本時の展開】 (3/7時間)		【本時の展開】 (3/7時間)	
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を用いて課題を確認する。 	1 学習課題を確認する	同時導入	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を用いて課題を確認する。
<p>せみは、どうしたらみつけることができるでしょう。</p>			<p>昼のしごとを読もう。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 読む視点を与えてから音読させる。 ワークシートにサイドラインを引き、場所とわけを読み取らせる。 だんごむしと同じ構成になっていることを確かめる。 	2 学び合い (1) せみのみつけかたに気を付けながら音読する。 (2) せみをみつけた場所とみつけ方を確認する。 (3) 書き方の構成を確認する。	同時導入	<ul style="list-style-type: none"> 獣医の仕事を整理解する表を使うことを意識させ、自分で読み進めるようにする。 獣医の仕事の短くまとめる付箋に記入し、拡大教材文に貼らせる。
<ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことを正しく書き込めるようにする。 	3 一人学び (1) みつけたカードに、せみのみつけ方を記入する。 (2) 正しく書けたか確かめるために、自分の書いたみつけたカードを音読する。 (3) 他の虫はどこにいるかを図鑑で調べる。		<ul style="list-style-type: none"> 朝よりも時間が経っていることに気付かせる。 ノートに貼ってある「おしごとカード」に仕事とわけを記入させる。
<p><評価> せみのみつけかたがどういう順番で書かれているか理解している。(ワークシート、発表)</p>		同時終末	<p><評価> 時間の経過に応じて獣医の仕事が述べられていることを理解している。(ノート、発表)</p>
<p>せみは、こえがきこえるところをさがすと、みつけることができる。</p>	4 まとめる (1) 課題に対するまとめをする。		<p>昼のしごとは、いのししやにほんざるの手当てをすること。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する振り返りと、せみを見つけた経験を話すように視点を与える。 	(2) 本時の学習について振り返り、2年生と交流する。	同時終末	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する振り返りと、獣医の仕事に対する感想を述べる視点を与える。
<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表から次時の学習を確認する。 	5 次時を予告する		<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表から次時の学習を確認する。

第1・2学年 国語科単元指導計画

◇岩手県立総合教育センター作成

第1学年			第2学年		
【単元名】			【単元名】		
「生き物カード」をつくろう			「一日の仕事紹介カード」をつくろう		
【教材名】			【教材名】		
「みいつけた」 (光村図書)			「どうぶつ園のじゅうい」 (光村図書)		
【単元目標】			【単元目標】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明文の順序に気を付けて、大体の内容を読み取ることができる。 ・ 文章の内容と自分の経験を結びつけて意見を発表し合うことができる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、獣医の仕事やそのわけを読み取ることができる。 ・ 文章の中の大事な言葉を書き抜き、自分の経験と結びつけて、感想を伝えることができる。 		
【単元を貫く言語活動】			【単元を貫く言語活動】		
「いきものカード」を紹介しよう			「身近な人の一日の仕事」を紹介しよう		
【指導計画】			【指導計画】		
次	時	学 習 活 動	次	時	学 習 活 動
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にいる小さい生き物について話し合い、学習への意欲をもつ。 ・ 「いきものカード」をつくり、みんなで交流するという学習の見通しをもつ。 (1・2年生合同) 	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物園について知っていることや、様子について話し合う。 ・ 身近な人の一日の仕事を紹介し、交流するという学習の見通しをもつ。 (1・2年生合同)
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「問い」の文を読み取る。 ・ だんごむしの見つけ方を「どこにいるのか」「どんないきものか」「どうしたら見付けられるのか」の3点に注目して読み取る。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の大体を読み取り、文章を三つの大きなまとまりに分ける。 ・ 獣医さんの朝の仕事とわけを読み取る。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ せみの見つけ方を「どこにいるのか」「どんないきものか」「どうしたら見付けられるのか」の3点に注目して読み取る。 	2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医さんのいのししに関する仕事を読み取る。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ ばったの見つけ方を「どこにいるのか」「どんないきものか」「どうしたら見付けられるのか」の3点に注目して読み取る。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医さんのにほんざるに関する仕事を読み取る。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの生き物について、「知っていること」「初めて知ったこと」をまとめる。 	5	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医さんのペンギンに関する仕事を読み取る。
3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いきものカード」をつくる手順や調べ方を知る。 ・ だんごむし、せみ、ばったの中から選んで生き物カードをかく。 	3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番ひきつけられたところをもとに感想を書き、「じゅういさんの仕事紹介カード」にまとめる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が書きたい生き物を決め、生き物を探したり、「いきものカード」を書いたりする。 (1・2年生合同) 	7	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な人の中から紹介したい仕事を見つけ、カードに書く。 (1・2年生合同)
	8		8	8	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いきものカード」を発表する。 (1・2年生合同) 	9	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「身近な人の一日の仕事」を紹介する。 (1・2年生合同)

第1・2学年 国語科学習指導案 (モデル2-3)

【本時の目標】	第1学年	【本時の目標】	第2学年
	・「居場所」「特徴」「見つけ方」の三つの視点から、ばったについて書かれた内容を読み取ることができる。		・「いつ」「どんな動物に」「何をしたか」の三つの視点から、にほんざるに対する獣医さんの仕事を読み取ることができる。

【本時の展開】 (4/9時間)		【本時の展開】 (4/9時間)		
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を用いて課題を確認する。 	1 学習課題を確認する	同時導入	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を用いて課題を確認する。 	
<p>どうしたら、ばったをみつけることができるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の終わりに、2年生にばったの見つけ方を紹介することを伝え意欲をもたせる。 			<p>じゅういさんのしごとをじゅんじょに気を付けて読み取ろう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 掲示物を参考に前時までを振り返り、「居場所」「特徴」「見つけ方」を読み取る学習であることを確認する。 どんな順序で説明されているかに気を付けて音読させる。 	2 課題解決に取り組む (1) 前時までの学習を振り返る。 (2) ばったの見つけ方について音読する。		2 課題解決に取り組む (1) 第4段落を音読する。(ペア読み) (2) 獣医さんがにほんざるにした仕事を確認し、薬をどんな方法で飲ませたか読み取り発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の終わりに、1年生に獣医さんの仕事を紹介することを伝え意欲をもたせる。 「いつ」「仕事」「わけ」に気を付けて音読させる。 獣医さんがどんな方法で薬を飲ませようとしたかにサイドラインを引かせる。 一人学びには、ワークシートを用い、進め方を明示する。
<ul style="list-style-type: none"> 文末表現を根拠にして、「居場所」「特徴」「見つけ方」にサイドラインを引かせる。 	(3) ばったの見つけ方を読み取り発表する。		(3) にほんざるにした仕事をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 獣医さんがどんな方法で薬を飲ませようとしたのかを確認する。
<p>「くさばら」「とびだつ」の言葉の意味をとらえさせる。</p> <p><評価> ばったの「居場所」「特徴」「見つけ方」を読み取っている。(ワークシート、発表)</p>	(4) ばったの見つけ方についてまとめる。	(4) にほんざるに対する仕事について感想を交流する。	<p><評価> 獣医さんのにほんざるに関する仕事を読み取っている。(ワークシート、発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> サイドラインを引いた部分から「いつ」「仕事」「わけ」の三つの観点を確認する。 交流の観点を児童に与える。 	
<ul style="list-style-type: none"> サイドラインを引いた部分から、「居場所」「特徴」「見つけ方」の3つの観点を確認する。 2年生が聞き取りやすい声の大きさや速さを工夫させる。 	3 学習内容を交流する ・本時の学習内容を2年生に伝える。	3 学習内容を交流する ・本時の学習内容を1年生に紹介する。 ・1年生の学習内容に感想を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> 交流したことを生かして紹介させるようにする。 1年生が聞き取りやすい声の大きさや速さを工夫させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表から次時の学習を確認する。 	4 次時を予告する	4 次時を予告する	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表から次時の学習を確認する。 	
		同時終末		

第2・3学年 国語科単元指導計画

◇複式指導資料第28集「岩手の小規模・複式指導ハンドブック」掲載例

第2学年			第3学年					
【単元名】			【単元名】					
じゅんじょに気をつけて読もう			まとまりに気をつけて読もう					
【教材名】			【教材名】					
「たんぼぼのちえ」 (光村図書)			「ありの行列」 (光村図書)					
【単元目標】			【単元目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・時間の順序や理由付けを示す言葉に着目し、様子とわけなどを考えながら読む。 ・段落と段落のつながりを考えながら、文章の中のいくつかの大きなまとまりとそれぞれの役割をとらえる。 ・たんぼぼの様子を、「たんぼぼのちえ」の記述とかかわらせて書く。 ・文の中における主語と述語の関係に注意する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ありの生態に興味・関心をもち、また、「段落」「接続語」「文末」などに着目して文章を分析的に読むことを楽しむ。 ・「問い」と「答え」、段落ごとの要点を正しくつかみ、叙述に即してありの行列ができるわけを理解する。 ・文章の構成について、段落の役割を理解する。 					
【指導計画】			【指導計画】					
次	時	学 習 活 動	次	時	学 習 活 動			
1	1	・たんぼぼについて知っていることや見たりさわったりした経験を発表する。	前単元	1	・ありについて知っていることや、見たり触ったりした経験を発表する。			
	2	・たんぼぼカードの作り方を理解する。						
2	3	・全文を読み、はじめの感想を書き、新出漢字・語句の確認をする。				2	2	・学習計画を立て、読みのめあてをつかむ。
	4	・教材文の挿絵からたんぼぼの変化に注目し、内容をつかむ。				3	3	・段落分けをし、全体を把握する。
	5	・全文を読み、読みのめあてをつかむ。				2	4	・2・3段落を読み取る。
6	・全文を読み、時間の順序や理由を表す言葉を理解する。	5					・4段落を読み取る。	
3	7	・一つ目の「ちえ」を読み取る。				本時	6	・5・6段落を読み取る。
	8	・二つ目の「ちえ」を読み取る。					7	・7～10段落を読み取る。
	9	・三つ目の「ちえ」を読み取る。					8	・段落ごとの要点をまとめる。
	10	・四つ目の「ちえ」を読み取る。					3	9
11	・まとめの部分を読み取る。	次単元へ						
12	・学習したことを感想にまとめる。							
4	13					・自分が観察・学習したたんぼぼの様子やちえをカードにまとめる。		
	14	・自分なりのたんぼぼカードを作る。						
	15	・たんぼぼ発表会をする。						

第2・3学年 国語科学習指導案（モデル1-2）

【本時の目標】	第2学年	【本時の目標】	第3学年
	<ul style="list-style-type: none"> たんぽぽの2つめのちえやちえをはたらかせているわけを挿絵や文末表現に注意しながら読み取ることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ウィルソンの2番目の実験とありの様子を文をつなぐ言葉に注意しながら読み取ることができる。

【本時の展開】（8／15時間）			【本時の展開】（5／9時間）	
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> 前時までのちえを想起させる。 読みの視点を与える。 <p style="text-align: center;">2つめのたんぽぽのちえを読み取ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わた毛」について学習することを意識させる。 	1 前時までの学習を想起させる 2 学習のめあてをもつ		1 見通しをもつ <p style="text-align: center;">ウィルソンの実験とありの様子を読み取ろう。</p> 2 一人学びをする。 <ul style="list-style-type: none"> プリントに、接続語の後の文を書く 大事だと思う文に線を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識できるようにヒントカードを用いる。 挿絵に着目させ、「ちえ」と「わけ」を考えさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> 時間を表す語句に着目できるようにヒントカードを用いる。 挿絵に着目させ、「ちえ」と「わけ」を考えさせる。 		3 見通しをもつ	
	4 一人学びをする <ul style="list-style-type: none"> わた毛のちえとその理由を書く。 たんぽぽのちえについて視写する。 			<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を有効に使いながら読み進めさせる。 「また行列ができること」と「行列のみちすじがかわらないこと」に着目させる。

第3・4学年 国語科単元指導計画

◇岩手県立総合教育センター作成

第3学年		第4学年	
【単元名】	詩を楽しもう	【単元名】	詩を楽しもう
【教材名】	「わたしと小鳥とすずと」 (光村図書)他	【教材名】	「忘れもの」 (光村図書)他
【単元目標】	・詩に描かれた人物の性格や境遇を想像して読みとったことを、感想にまとめることができる。	【単元目標】	・詩に描かれた人物の性格や状況、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちを想像して読みとったことを、感想にまとめることができる。
【単元を貫く言語活動】	「おすすめの木」をつくろう。	【単元を貫く言語活動】	「おすすめの木」をつくろう。
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	・3・4年共通で詩「てのひらを太陽に」を用いて読み取りの視点を確認し、おすすめリーフの書き方を確認する。	1	・3・4年共通で詩「てのひらを太陽に」を用いて読み取りの視点を確認し、おすすめリーフの書き方を確認する。
2	・「わたしと小鳥とすずと」を読み、感想や気に入ったところについてまとめ、おすすめリーフに書いて紹介する。	2	・「忘れもの」を読み、感想や気に入ったところについてまとめ、おすすめリーフに書いて紹介する。

【本時の目標】	第3学年	【本時の目標】	第4学年
・読み取りの視点に沿って「てのひらを太陽に」を読み、気に入ったところを見つけておすすめリーフに書くことができる。		・読み取りの視点に沿って「てのひらを太陽に」を読み、気に入ったところを見つけておすすめリーフに書くことができる。	

【本時の展開】 (1/2時間)		【本時の展開】 (1/2時間)	
指導の留意点	学 習 活 動	形 態	学 習 活 動
	1 これまでに学習してきた詩やこれから学習する詩を音読し、心に残る詩を選ぶ	共通指導	1 これまでに学習してきた詩やこれから学習する詩を音読し、心に残る詩を選ぶ
	1年生 「てんとうむし」 2年生 「おおきなあれ」「だれかしら」 3年生 「わたしと小鳥とすずと」 4年生 「忘れもの」 ※「てのひらを太陽に」		
・二つの学年の学習のゴールを共通にすることで、継続的な指導ができるようにするとともに、児童にも学習の見通しがもてるようにする。 ・おすすめリーフのモデルを作成し、どんな内容が書かれているか考えさせることで単元の学習のゴールや見通しをもたせる。	2 単元の目標を把握する 【学習のゴール】「おすすめの木」をつくろう。		2 単元の目標を把握する
	3 課題解決の見通しをもち、課題に取り組む		3 課題解決の見通しをもち、課題に取り組む
	【本時の課題】「おすすめリーフ」の書き方を学ぼう。		
	〈おすすめリーフに書く内容〉 ・作品の題名 ・作者 ・おすすめ人 ・おすすめことば ・おすすめコメント		
・詩「てのひらを太陽に」を使って、おすすめリーフにまとめる方法を両学年同時に理解させる。 ・今後の学習を提示し、意欲をもたせる。	〈読み取りの視点〉 ・登場人物について (性格・人柄・気持ち・考え) ・場面の様子 (季節・時間・場所・まわりの様子) ・作者が伝えたいこと *感想・気に入ったところ	共通指導	・詩「てのひらを太陽に」を使って、おすすめリーフにまとめる方法を両学年同時に理解させる。 ・今後の学習を提示し、意欲をもたせる。
	4 課題をまとめる ・おすすめリーフの書き方をまとめる。		4 課題をまとめる ・おすすめリーフの書き方をまとめる。
	5 学習を振り返る		5 学習を振り返る

第3・4学年 国語科学習指導案 (モデル2-2)

【本時の目標】 第3学年		【本時の目標】 第4学年	
<ul style="list-style-type: none"> 詩に描かれた人物の性格や境遇を想像して読み取ったことを、感想にまとめることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 詩に描かれた人物の性格や状況、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちを想像して読み取ったことを、感想にまとめることができる。 	
【本時の展開】 (2/2時間)		【本時の展開】 (2/2時間)	
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> 両学年の学習のゴールを共通にすることで、継続的な指導ができるようにするとともに、児童にも学習の見通しがもてるようにする。 	1 前時に学習したこと(詩の読み取りの視点)を確認し、本時の課題を把握する	共通導入	<ul style="list-style-type: none"> 両学年の学習のゴールを共通にすることで、継続的な指導ができるようにするとともに、児童にも学習の見通しがもてるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【本時の課題】 おすすめリーフを書いておすすめの木を完成させよう。 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> 詩を読み取り、読み取ったことをもとにリーフを書くという手順を確認する。 	2 課題解決の見通しをもち、課題に取り組む		<ul style="list-style-type: none"> 詩を読み取り、読み取ったことをもとにリーフを書くという手順を確認する。
	<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> ①読み取りの視点にそって、詩を想像して読む心構えをつくる。 ②ワークシートの流れに沿って、詩を読んでいく。 ③詩を読んだ感想や気に入ったところについてまとめ、おすすめリーフを書く。 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに想像させるときには、具体的な視点を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いながら、教師と一緒に「わたしたちと小鳥とすずと」を読み取っていく。(個人) 		<ul style="list-style-type: none"> 学年全体で交流する場合には、学習リーダーを活用する。 主体的に学習に取り組むことができるようにするため、困ったときにはいつでも友達に相談し、自分の考えを確かめたり振り返ったりできるようにさせる。(間接指導におけるこれらの指示は、カードにまとめ、自主的な学習の進め方を示しておく。)
<ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとにして、おすすめカードの書き方を理解させる。 	3 課題をまとめる <ul style="list-style-type: none"> おすすめリーフの書き方を確認する。 		
<ul style="list-style-type: none"> 困ったときには、ペアで相談するようにさせる。 	4 本時の課題をまとめる <ul style="list-style-type: none"> おすすめリーフにコメントを書く。 (1)ワークシートをもとに、おすすめリーフを書く。(個人) (2)感想を伝え合い、自分の考えと比べる。(全体) 		<ul style="list-style-type: none"> 学習リーダーの話や学習シートから間接指導の活動の様子を把握し、まとめに生かすようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の考えに違いがあることに気付かせる。 	3 課題をまとめる <ul style="list-style-type: none"> おすすめリーフの書き方を確認する。 (1)ワークシートをもとに、おすすめリーフを書く。(個人) (2)感想を伝え合い、自分の考えと比べる。(全体) 		
<ul style="list-style-type: none"> お互いの学習を交流することを通して、学習の連続性や発展性に気付かせるとともに、一緒に学習することのよさや楽しさを味わわせる。 	5 本時の学習を深める (1)学習したことを交流し合う。 (2)お互いの学習のよさを認め合う。 (3)本時の学習をまとめる。	共通まとめ	<ul style="list-style-type: none"> お互いの学習を交流することを通して、学習の連続性や発展性に気付かせる。
<ul style="list-style-type: none"> 上学年に感想を伝え共に学ぶ喜びを味わわせる。 学習を通して新たにわかったこと、身に付いたこと等を言葉でまとめ、実感できるようにする。 	6 学習を振り返る		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【詩を読むとき】 登場人物の性格や気持ち、場面の様子を想像して読む。 </div>	共通終末	<ul style="list-style-type: none"> 下学年にアドバイスすることを通して、自分の学習をやりとりに広げたりすることのよさや楽しさを味わわせる。 学習を通して新たにわかったこと、身に付いたこと等を言葉でまとめ、実感できるようにする。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返る。 学習感想を伝える。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返る。 学習感想を伝える。 </div>		

第5・6学年 国語科単元指導計画

◇宮古市立墓目小学校授業実践例

第5学年		第6学年	
【単元名】		【単元名】	
筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう		文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう	
【教材名】		【教材名】	
「見立てる／生き物は円柱形」 (光村図書)		「感情／生き物はつながりの中に」 (光村図書)	
【単元目標】		【単元目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 要旨をとらえて自分の考えを明確にしながら読み、筆者の考えや文章の書き方について感想を発表し合って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・ 文の構成、文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の意図を考えながら読み、筆者がこの文章を通して読者に考えてもらいたいと思っていることをまとめることができる。 ・ 筆者の考えについて自分はどうか考えるかをまとめ、友達と交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
	前単元	1	・ 今までの文章の読み方を振り返り、「文章と対話しながら読み、自分の考えをもつ」という学習課題を設定する。
1	・ 単元名やリード文を読み、学習の見通しをもつ。 〈「見立てる」〉 ・ 題名について話し合い、全文を音読する。	2	・ 学習の見通しをもつ。
2	・ 文章全体の構成をつかむ。	3	・ 「感情」を読み、問題提起に沿って筆者の意図を読み取り、自分の考えをまとめる。
3	・ 事例の挙げ方をもとに、筆者の説明の仕方について話し合う。	4	・ 「感情」で学習したことをモデルに「生き物はつながりの中に」を読み、筆者の意図を予想する。
4	・ 要旨をまとめる。	5	(5～7ままとまりごとに生き物の特徴を読み取る。) ・ 問題提起の文から読みの視点をもつ。 ・ 文章全体の大まかな構成をつかむ。
5	〈「生き物は円柱形」〉 ・ 題名について話し合い、全文を音読し、感想を書きまとめる。	6	・ 生き物の特徴について自分なりにまとめる。
6 本 時	・ 文章全体の構成をつかむ。	7 本 時	・ 本物のイヌとロボットのイヌとの違い、比べられていることを文章に沿って考え、生き物の特徴をまとめる。
7	・ 筆者の説明の仕方の工夫について話し合う。	8	・ 文章全体を通した筆者の考えをまとめる。
8	・ 要旨をまとめる。	9	・ 筆者の考えに対する自分の考えを簡単にまとめる。
9	・ 「生き物は円柱形」を読んで自分が考えたことを書きまとめる。 ・ 重文を単文に、単文を重文にする。	次単元へ	
10	・ 書いたものを発表し合う。 ・ 本の紹介を聞く。		

第5・6学年 国語科学習指導案（モデル2-3）

【本時の目標】	第5学年	【本時の目標】	第6学年
	<ul style="list-style-type: none"> 「始まり」「中」「まとめ」という三つの文章構成に気が付き、全体を四つのまとまりに分けることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 本物のイヌとロボットのイヌの違いを理解し、生き物の特徴を読み取ることができる。

【本時の展開】（6／10時間）		【本時の展開】（7／9時間）	
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> 「見立てる」の文章構成を再度提示することで課題への方向付けをする。 	1 学習課題を確認する	同時導入	<ul style="list-style-type: none"> 問題提起の文を確かめる。
<p>文章全体を「始まり」「中」「まとめ」に分けよう。</p>			<p>本物のイヌとロボットのイヌを比べて、生き物の特徴をさぐろう。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 各段落のはじめの文にサイドラインを引かせ、つながりを見つけるといった目的をもたせて、音読させる。 各段落のはじめの文を提示しながら、「考え」と「例や理由」に分けてあることに気付かせる。 	2 学習を見通す (1)教材文（p.40～44）を音読する。 (2)文章全体を大きく3つのまとまりに分ける。 ①始まりー考え ②中ー例や理由 ③まとめー考え	同時導入	<ul style="list-style-type: none"> 「生き物の特徴」「つながり」のことばに着目しながら微音読させる（p.34～39）。 一人学びをする。 それぞれの特徴をふまえて、違いをワークシートに書き込ませる。 終わったら、自分のまとめたことについて発表し合う。
<ul style="list-style-type: none"> 「例」と「理由」という視点であることを示す。 一人学びをする。 早くできた児童には、その根拠となる言葉にサイドラインを引かせ、その言葉から何が分かるかワークシートに書き込ませる。 一人学びの後、全体で交流させる。 書き終わったら、カードをチェック項目（表現の工夫のポイント）に沿って読み返し、必要に応じて表現の工夫を加えるようにさせる。 	3 課題を解決する (1)「中」を2つに分ける。 ・②～⑤段落ー例 ・⑥～⑩ー理由 ⑥段落ー「仮に」という言葉を使い問いかけている。 ⑦段落ー新聞紙 ⑧～⑩段落の出だしすべて「円柱形」で始まっている		<ul style="list-style-type: none"> 「生き物の特徴です」という言葉をもとに生き物とロボットの違いを色分けしながら対比させる。 「次に」などの接続語にも着目させる。
	(2)文章全体の構成を確認する。 「始まり」ー①段落 「中・1」ー②～⑤段落 「中・2」ー⑥～⑩段落 「まとめ」ー⑪段落	同時導入	<ul style="list-style-type: none"> ⑥段落について考え、「生き物」の特徴についてまとめる。
<ul style="list-style-type: none"> 6年生から評価してもらうことで、意欲を高める。 	4 学習を振り返る (1)6年生と交流する。 ・感想を発表する。		<ul style="list-style-type: none"> 5年生から評価してもらうことで、次時への意欲を高める。
<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表から次時の学習を確認する。 	5 次時を予告する	同時終末	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表から次時の学習を確認する。
<p>筆者の説明の仕方について考えよう。</p>			<p>筆者の考えについてまとめよう。</p>

第5・6学年 国語科単元指導計画

◇岩泉町立門小学校授業実践例

第5学年			第6学年		
【単元名】 作品を自分なりにとらえ、表現しよう			【単元名】 作品の世界を深く味わおう		
【教材名】 「大造じいさんとガン」 (光村図書)			【教材名】 「やまなし」 (光村図書)		
【単元目標】 ・自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をするとともに、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 ・書いたものの表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができる。			【単元目標】 ・場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 ・目的に応じて、複数の本や文章を比べて読み、効果的な読み方を工夫することができる。 ・作品の中で使われている表現を味わい、語感や言葉の使い方に興味をもつことができる。		
【単元を貫く言語活動】 おすすめ物語のショーウィンドウをつくろう			【単元を貫く言語活動】 おすすめ物語のショーウィンドウをつくろう		
【指導計画】			【指導計画】		
次	時	学 習 活 動	次	時	学 習 活 動
1	1	・単元のゴールとなる言語活動モデルを読み、本のショーウィンドウに盛り込む要素をとらえる。 ・単元の学習計画を立てる。 ・「大造じいさんとガン」を読み、作品の設定シートを完成する。	1	1	・単元のゴールとなる言語活動モデルを読み、本のショーウィンドウに盛り込む要素をとらえる。 ・単元の学習計画を立てる。 ・「やまなし」を読み、作品の設定シートを完成する。
2	2	・大造じいさんの心情を変える大きな出来事の前後で、心情はどのように変化したのか話し合う。 ・大造じいさんとガン用ショーウィンドウへ読み取ったことを書きまとめる。 ・並行読書の本で、心が動く場面を見つけながら読む。	2	2	・大きな出来事の前後で、兄弟の心情がどのように変化したかを考える。 ・並行読書の本で、心が動く場面を見つけながら読む。 ・やまなし用ショーウィンドウへ読み取ったことを書きまとめる。
3	本時	・残雪と大造じいさんの関係について話し合い、「大造じいさんとガン」の人物関係図を作る。 ・個人で大造じいさんとガン用ショーウィンドウへ人物関係図をかく。 ・並行読書の本で、人物の関係を捉えながら読む。	3	本時	・五月と十二月の出来事をふまえ、小グループで人物関係図を作成する。 ・並行読書の本で、人物の関係を捉えながら読む。 ・やまなし用ショーウィンドウへ読み取ったことを書きまとめる。
	4	・優れた表現をさがし、心情や情景について説明する。 ・大造じいさんとガン用ショーウィンドウへ優れた表現を書き込む。 ・並行読書の本で、優れた表現を捉えながら読む。		4	・優れた表現をさがし、心情や情景について説明する。 ・やまなし用ショーウィンドウへ優れた表現を書き込む。 ・並行読書の本で、優れた表現を捉えながら読む。
3	5 6	・並行読書の本を読み、「おすすめ物語のショーウィンドウ」を作る。	3	5	・「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。
	7	・おすすめショーウィンドウ展覧会を行う。 (5・6年共通)		6	・「おすすめ物語のショーウィンドウ」を作る。
				7	・おすすめショーウィンドウ展覧会を行う。 (5・6年共通)

第5・6学年 国語科学習指導案（モデル2-3）

【本時の目標】	第5学年	【本時の目標】	第6学年
	・大造じいさんと残雪の相互関係を捉え、人物関係図に表すことができる。		・かわせみややまなしがかにの兄弟に与えた影響をとらえ、人物関係図に表すことができる。

【本時の展開】（3／7時間）		【本時の展開】（3／7時間）		
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点
	1 課題設定		1 課題設定	
・単元計画の課題を提示しておく。	登場人物の関係をとらえ、人物関係図を作ろう。			・単元計画の課題を提示しておく。
・本のショーウィンドウモデルを提示し、読む方法などが理解できるようにする。	(1)「ごんぎつね」を例に、読む方法と人物関係図の作り方を確認する。	共通導入	(1)「ごんぎつね」を例に、読む方法と人物関係図の作り方を確認する。	・本のショーウィンドウモデルを提示し、読む方法などが理解できるようにする。
・大造じいさん、残雪、ハヤブサ	2 学び合い		2 グループ学習	・かにの兄弟、父、かわせみ、やまなし
・拡大教科書を掲示し、サイドラインを引きながら確認していく。	(1)主な登場人物を確認する。		(1)主な登場人物を確認する。	・小グループで話し合い、画用紙に人物関係図を作成させる。
・大造じいさんの残雪に対する見方が、「いまましい」などから、「晴れ晴れ」などに変わることを確認する。	(2)残雪と大造じいさんの関係について話し合う。		(2)五月と十二月の出来事をふまえ、小グループで人物関係図を作成する。	・読む視点を並行読書に活用できるようにする。
	(3)人物関係図に書き込みたい言葉を確認する。		(3)並行読書の本で、人物の関係を捉えながら読み進める。	
・読む視点を並行読書に活用できるようにする。	3 一人学び		3 学び合い・一人学び	・かわせみとやまなしの出来事が、かにの兄弟に与えた影響と、父の役割について考えさせる。
	(1)大造じいさんとガン用ショーウィンドウへ人物関係図をかく。		(1)小グループで作成した人物関係図を発表し合う。	
<評価> 大造じいさんと残雪との相互関係を捉え、人物関係図を書いている。(ワークシート、発表)	(2)並行読書の本で、人物の関係を捉えながら読み進める。		(2)人物関係図に書き込みたい言葉を確認する。	<評価> かにの兄弟とかわせみ、やまなしの関係を捉え、人物関係図を書いている。(ワークシート、発表)
・書いたものを発表し、それぞれの学年の学習について交流する。	4 学習を振り返る		4 学習を振り返る	・書いたものを発表し、それぞれの学年の学習について交流する。
・自己の学習についてふり返らせることで、次時への意欲につなげる。	(1)学年全員で交流する。 ・ショーウィンドウ ・振り返り	同時終末	(1)グループ内で交流する。 ・ショーウィンドウ ・振り返り	・自己の学習についてふり返らせることで、次時への意欲につなげる。
・学習計画表から次時の学習を確認する。	(2)6年生と交流する。 ・感想を発表する。		(2)5年生と交流する。 ・感想を発表する。	・学習計画表から次時の学習を確認する。
	5 次時を予告する		5 次時を予告する	
	筆者の説明の仕方について考えよう。		筆者の考えについてまとめよう。	

国語科の資料作成にご協力いただいた学校

- 宮古市立墓目小学校
- 岩泉町立門小学校

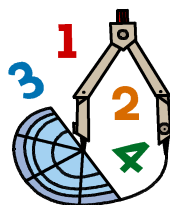
参考資料名

- 複式指導資料第28集
「岩手の小規模・複式指導ハンドブック」

算数科

目次

- (1) 第1学年「どちらがおおい」 第2学年「水のかさのたんい」 (モデル2-2) ----- 63
- (2) 第1学年「どちらがおおい」 第2学年「水のかさのたんい」 (モデル2-3) ----- 65
- (3) 第1学年「かたちあそび」 第2学年「三角形と四角形」 (モデル2-3) ----- 67
- (4) 第1学年「10より大きい数」 第2学年「1000より大きい数」 (モデル2-3) --- 69
- (5) 第2学年「3けたの数」 第3学年「たし算とひき算のひっ算」 (モデル1-2) ----- 71
- (6) 第2学年「たし算とひき算のひっ算」 第3学年「大きい数のわり算」 (モデル2-1) ----- 73
- (7) 第2学年「かけ算(1)」 第3学年「かけ算のひっ算(1)」 (モデル2-3) ----- 75
- (8) 第3学年「あまりのあるわり算」 第4学年「折れ線グラフ」 (モデル1-1) ----- 77
- (9) 第3学年「あまりのあるわり算」 第4学年「わり算の筆算(1)」 (モデル1-1) ----- 79
- (10) 第3学年「あまりのあるわり算」 第4学年「折れ線グラフ」 (モデル2-2) ----- 81
- (11) 第3学年「あまりのあるわり算」 第4学年「わり算の筆算(1)」 (モデル2-2) ----- 83
- (12) 第3学年「分数」 第4学年「分数」 (モデル2-3) ----- 85
- (13) 第5学年「偶数と奇数 倍数と約数」 第6学年「比と比の値」 (モデル1-1) ----- 89
- (14) 第5学年「単位量当たりの大きさ」 第6学年「速さ」 (モデル2-3) ----- 91



第1・2学年 算数科単元指導計画

◇花巻市立内川目小学校授業実践例

第1学年		第2学年	
【領域】		【領域】	
D 量と測定		D 量と測定	
【単元名】		【単元名】	
どちらがおおい (東京書籍)		水のかさのたんい (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・ 体積の比較などの活動を通して、体積とその測定についての理解の基礎となる経験や、体積についての感覚を豊かにする。		・ 体積の測定などの活動を通して、長さの学習を基に単位の意味と測定の原理を理解し、体積の測定ができるようにするとともに、体積について量の感覚を身に付けられるようにする。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの容器に入る水の体積を比較しようとしている写真を見て、体積が大きいのはどちらの容器か予想する。 ・ 形の異なる2つの容器に入る水の体積の大小を比べる方法を考える。 	前単元	<ul style="list-style-type: none"> ・ 任意単位で2つの水筒に入る水の体積を数値化する。 ・ 任意単位では、比較の限界があることを知る。 ・ 体積の単位「デシリットル」を知る。 ・ 水筒に入る水の体積をdLを使って表す。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接比較、間接比較の方法で体積を比べる。 		
3 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の写真を見て話し合い、水の体積の比べ方を考える。 ・ 容器に入っている水の体積を、コップを単位として「いくつ分」で表す。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 任意単位による比較の方法で体積を比べる。 		
次単元へ		1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな水筒に入る水の体積をdLを使って表す。 ・ 身の回りの容器に入る水の体積を1dLのますではかる。
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな水筒に入る水の体積をdLを使って表す。 ・ 身の回りの容器に入る水の体積を1dLのますではかる。
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな紙パックに入る水の体積を調べる。 ・ 体積の単位「リットル(L)」を知り、1L=10dLの関係を確認する。
		4	<ul style="list-style-type: none"> ・ L, dLを用いて体積を表す。
		5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を見て1dLより少ない表仕方に着目する。 ・ 体積の単位「ミリリットル(mL)」を知り、1L=1000mLの関係を確認する。 ・ 身の回りから、LやmLの表示がされている容器を探す。
		6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの水筒に入る水の体積の和や差を加法や減法を用いて求める。
		7	<ul style="list-style-type: none"> ・ <やってみよう>ペットボトルで1Lのますを作り、いろいろな容器に入る水の体積をはかる。
		8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「しあげのもんだい」に取り組む。
			次単元へ

第1・2学年 算数科学習指導案（モデル2-2）

【本時の目標】	第1学年	【本時の目標】	第2学年
	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの体験を、任意単位を用いることによって、数として表したり、比較したりできることを理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> 普遍単位の必要性に気づき体積を表す単位「デシリットル（dL）」を知り、その読み方や書き方を理解する。

【本時の展開】（3 / 4 時間）		【本時の展開】（1 / 8 時間）		
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> 前時は同じ入れ物に移し替えて比べたことを想起させる。 水の入った二つの水筒を提示する。 	1 問題把握		1 問題把握	<ul style="list-style-type: none"> 2年生も本時から、水のかさの学習をすることを確認する。 水の入った二つの水筒を提示する。
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> どちらが、どれだけおおくはいりますか。 </div>	
<ul style="list-style-type: none"> かさの違いをはっきりさせるにはどうすればよいかを考えることを明確にする。 	2 課題設定		2 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> かさの違いをはっきりさせるにはどうすればよいかを考えることを明確にする。
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 水のかさを だしくくらべる ほうほうを かんがえましょう </div>	
<ul style="list-style-type: none"> 水筒の水をコップに一杯ずつ分けて入れ、コップで「いくつ分」になったか調べて比べる方法を確認する。 3種類のコップを提示し、どのコップで測定してもよいことを確認する。 水筒の量と違いの量の測定結果について交流させる。 	3 課題解決	共通導入	3 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 1年時に学習した水のかさの違いをコップで測定する方法を、想起させる。 3種類のコップを提示し、どのコップで測定してもよいことを確認する。 水筒の量と、違いの量の数値が異なることへの疑問が児童から出されたら、どうするのがよいかを話し合わせる。 全員同じコップを使用していた場合は、教師が別のコップで測定し、数値が異なることと、その問題点に気づかせる。 長さ普遍単位があったことを想起させ、水のかさの普遍単位に意識を向けさせる。
			(1) 解決の見通しをもつ ・水筒に入っている水をコップに分けて、何杯入っていたかを数で表す方法を知る。 (2) 個人で求める ・3種類のコップから、自分で調べたいコップを選択して水筒に入っている水量を測る。 (3) 3人で意見交流 ・答えあわせをする。	
<ul style="list-style-type: none"> 3人で意見交流した内容をもとに、水のかさも数値化して表すとよいことを確認する。 	4 まどめる	共通まとめ	4 まどめる	<ul style="list-style-type: none"> グループでの交流した内容をもとに、水のかさについて任意単位の限界や普遍単位の必要性を確認する。
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 水のかさはコップでいくつ分と表すとよい。 </div>	
<ul style="list-style-type: none"> みんなで同じコップを使って測定する。 3人で答えあわせをする。 色々な容器の水のかさを、コップで何杯入るか測定する。 	5 練習問題に取り組む			<ul style="list-style-type: none"> 1年生が分かったことや頑張ったことなどを聞く。 自分たちの学習の振り返りをさせる。
<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して分かったことや頑張ったことなどをグループの2年生に伝える。 	6 本時の学習を振り返って分かったことや気づいたことをまとめる。	共通終末	5 本時の学習を振り返ってわかったことや気づいたことをまとめる。	
	7 次時の学習の見通しをもつ		6 次時の学習の見通しをもつ	

第1・2学年 算数科単元指導計画

◇岩泉町立門小学校授業実践例

第1学年		第2学年	
【領域】		【領域】	
D 量と測定		D 量と測定	
【単元名】		【単元名】	
どちらがおおい (東京書籍)		水のかさのたんい (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・体積の比較などの活動を通して、体積とその測定についての理解の基礎となる経験や、体積についての感覚を豊かにする。		・体積の測定などの活動を通して、長さの学習を基に単位の意味と測定の原理を理解し、体積の測定ができるようにするとともに、体積について量の感覚を身に付けられるようにする。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの容器に入る水の体積を比較しようとしている写真を見て、体積が大きいのはどちらの容器か予想する。 ・形の異なる2つの容器に入る水の体積の大小を比べる方法を考える。 ・直接比較、間接比較の方法で体積を比べる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・任意単位で2つの水筒に入る水の体積を数値化する。 ・任意単位では、比較の限界があることを知る。 ・体積の単位「デシリットル」を知る。 ・水筒に入る水の体積をdLを使って表す。
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・水の高さが同じときは、何を基にかさの大小を決定すればよいか話し合う。 ・底面積の異なる3つの容器の体積を調べる。 	2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな水の体積をdLを使って表す。 ・オリジナル1dLますを作る。 ・身の回りの容器に入る水の体積を、1dLのますではかり、dLを使って表す。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真を見て話し合い、水の体積の比べ方を考える。 ・容器に入っている水の体積を、コップを単位として「いくつ分」で表す。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな紙パックに入る水の体積を調べる。 ・体積の単位「リットル(L)」を知り、1L=10dLの関係を確認する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・任意単位による比較の方法で体積を比べる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・L、dLを用いて体積を表す。
次単元へ		5	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て1dLより少ない表し方に着目する。 ・体積の単位「ミリリットル(mL)」を知り、1L=1000mLの関係を確認する。 ・身の回りから、LやmLの表示がされている容器を探す。
		6	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの水筒に入る水の体積の和や差を加法や減法を用いて求める。
		7	<ul style="list-style-type: none"> ・<やってみよう>ペットボトルで1Lのますを作り、いろいろな容器に入る水の体積をはかる。
		8	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんだい」に取り組む。

第1・2学年 算数科学習指導案（モデル2-3）

【本時の目標】	第1学年	【本時の目標】	第2学年
	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの体積に関心を持ち、直接比較、間接比較の方法で比べることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 普遍単位の必要性に気づき体積を表す単位「デシリットル（dL）」を知り、その読み方や書き方を理解する。

【本時の展開】（2 / 4 時間）			【本時の展開】（2 / 8 時間）		
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> 前時を想起させてから、課題を設定する。 	1 課題設定	同時導入	1 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 前時を想起させてから、課題を設定する。 	
			みずの かさを くらべよう。パート2		
<ul style="list-style-type: none"> 教科書も問題場面の写真を提示する。 	2 問題把握	同時導入	2 問題把握	<ul style="list-style-type: none"> 前時の問題を提示する。 	
			いちばんおおいのはどれですか。		
<ul style="list-style-type: none"> 調べる前に話し合うことで、比べる観点を絞る。 水の高さが同じことから、違う部分に視点を向けさせる。 	3 集団解決	同時導入	3 自力解決	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに1dLを書く練習をさせる。 普遍単位を使うと体積を数で表したり比較したりできることを確かめる。 	
			(1) 問題写真を見て、どれに水が多く入っているか予想する。 (2) 水の高さが同じときは何を基に体積の大小を決定すればよいか話し合う。		
<ul style="list-style-type: none"> ペットボトル、水槽、ふきん準備。 ●体積の大小を直接比較、間接比較の方法で比べることができるか。 	4 自力解決	同時導入	4 集団解決	<ul style="list-style-type: none"> ●容器に入る水の体積を1dLのみではかることができるか。 水筒、1dLます、水槽、ふきん準備。 	
			(1) 底面積の異なる3つの容器の水の体積を調べる。 (2) 水の高さが同じときは、底面積の広さ＝入れ物のふとさで、体積の大小を決定できることを確かめる。		
<ul style="list-style-type: none"> みずのたかさがおなじときは、いれもののふとさでくらべられる。 	5 まとめる	同時終末	5 まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 水などのかさは、1dLをつかうと、数でくらべられる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習についてふり返らせることで、次時への意欲につなげる。 	6 本時の学習についてふり返り、学習感想を書き、学習の成果を交流する。	同時終末	6 本時の学習についてふり返り、学習感想を書き、学習の成果を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習についてふり返らせることで、次時への意欲につなげる。 	
	7 次時の学習の見通しをもつ。		7 次時の学習の見通しをもつ。		

第1・2学年 算数科単元指導計画

◇花巻市立笹間第二小学校授業実践例

第1学年		第2学年	
【領域】		【領域】	
C 図形		C 図形	
【単元名】		【単元名】	
かたちあそび (東京書籍)		三角形と四角形 (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形についての理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。		・平面図形に親しみ、図形についての感覚を豊かにするとともに、三角形四角形などの構成要素をとらえ、それらの意味や性質を理解する。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	・具体物を操作し、立体図形の特徴をとらえる。	1	・様々な図形を具体物で構成し、形の特徴をとらえる。
2		2	
3 本 時	・立体を仲間分けする。	3 本 時	・三角形、四角形の特徴を考え、「辺」「頂点」を知る。
4	・立体図形を構成する面の形に着目し仲間分けする。	4	・三角形と四角形を辺の数や頂点の数に着目して分別する。
5		5	・具体物を用いて三角形、四角形を構成する。
次単元		6	・身の回りから、角が直角であるものを見つれたり紙を折ったりして、直角の意味をとらえる。
		7	・長方形の特徴をつかむ。
		8	・正方形の特徴をつかむ。
		9	・直角三角形の特徴をつかむ。
		10	・正方形、長方形、直角三角形を作図する。
		11	・単元のまとめをする。
		12	・「しあげのもんだい」に取り組む。

第1・2学年 算数科学習指導案（モデル2-3）

【本時の目標】	第1学年	【本時の目標】	第2学年
	<ul style="list-style-type: none"> 箱などの身の回りの具体物から形を取り出し、立体図形の特徴をまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> 辺や頂点の数に着目して図形を分類する活動を通して、三角形、四角形の意味や性質を理解する。

【本時の展開】（3／5時間）			【本時の展開】（3／12時間）		
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> 共通の課題として教師が提示し、感想場面で交流の視点とする。 男女、えんぴつペン消しゴム、など色や大小ではなく特徴や働きを考え分類させる。 	1 課題（問題）を知る 2 仲間分けの意味を知る <ul style="list-style-type: none"> 何種類かを2つや3つに分ける。 	なかまに わけよう 同時導入	1 課題（問題）を知る 2 仲間分けの意味を知る <ul style="list-style-type: none"> 何種類かを2つや3つに分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の課題として教師が提示し、感想場面で交流の視点とする。 男女、えんぴつペン消しゴム、など色や大小ではなく特徴や働きを考え分類させる。 角と直線に目を向けさせ、分けるときの見通しを持たせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 少人数であるので、一人ずつ同じものをそろえて渡す。 どんな観点で分けたのかカードに児童の言葉で記入させる。 	3 2つに分ける		3 2つに分ける。 ・「三角形」「四角形」名称を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 1年生とのタイミングを図ってわたる。 	
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな分け方があることに気付かせるために、友達の考えに目を向けさせる。 自分なりの区別で構わない。（名前を付けさせることで、分け方を表現させる。） 	4 交流する (1) 転がる形・転がらない形 (2) 積める形・積めない形 (3) 細長い形・そうでないもの		4 何に目を付けたのか訳を考える 5 交流する ①かどが3つと4つ ②直線が3本と4本	<ul style="list-style-type: none"> 思い浮かばないときは、前時の写真などから想起させる。 友達の考え等も記述させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> どんな観点で分けたのかカードに児童の言葉で記入させる。 	5 3つに分ける		6 まとめる 三角形の定義をまとめノートに書く。 ・へんとちょうてんを確認する		
<ul style="list-style-type: none"> 7は時間があったら行う。 積み木なども準備しておく 	6 まとめる (1) 丸い形 (2) 箱の形 (3) さいころの形 7 教科書の友達はどのようにわけているのか説明する <ul style="list-style-type: none"> 積み木を分類する。 		7 四角形の定義を自分でまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の定義を参考に、自分の言葉でまとめさせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 上学年に学習したことや感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。これから先の学習に関心をもたせるようにする。 	8 学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> 感想を交流する。 	同時終末	8 学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> 感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 下学年に対する感想やアドバイスを伝える。既習の学習も振り返るようにする。 本時の学習で分かったことを発表させる。 	

第1・2学年 算数科単元指導計画

◇花巻市立内川目小学校授業実践例

第1学年		第2学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算(1)		A 数と計算(1)	
【単元名】		【単元名】	
10より大きい数 (東京書籍)		1000より大きい数 (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・20までの数について、個数の数え方、数の読み方、書き方、数の構成などを理解し、数を用いることができるようにする。		・1000までの数について、その意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深めるとともに、数を用いる能力を伸ばす。	
【単元の指導計画】		【単元の指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	・20までの数を数えたり、唱えたりする。		前単元
2 本 時	・20までの数の読んだり、書いたりする。	1 本 時	・3位数を読んだり、書いたりする。
3 4	・20までの数の数え方を工夫する。	2	・3位数を読んだり、書いたりする。
5	・ブロックを使って20までの数の分解・合成をする。	3 4	・数カードを並べて数を表すことをとおして、3位数の位取りの仕組みや数の構成を考える。
6 7	・数直線を使って数が表せることや、20までの数についての大小や系列を考える。	5	・10円玉が14枚でどれだけになるか、230円は10円玉で何枚かなど、10を単位として考える。
8	・数の構成(10といくつ)に基づいて、 $10+5$ 、 $15-5$ などの式に表し、計算の仕方を考える。	6	・数直線の読み取りを通して、3位数の大小順序を考える。
9	・20までの数について、その数の構成に着目して、 $12+3$ 、 $15-3$ などの式に表し、計算の仕方を考える。	7	・1000の構成、書き方及び1000付近の数を考える。
次単元		8	・780をいろいろな表し方で表したり、1000までの数を2とび、50とび出数えるなど1000までの数の構成を多面的にとらえる。
		9	・数の構成(百がいくつ、何百といくつ)に基づいて、何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を考える。
		10	・不等号「>」「<」を知り、数の大小関係を式に表すことができる。
		11	・数や式の大小、相当関係を不等号、等号を用いて式に表す。
		12	・算数的活動(「やってみよう」)を通して、数についての興味を広げる。
		13	・「しあげのもんだい」に取り組む。

第1・2学年 算数科学習指導案（モデル2-3）

【本時の目標】	第1学年	【本時の目標】	第2学年
	・ 20までの数の読み方、書き方を理解する。		・ 3位数の読み方や表し方を理解する。

【本時の展開】（2／9時間）		【本時の展開】（1／13時間）	
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ あめと卵を見せ、いくつあるか数えようという意欲をもたせる。 ・ 10より多そうな数を数えることを確認する。 <p>（10より）おおきいかすを ただしくかぞえるには どうしたらよいかかんがえましょう。</p>	1 問題を把握する <p>かずをかぞえましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を読む。 ・ あめの数を予想する。 2 課題を把握する	同時導入	1 問題を把握する <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を読む。 ・ クリップの数を予想する。 2 課題を把握する
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時想起させる。 1つずつ印を付けて数える。10のまとまりを丸で囲む。「10といくつ」で数える。同じ数のブロックを並べる。 ・ プリントで、あめと卵の数を自力で数を数えて、ブロックを並べて数を数字で書かせる。 <p>大きいかずは、10のまとまりと、ばらがいくつかにわけてかぞえるとよい。</p>	3 解決の見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・ 正しく数えるためにどうするか、既習想起する。 4 自力解決に向かう		3 解決の見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・ 正しく数えるためにどうするか、既習想起する。 ・ 自力解決と発表までの見通しをもつ。 4 自力解決に向かう
<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵とブロックに合わせて10といくつでぜんぶで○という言い方で発表させる。 ・ 109の誤りを考えさせる。 ・ 20の表記で、左側の2は10のまとまりが2あることを表していることにも簡単にふれる。 <p>大きいかずは、10のまとまりと、ばらがいくつかにわけてかぞえるとよい。</p>	5 友だちと考えを伝え合う 6 全体で効果的な解決の仕方を確かめてまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・ あめ 19 ・ たまご 20 ・ 「10といくつで○」という表し方を確認しながら、11から20までの数の書き方をまとめる。 7 練習問題に取り組む	5 友だちと考えを伝え合う <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア・グループ内でまとめ方と数を伝え合う。 6 全体で効果的な解決の仕方を確かめてまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体でプリントを用いて発表し合う。 ・ 類似点や相違点を考え合う。 ・ 早く終わったら、別のものを数える活動をする。 8 本時の学習を振り返って分かったことや気付いたことをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項を想起させる。10のまとまり、100のまとまりを丸で囲む。10が10個で100になる。 ・ まとまりごとに整理して数えるは全部で何個と言うか考える。 ・ 自力解決後、ペア・グループごとに伝え合う。 ・ 発表者を決め、全体で伝え合うことを確認する。 ・ 数えにくそうな児童にヒントカードを渡す。 ・ プリントを見ながら、「100がいくつと10がいくつとばらがいくつできたか」「全部でいくつになったか」を発表し合う。 ・ 全部終わらなかつた児童は、どこまでまとめることができなかつたかを伝える。わからなくなかつたところがあつたら、どこがわからなかつたかを話すようにさせたい。 ・ 「100のまとまり」「10のまとまり」「ばら」の数があつているか、全部でなんと唱えるかを比べさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ p66～67の下段のブロック図を「10といくつで○」という表し方で書く。 ・ 全部「10といくつ」になっていること、ばらの部分が1, 2, 3・・・となっていることに気付かせたい。 	8 本時の学習を振り返って分かったことや気付いたことをまとめる 9 次時予告	7 本時の学習を振り返って分かったことや気付いたことをまとめる 8 次時予告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「100が2こ、10が3こ、ばらが5こあること」全部で二百三十五ということを整理する。 ・ 位取り版を配付し、その上にブロックやカードを置かせる。 <p>・ 10のまとまり、100のまとまりをつかって数えるときよい。</p> <p>・ 百が2こで二百、二百と三十五をあわせて二〇〇。</p> <p>・ 235と書く。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通して分かったことや頑張ったことなどを隣の2年生に伝える。 	9 次時予告	8 次時予告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を通して分かったことや頑張ったことなどを隣の席の児童に伝える。

第2・3学年 算数科単元指導計画

◇岩泉町立門小学校授業実践例

第2学年		第3学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算		A 数と計算	
【単元名】		【単元名】	
3けたの数（東京書籍）		たし算とひき算のひっ算（東京書籍）	
【単元目標】		【単元目標】	
・1000までの数について、その意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、数を用いる能力を伸ばす。		・3～4位数の加減法の筆算について理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・235の数構成と命数法、記数法を知る。 ・クリップの数を数字で表し、用語「百の位」を知る。 	前単元	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・206個のブロックの数を数字で表す。 ・3位数を書いたり読んだりする。 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・位取り板と数カードを使って、各位の数を読み取ったり、3位数を数カードで表したりする。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・3位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習し、3位数の構成を、等式を使って表す。 		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・10円玉が14枚でどれだけになるかを、10を単位にして考える。 		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を基に、$365+472$の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・図の●の数を工夫して数え、百を10こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くことを知る。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・$347+178$, $475+781$の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・780を、いろいろな表し方で表す。 ・50とびで数を数えたり、大きい数から小さい数へ順に2とびで唱えたりする活動に取り組む。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を基に、$315-194$の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・$50+70$, $120-30$の計算, $300+200$, $600-200$ の計算の仕方を考える。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・$402-175$の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・不等号「$>$」「$<$」を用いた式の表し方を知り、数の大小を不等号を用いて表す。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・$1000-265$の計算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み、150円で買える品物を調べる。 ・数と式の大小、相等関係の表し方を知る。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・$2483+7156$, $7156-2483$の計算の仕方を考える。 ・5102 ± 4398の計算の仕方を考える。
次単元へ		7	<ul style="list-style-type: none"> ・4位数\pm4位数などの型の計算練習をして、数が大きくなっても筆算の仕方は変わらないことをまとめる。
		8	<ul style="list-style-type: none"> ・「力をつけるもんだい」に取り組む。
		9	<ul style="list-style-type: none"> ・「しあげのもんだい」に取り組む。
		10	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組む。

第2・3学年 算数科学習指導案（モデル1-2）

【本時の目標】	第2学年	【本時の目標】	第3学年
	<ul style="list-style-type: none"> 何十±何十，何百±何百などの計算の仕方を理解し，その計算ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 3位数－3位数の筆算の仕方を理解し，その計算をすることができる。

【本時の展開】（9／11問）		【本時の展開】（4／10時間）	
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> 10の束がいくつ分かで考えることを確かめる。 	1 前時の問題を解く ・80+50 ・120-30 2 本時の問題に出会う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">300+200</div> <ul style="list-style-type: none"> 前時の問題との違いを考え，発表する。 3 本時の課題を確認 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">何百+何百の計算のしかたを考えよう。</div>		<ul style="list-style-type: none"> 声に出しながら筆算を書く。 正しく解くように事前指導をしておく。
<ul style="list-style-type: none"> 前時は十の束がいくつ分かで考えたことを具体物を使って思い出させる。 	4 見通しをもつ 5 自分の考えを言葉や図で書く 6 ペアで交流 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">100のたばがいくつ分かで計算できる。</div>		<ul style="list-style-type: none"> 学習リーダーに答えを渡しておき，問題の解き進み具合に応じて，答え合わせができるようにしておく。
<ul style="list-style-type: none"> 問題を解いた後に，解き方を確認し，解決できるようにする。 	7 全体で解決 8 800-500を解く ・ペアで交流 ・全体で解決		3 本時の問題に出会う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">402-175</div> <ul style="list-style-type: none"> 前時の問題との違いを考え，発表する。 4 本時の課題を確認 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">くり下がりが2回あるひき算の計算の仕方を考えよう。</div>
<ul style="list-style-type: none"> 学習リーダーに答えを渡しておき，問題の解き進み具合に応じて，答え合わせができるようにしておく。 	9 適用問題に取り組む ・教科書の問題 ・計算スキルの問題		<ul style="list-style-type: none"> 同じ位同士で引けないときは，繰り下がりをするばよい。
<ul style="list-style-type: none"> 学習リーダーの合図で，振り返りを進められるようにしておく。 	10 振り返り		<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">くり下がりが2回あるときも，ひき算の仕方はかわらない。</div> 9 振り返り

第2・3学年 算数科単元指導計画

◇遠野市立附馬牛小学校授業実践例

第2学年		第3学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算		A 数と計算	
【単元名】		【単元名】	
たし算とひき算のひっ算 (東京書籍)		大きい数のわり算 (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 既習の筆算を基に、2位数の加法及び減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それを活用する能力を伸ばす。 筆算形式による3位数+1・2位数(百の位への繰り上がりなし)、3位数-1・2位数(百の位からの繰り下がりなし)の計算の仕方について理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> 除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考え、計算することができるようにする。 	
【小単元の指導計画】		【小単元の指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	・ 3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)	1	・ 何十を1位数でわる除法(十の位でわりきれ)の計算の仕方
2 本 時	・ 3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)	2 本 時	・ 何百何十を1位数でわる除法(各位がわりきれ)の計算の仕方
3	・ 3位数-1・2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)	次単元へ	
4	・ 3位数-1・2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)		

第2・3学年 算数科学習指導案（モデル2-1）

【本時の目標】	第2学年	【本時の目標】	第3学年
	・3位数－2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。		・ $96 \div 3$ などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。

【本時の展開】（2 / 4 時間）			【本時の展開】（2 / 2 時間）		
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> 前時までの筆算を掲示しておく。 児童の言葉で課題をつくらせる。 	1 問題をとらえる $146 - 89$ 2 既習の減法との違いを話し合う ・一の位と十の位に繰り下がりがある。 ・繰り下がりが2回ある。 3 学習課題を設定する	同時個別指導 共通終末	1 何十÷1桁、2桁÷1桁（本時）の問題に取り組む ・答え合わせをする。（既習のみ） ・1問題を読み、題意をとらえて立式する $\begin{array}{r} 96 \\ - 3 \\ \hline \end{array}$ 2 前時までの違いを話し合う ・一の位が0ではない。 ・一の位も計算する。 3 学習課題を設定する	<ul style="list-style-type: none"> 学習リーダーが進行する。 求めること、分かっていることを確認し、立式する。 	96まいの色紙を、3人で同じ数ずつ分けます。 1人分は何まいになりますか。
146-89のような筆算を、正しく計算するために気をつけることを考えよう。	4 解決の見通しをもつ ・答えの見通しをもつ。 ・考え方、解決方法の見通しをもつ。		4 解決の見通しをもつ ・考え方を見通し 96 を 90 と 6 に分けて考える。 10 のまとまりにして考える。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の言葉で課題を設定する。 	96÷3のような一の位が0ではない計算の仕方を考えよう
<ul style="list-style-type: none"> 気を付けることとは、前時までの筆算と違うところであることを確認する。 	5 自力解決をする		5 ペアで相談し、考えをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> 全体で、96を数カードで表し、10の束とばらで成り立つことを確認する。 既習の23×3の計算の仕方、$90 \div 3$の計算の仕方を想起し、活用できないか考えさせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 早く終わった児童は、前時までと違うところ、気を付けるところを考えると、事前に指示する。 	6 筆算の仕方を発表し、話し合う ・全体で練り合う。 ①前時と違うところを確認する。 ②気を付けることを発表する。		6 計算の仕方を発表し話し合う ・全体で練り合う。 ・考えを発表する。 7 考えをまとめる 8 定着問題を解く ① $125 - 49$ ② $113 - 65$ ・答え合わせをする。 ・気を付けるところをチェックする。	<ul style="list-style-type: none"> 数カードで操作し、児童の考えと結びつける。 一の位もわる数で割り、最後に答えを合わせることを確認する。 答えだけでなく、何十といくつに分けた計算方法を書かせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 一の位に繰り下げたときの十の位の数字を、数カードの操作で確かめる。 	7 発表した考えをまとめる		9 まとめをする	<ul style="list-style-type: none"> 必要な言葉を、学び合いの中で板書し、児童の言葉でまとめられるようにする。 	96÷3のような計算は、何十といくつに分けて考えれば、今までのわり算と同じように計算できる。
<ul style="list-style-type: none"> 必要な言葉を学び合いの中で板書し、児童の言葉でまとめられるようにする。 	8 定着問題を解く ① $125 - 49$ ② $113 - 65$ ・答え合わせをする。 ・気を付けるところをチェックする。		10 練習問題に取り組む 教科書 p 109・2	<ul style="list-style-type: none"> 必要な言葉を、学び合いの中で板書し、児童の言葉でまとめる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 各自答え合わせをする。 	9 まとめをする		11 振り返りをする	<ul style="list-style-type: none"> 各自答え合わせをする。 早く終わった児童には、スキルに取り組みさせる。 2、3年生をわたり、どちらも定着を図る。 	
<ul style="list-style-type: none"> 早く終わった児童には、ドリルに取り組みさせる。 	10 練習問題に取り組む 教科書 p 87・2③～		11 振り返りをする		

第2・3学年 算数科単元指導計画

◇奥州市立広瀬小学校授業実践例

第2学年		第3学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算		A 数と計算	
【単元名】		【単元名】	
かけ算（1）（東京書籍）		かけ算のひっ算（1）（東京書籍）	
【単元目標】		【単元目標】	
・乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。		・2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
	前小単元		前小単元
1	・「1つ分の数」「いくつ分」をとらえられるようになる。		
2			
3	・「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。	1	・2位数×1位数（部分積がみな1桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。
4	・「1つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り、乗法の意味を理解する。 （2時間扱いの2時間目）	2	
本時		3	・2位数×1位数（一の位の数との部分積が2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。
5	・乗法の場面をおはじきや式で表す活動を通して、乗法の意味の理解を確実にする。	4	・2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、及び部分積がみな2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。
6	・乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	5	・2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。
7	・倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときも乗法を用いることを理解する。	次小単元へ	
8	・身の回りから、乗法で全体の倍数を求められる場面を見出し、簡潔に表現できるよさを実感する。		
9	・学習内容を適用して問題を解決する。		
次小単元へ			

第3・4学年 算数科単元指導計画

◇久慈市立小袖小学校授業実践例

第3学年		第4学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算		D 数量関係	
【単元名】		【単元名】	
あまりのあるわり算（東京書籍）		折れ線グラフ（東京書籍）	
【単元目標】		【単元目標】	
・わり切れない場合の除法について理解し、除法の意味について理解を深めるとともに、それをを用いることができるようにする。		・身の回りの事象について、目的に応じて資料を折れ線グラフを用いて表したり、その特徴や傾向を読み取ったりして、統計的な見方を伸ばす。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	・ $14 \div 3$ の答えの見つけ方を考える。	前単元	
2	・余りの意味を知る。		
3	・ $13 \div 4$ の計算について余りと除数の関係を調べる。		
4	・ $16 \div 3$ の答えの見つけ方を考える。	1	・折れ線グラフについて知り、東京の気温の折れ線グラフを読み気付いたことを話し合う。
5	・わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。	2	・折れ線の傾きと変化の割合の関係をまとめる。
6	・計算練習と答えの確かめをする。	3	・2つの国の気温の変化のグラフを重ねて気付いたことを話し合う。
7 本 時	・ $23 \div 4$ の計算をする。 ・答えは商+1になることをまとめる。	4 本 時	・グラフの中の破線の意味を知る。 ・グラフの中間値を推測する。
8	・ $30 \div 4$ の計算をする。 ・商をそのまま答えとしてよいのか話し合う。	5	・棒グラフと折れ線グラフを重ね合わせたグラフの読み取りをする。
9	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	6	・「しあげのもんだい」に取り組む。
10	・「しあげのもんだい」に取り組む。		次単元へ

第3・4学年 算数科学習指導案 (モデル1-1)

【本時の目標】 第3学年 ・余りのとらえ方について理解を深める。	【本時の目標】 第4学年 ・破線の意味や、折れ線グラフの表し方や読み方の工夫について理解する。
--	---

【本時の展開】(3/5時間)		【本時の展開】(3/12時間)	
指導の留意点 ・復習問題の用意 ・学習リーダーの指示で始める。	学習活動 1 既習事項を振り返る ・復習問題に取り組む。	学習活動 1 問題をつかむ 一日の気温の変化を折れ線グラフに表しましょう。	指導の留意点 ・前までの教科書p82の折れ線グラフの書き方を思い出させ、教科書p82の折れ線グラフの表し方を確認し、1日、2日の折れ線グラフを作成させる。
・「分かれて乗る」ことは「4人ずつに分けていく」というこれまでの除法の問題と同意であることをおさえる。	2 問題の意味をつかむ 子どもが23人います。4人乗りのボートに分かれて乗ります。みんなが乗るにはボートは何艘あればいいですか。 ・立式し答えを考える 計算で求めた答えを、そのまま答えにしてよいのか考えよう。	・折れ線グラフの作成	
・何を求める問題であるかを確かめ、余りの3人などをどう考えさせる。	3 課題をつかむ 4 解決の見通しをもつ	2 課題をつかむ 計算で求めた答えを、そのまま答えにしてよいのか考えよう。	
・学習リーダーの指示で始める。 ・自力解決後ペアで話す時間を作る。	5 自分で問題を解く ・自分で出した答えをペアにわかるように説明する。	3 解決の見通しをもつ ・2つのグラフを見て気付いたことを書く。	・読み取りのしやすさや都合なところに着目させる。 ・未測値が何度になるのかも着目させたい。 ・学習リーダーの進行により発表された考えについてみんなで考える。
・黒板で磁石を動かしながら必要なボートの数を確認する。	6 みんなでだしがめる 7 まとめる わり算では、計算した答えに1をたした数がこたえになることもある。	4 自力解決をする ・グラフを見て気付いたことをまとめる。 ・発表しみんなで考える。	
・学習リーダーの指示で始める。	8 適用問題に取り組む p71問題1, 2	5 みんなで確かめる ・破線を使ったグラフをかく	・書画カメラ・デジタル教科書の活用 ・破線を使った用紙にグラフをかかせる
		6 まとめ ①折れ線グラフでは、破線を使ってメモリの途中を省くことがある。 ②実際にはかかっていないところでも、グラフを見るとだいたい数値がわかる。	
	9 今日の学習を振り返る 10 感想の交流をしあう	7 今日の学習を振り返る 8 感想の交流をしあう	

第3・4学年 算数科単元指導計画

◇葛巻町立小屋瀬小学校授業実践例

第3学年		第4学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算		D 数量関係	
【単元名】		【単元名】	
あまりのあるわり算 (東京書籍)		わり算の筆算(1) (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・ 除数と商が1位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。		・ 2数の倍関係を用いると、基準量が分からなくても全体量を求められる場合があることを理解する。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
	前小単元	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15mが3mの何倍かを求めるには、どんな計算をすればよいかを数直線を基に考える。 ・ 「3mの□倍が15m」の関係をおさえて、$3 \times \square = 15$の式で確認する。 ・ 基準値の何倍かを求めるには除法を用いればよいことをまとめる。
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 180cmの3倍にあたる大きさを求めるには、どんな計算をすればよいかを数直線を基に考える。 ・ 基準量の何倍かにあたる量を求めるには乗法を用いることをおさえ、数量の関係をまとめる。
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の関係を数直線を基に考え、□を用いて乗法の式に表す。 ・ □にあてはまる数を求めるには、乗法を用いるか数をあてはめて調べることをおさえる。
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の余りのないわり算の復習と、わり算について知っていることについての話し合いを通して、わり切れない場合があることに気づかせ、わり算への興味・関心を高める。 	4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3個で240円のヨーグルトを12個買ったときの代金の求め方を考える。 ・ 3個で200円のゼリーのように、単価がわり切れない場合も、12が3の倍かを考え、個数と代金の比例関係を用いれば12個の代金を求められることをおさえる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ $14 \div 3$の答えの見つけ方を考える。 ・ それぞれの考えを発表し、答えを確認する。 ・ 上記の計算結果を式に表すと$14 \div 3 = 4$余り2となることを知る。 ・ 余りの意味を知る。 	次小単元へ	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ $13 \div 4$の計算について余りと除数の関係を調べる。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題意をとらえ、$16 \div 3$と立式し、答えの見つけ方を考える。 ・ それぞれの考えを発表し、答えを確認する。 ・ 文章題に取り組む。 		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ わり切れない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。 		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算練習と答えの確かめをする。 		
次小単元へ			

第3・4学年 算数科学習指導案 (モデル1-1)

【本時の目標】 第3学年	【本時の目標】 第4学年
・除法と商が1位数の除法で、わり切れない場合の計算の仕方を理解する。	・2数の倍関係を用いると、基準量が分からなくても全量を求められる場合があることを理解する。

【本時の展開】(1/6時間)		【本時の展開】(4/4時間)	
指導の留意点	学習活動	学習活動	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習で取り組んできたことを本時の学習内容に生かせるようにする。 仲間分けの根拠を話させることで、本時の内容と既習事項との違いを明らかにし、見通しにつなげる。 グループ学習の進め方を提示し、リーダーを中心に学習が進められるようにする。 	<p>1 既習事項の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習で取り組んできた問題の答え合わせをする(ペア学習) 既習のわり算と未習のわり算を仲間分けする リーダーが中心となり、仲間分けの根拠を話し合う。 <p>2 問題把握</p>	<p>1 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 3こで1パックになっているヨーグルトのねだんは240円です。このヨーグルト12この代金はいくらですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 予習してきた結果を提示する。 わり算の式を使うことを確認する。 2通りのやり方があることを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>② 5箱で120円のキャラメルがあります。このキャラメル15箱の代金はいくらですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 2通りのやり方で解く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ ゼリーも3こで1パックになっていて、ねだんは200円です。このゼリー12この代金はいくらですか。</p> </div> <p>2 課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わり算を上手に使ってといてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習で取り組んできたことを本時に生かせるようにする。 式の意味の理解させながら、答えの確認を行う。 類似問題で解き方を確かめる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゼリーが14こあります。1人に3こずつ分けると、何人に分けられますか。</p> </div> <p>3 課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>14÷3のような計算の仕方を考えよう。</p> </div>	<p>3 課題設定</p>	<p>3 課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ①②の考え方を使う。 自力解決ができたなら、ペア学習をおこなう。 A 答えを話す。 イ 解き方を知らせる ウ 答えを話す。 エ 共通点や相違点を明らかにする。 オ 自力解決した結果を紙に書き、考え方を整理する。 <p>4 学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ゼリーの問題について話し合う。 ○1個分の値段を求めようとしたが、わり切れなかった。 ○12個は3個の4倍になっていることを使えば、どちらの問題も解ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②でやった2通りの解き方にあてはめて考えるようにさせる。 自分や友達の考え方について、常に教科書の考え方と比べながら進めさせる。 2つの考え方ともに除法・乗法を用いるが、その式や求めた数字の意味を理解させながら学習を進める。 どちらの問題にも使えるのは、倍の考え方であることを確認する。
<ul style="list-style-type: none"> 九九で解くという見通しをもたせる。 九九を使った式とアレイ図を関連づけ、「あまる」というイメージをもたせながら解き方を理解させるようにする。 3人ではまだ分けられないこと、5人には分けられないことを確かめ、「分ける」ことの意味を理解させる。 あまりがあってもよいことを伝え、答えが4あまり2であることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分けられる分だけ分けて、残りはあまりとなる。</p> </div>	<p>4 課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> わり算であることとわり切れない計算に分類されることを確かめる。 14÷3の答えの見つけ方を考える。 *九九を使う *あまりがあってもよいことを知る *アレイ図を使って確かめる。 「分ける」意味について話し合う。 	<p>5 練習問題に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> 類似問題に取り組む。 □÷3の問題 導入で使ったフラッシュカードの問題に取り組む。九九を使って解き、説明も書く。 解き終えたら、ペアで答え合わせをする。 <p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめをする。 家庭学習の課題を確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問題に合わせてわり算の式をつくるには、何を一つ分にするか考える。</p> </div> <p>5 練習問題に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> 「3本で100円のだんご、21本のねだんは？」の問題に取り組む。 <p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめをする。 家庭学習の課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 3年生と学習内容の交流を図る。 本時の学習内容の復習を課題とする。
<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた課題を与え、全員が時間内に解き終わるようにする。 学び合いで学習したことを生かして、答えを求めただけではなく、なぜその答えになるのか理由を考えさせる。 九九を使って答えを求め、解き方の説明ができていますか。 4年生と学習内容の交流を図る。 本時の学習内容の復習を課題とする。 	<p>同時終了</p>		

第3・4学年 算数科単元指導計画

◇葛巻町立五日市小学校授業実践例

第3学年		第4学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算		D 数量関係	
【単元名】		【単元名】	
あまりのあるわり算 (東京書籍)		折れ線グラフ (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・わり切れない場合の除法について理解し、除法の意味について理解を深めるとともに、それをを用いることができるようにする。		・身の回りの事象について、目的に応じて資料を折れ線グラフを用いて表したり、その特徴や傾向を読み取ったりして、統計的な見方を伸ばす。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動		学 習 活 動
1	・九九だけではすぐに答えを見つけられないわり算を考える。		前単元
2	・余りのある除法を図や式で考え、答えの表仕方をまとめる。		
3	・包含除の問題を図や式を用いて考え、余りは除数より小さくなることに気付く。	1	
4	・等分除の問題を図や式を用いて考え、包含除と同じ方法で求められるか考える。	2	・気温の変化を読み取り、線の傾きと変化の関係について考える。 ・折れ線グラフに表すために必要な事項を考え、表をもとに気温の変化を折れ線グラフで表す。
5	・除数×商+余り=被除数になることを図から考え説明し、検算について考える。	3	・波線の意味を理解し、省略した形で気温の変化をグラフに表す。
6	・練習問題に取り組む。	4	・棒グラフと折れ線グラフを重ねたグラフを読んだり、2本の折れ線があるグラフをかいたりし、それぞれの特徴について考える。
7 本 時	・余りのとらえ方について、余りを含め解答する場合・除いて解答する場合等を整理しまとめる。	5 本 時	・与えられたデータを正しくグラフ化し、数量の変化に注目しながら個々に問題づくりをし、互いに問題を出し合う。
8	・前時の確認をし練習問題に取り組む。	6	・単元のまとめ(評価テスト)
9	・練習問題に取り組む。		次単元へ
10	・単元のまとめ(評価テスト)		

第3・4学年 算数科学習指導案 (モデル2-2)

【本時の目標】 第3学年		【本時の目標】 第4学年		
<ul style="list-style-type: none"> 2つの除法の問題の条件から、余りをどのようにとらえるかを考え正しく答えることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を生かして折れ線グラフを作成し、読み取りの問題を考えたり、問題をもとにした学び合いをしたりすることができる。 		
【本時の展開】(7/10時間)		【本時の展開】(5/6時間)		
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の想起・定着を図る。 	1 既習内容の習熟	同時個別指導	1 課題設定 これまでの学習をもとに、 ①様々なことの数量の変化を折れ線グラフに表し、 ②作ったグラフをもとに問題を考え、 ③互いに問題を出し合ったり答え合ったりしてみよう。	
Q1:子どもが23人います。4人乗りのボートに分かれて乗ります。みんなが乗るには、ボートは何艘そうあればいいですか。 Q2:花が30本あります。この花を4本ずつたばにして、花たばを作ります。4本ずつの花たばはいくつできますか。	2 課題設定		<ul style="list-style-type: none"> 担任のデモンストレーションから、本時の課題、学習の流れ、最終的な目標をつかむ。 3つのデータからグラフ化するものを選択する。 	
<ul style="list-style-type: none"> 余りのとらえ方について、異なる条件の問題を比較検討することが、本時の学習の理解を深める上でより有効と考え、2問提示とする。 問題の要素をとらえさせ、2問ともわり算で考えていくことを確かめ、取り組む問題を定める。 	わり算の問題で、あまりをどのようにとらえて 答えるか考えよう。		<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標や学習の見通しをつかませるため、課題①～③の流れでデモンストレーションを行う。 グラフ化する場合に必要な事項や、問題づくりのポイントをデモンストレーションの中で確認していく。 児童に与えるデータは、単元の目標を受け、①グラフ化の目的に合った②可能な限り身近なもの(仮想を含む)③数量の変化が特徴的なデータを提示する。 	
<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ、図での確かめ方や考えのまとめ方をアドバイスする。 互いの考えから、課題の余りをどのようにとらえるかの違いに気付かせ、類似の練習問題に取り組ませる。 	3 課題解決 (1)式から、余りをどのようにして扱うか、答え方を話し合う。 (2)教科書を参考に、話し合った答え方をノートにまとめる。		2 課題解決① <ul style="list-style-type: none"> グラフ化に必要な事項を確認しながら、選択したデータを折れ線グラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークスペースを活用し、ゆとりのある学習空間で活動させる。
<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題に戻り、まとめはノートに記入させ確実にとらえさせる。 振り返りは学習内容に沿った率直な思いを引き出すようにする。 補助発問で確認したいことを引き出す。 	4 類似問題 教科書の問題に取り組む。		3 課題解決② <ul style="list-style-type: none"> 表した折れ線グラフから読み取れることをもとに、いくつかの問題を考え用紙に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に示した問題づくりのポイントを参考とした問題内容になっているか等アドバイスを行う。
わり算の問題では、もとめることによって、あまりをふくめて答える場合やふくめないで答える場合がある。	5 課題のまとめ、学習の振り返り <ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをノートに書き、わかったことや難しいと感じたことなど、学習内容に沿った自己評価を伝え合う。 	4 課題解決③ <ul style="list-style-type: none"> 作成したグラフと問題の用紙を提示し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成されたグラフや考えた問題、解答の様子など学び合いの様子に適切な評価を行う。 	
		5 本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題は学習の流れを示した内容であるため、学習のまとめとしての確認は行わず、振り返りで自己評価・相互評価を行う。 自己評価・相互評価は折れ線グラフを正しく表すことができたか、これまでの学習内容を参考に問題を考えることができたか、出題や解答に積極的に取り組めたかという視点で行う。 	

第3・4学年 算数科単元指導計画

◇花巻市立内川目小学校授業実践例

第3学年		第4学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算		A 数と計算	
【単元名】		【単元名】	
あまりのあるわり算 (東京書籍)		わり算の筆算(1)－わる数が1けた (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・わり切れない場合の除法について理解し、除法の意味について理解を深めるとともに、それをを用いることができるようにする。		・2～3位数を1位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
	前単元	1	<ul style="list-style-type: none"> 既習の除法を振り返る。 立式し、その式になる理由を考える。 $80 \div 4$の計算の仕方を考える。
		2	<ul style="list-style-type: none"> $600 \div 3$の計算の仕方を考える。
		3	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 $72 \div 3$の計算の仕方を考える。
		4	<ul style="list-style-type: none"> $72 \div 3$の筆算の仕方をまとめる。 $72 \div 3$の答えの確かめをする。
		5	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 $76 \div 3$の筆算の仕方を考える。 $76 \div 3$の答えの確かめをする。
		6	<ul style="list-style-type: none"> $86 \div 4$, $62 \div 3$の筆算の仕方を考える。 3年生で既習の$34 \div 7$を筆算で計算する。
1	<ul style="list-style-type: none"> 既習の除法を振り返る。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 $734 \div 5$の筆算の仕方を考える。
2	<ul style="list-style-type: none"> $14 \div 3$(除数と商が1位数の除法)の答えの見つけ方を考える。 	8	<ul style="list-style-type: none"> $734 \div 5$の筆算の仕方をまとめる。
3	<ul style="list-style-type: none"> $14 \div 3$の計算について、余りと除数の関係を調べる。 	9	<ul style="list-style-type: none"> $843 \div 4$, $619 \div 3$の筆算の仕方を考える。 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 $256 \div 4$の筆算の仕方を考える。
4	<ul style="list-style-type: none"> 題意をとらえ(等分除), $16 \div 3$と立式し、答えの見つけ方を考える。 	10	<ul style="list-style-type: none"> $256 \div 4$の筆算の仕方をまとめる。 15m が3 m の何倍かを求めるには、どんな計算をすればよいのかを数直線を基に考える。 基準量の何倍かを求めるには除法をもちいれればよいことをまとめる。
5	<ul style="list-style-type: none"> わり切れない場合の除法計算について、答えの確かめ方を考える。 	11	<ul style="list-style-type: none"> 180cmの3倍にあたる大きさを求めるには、どんな計算をすればよいのかを数直線を基に考える。 基準量の何倍かにあたる量を求めるには情報を用いることをおさえ、数量の関係をまとめる。
6	<ul style="list-style-type: none"> わり切れない場合を含む除法の計算練習をする。 	12	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を数直線を基に考え、□を用いて式に表す。
7 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 題意をとらえ, $23 \div 4$と立式・計算し、余りのとらえ方について考える。 	13 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 3個で240円のヨーグルトを12個買ったときの代金の求め方を考える。 3個で200円のゼリーのように、単価がわりきれない場合について考える。
8	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。」 	14	<ul style="list-style-type: none"> $74 \div 2$の暗算の仕方を考える。 $740 \div 2$の暗算の仕方を考える。
9	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげのもんだい」に取り組む。 	15	<ul style="list-style-type: none"> 「ちからをつけるもんだい」に取り組む。」
10	<ul style="list-style-type: none"> 「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組む。 	16	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげのもんだい」に取り組む。

第3・4学年 算数科学習指導案 (モデル2 - 2)

【本時の目標】	第3学年	【本時の目標】	第4学年
	・余りのとらえ方について理解を深める。		・2数の倍関係を用いると、基準量が分からなくても全体量を求められる場合があることを理解する。

【本時の展開】(7/10時間)		【本時の展開】(13/16時間)	
指導の留意点	学習活動	学習活動	指導の留意点
<ul style="list-style-type: none"> 問題を読み、題意をとらえる。 先に、子どもが20人の場合4人乗りボートが何艘必要かという問題から入る。(わり切れる) 場面絵を手掛かりにし、分かっていることと何を求めるかを確認する。 どんな式になるか考え、立式させる。 	1 問題把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 子どもが23人います。 4人乗りのボートに分かれて乗ります。みんなが乗るには、ボートは何艘あればいいですか。 </div>	形態同時導入	<ul style="list-style-type: none"> 問題・課題を確認する。実物のゼリー 問題・課題提示(黒板用) 1個あたりの値段が求められないということを確認し、求め方の見通しをもたせる。 立式する具体的な理由・根拠が、自分の考えた図に基づいているか確かめさせる。 図の一つ分の量が均等になるように助言する。 手がつかない児童には、図のかき方の例示(ヒントカード)を用意する。 ホワイトボードに自分の考えをまとめさせる。 自分が考えた図を明確にさせ、式の根拠をわかりやすく発表させる。 1個あたりの値段がもとめられない場合にも、何倍かをもちめる方法が適用できることを確かめさせる。 途中計算が簡単な式は、暗算で求めて式に表さない児童もいるが、問題文中にない数を用いている場合は、その数字がどのように導き出されたかを明らかにさせる。 考え方と式を関連付けさせながら根拠を説明できたことを認め、次の問題への意欲につなげる。 2数の倍関係を用いると、基準量が分からなくても全体量を求められることのおさえる。
	2 解決の見通しをもつ 式 $23 \div 4 = 5$ あまり3 3 課題の把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> みんなが乗るためには、あまりをどうするか考えよう。 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> 半具体物(おはじき、数図ブロック)の操作活動や図を使うことで、余りが出ない場合と出る場合があることを実感させる。 図や絵に描かせることでじっくり考えたり、式と対応した説明を書いたりできるようにする。 商とあまりが何を表しているかおさえるようにする。 「みんな」という部分に着目させ「何人あまりますか」という尋ね方をしていないことから、あまりが出るが、答えに余りを使わないことを確認する。 自分が考えた図を明確にさせ、式の根拠を分かりやすく発表させる。 実態によって誤答例を提示し、その考えについて話し合わせる。 考え方と式を関連付けさせながら、根拠を説明できたことを認め、次の問題への意欲につなげる。 	4 一人で解決に向かう 式 $23 \div 4 = 5$ あまり3	共通個別指導	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面に応じて倍の考え方を使っていくことを伝える。 授業を通して気付いたことや友だちの考えで分かったことなどをノートにまとめさせる。 問題を読み、題意をとらえる。 74÷2の式になることを確認する。 暗算で計算することを確認する。
	5 友だちと考えを伝え合う 6 全体で効果的な解決のしかたを確かめて、まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> みんなが乗るために、ボートの数を1艘ふやす。 </div>		
<ul style="list-style-type: none"> 授業を通して気付いたことや友だちの考えで分かったことなどをのりとまとめさせる。 	7 練習問題に取り組む	6 本時の学習を振り返って分かったことや気付いたことをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面に応じて倍の考え方を使っていくことを伝える。 授業を通して気付いたことや友だちの考えで分かったことなどをノートにまとめさせる。 問題を読み、題意をとらえる。 74÷2の式になることを確認する。 暗算で計算することを確認する。
	8 本時の学習を振り返って分かったことや気付いたことをまとめる		
	9 次時予告		

第3・4学年 算数科単元指導計画

◇花巻市立笹間第二小学校授業実践例

第3学年		第4学年	
【領域】		【領域】	
A数と計算(6)		A数と計算(6)	
【単元名】		【単元名】	
分数 (東京書籍)		分数 (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・分数の意味や表し方, 分数の加法及び減法の意味について理解する。		・分数についての理解を深めるとともに, 同分母の分数の加法及び減法の意味や計算の仕方を理解し, それらを用いることができるようにする。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動		学 習 活 動
1	・「三分の一」「 $1/3m$ 」の意味を考える。		前単元
2	・「三分の二」「 $2/3m$ 」の意味を考える。	1	・「真分数」「仮分数」の意味を考える。
3	・1Lを□等分した△こ分の体積の表し方を考える。	2	・「帯分数」の意味を考える。
4	・1mを□等分して分数ものさしを作る。	3	・仮分数を帯分数に直す方法を考える。
5	・分数を数直線上に表す表し方を考える。	4	・帯分数を仮分数に直す方法を考える。
6	・単位量を超える大きさを分数で表すときの表し方について考える。	5	・大きさの等しい分数の見つけ方を考える。
7	・分母が10の分数と小数の関係について考える。	6	・同分母分数の加法・減法の計算の仕方を考える。
8 本 時	・同分母分数の加法計算の仕方を考える。	7 本 時	・同分母帯分数の加法計算の仕方を考える。
9	・同分母分数の減法計算の仕方を考える。	8	・同分母帯分数の減法計算の仕方を考える。
10	・単元のまとめをする。	9	・単元のまとめをする。
11	・発展問題に取り組む。	10	・発展問題に取り組む

第3・4学年 算数科学習指導案 (モデル2-3)

【本時の目標】	第3学年	【本時の目標】	第4学年
	・ 分数の加法計算の仕方について理解し、計算ができる。		・ 同分母の帯分数の加法計算の仕方を理解し、その計算ができる。

【本時の展開】(8/11時間)			【本時の展開】(7/10時間)		
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小数のたし算ができることを想起させ、分数もたし算ができることに気付かせる。 	<p>1 (1) 問題を知る</p> <p>ジュースがパックに3/10L、びんに2/10L 入っています。合わせて何Lありますか。</p> <p>(2) 立式する $3/10 + 2/10$</p> <p>2 課題をたてる</p>	同時導入	<p>1 (1) 問題を知る</p> <p>ジュースがパックに1 2/5 L、びんに4/5 L 入っています。合わせて何Lありますか。</p> <p>(2) 立式する $1 2/5 + 4/5$</p> <p>2 課題をたてる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通事項がある問題を提示し、興味関心をもたせるとともに、下学年の問題(既習事項)と関連付けて解決しようとする意欲を高める。 	
	<p>3 見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1Lますの図 ・ 数直線 ・ 式、言葉 <p>4 自力解決する</p> <p>①図 ②式と言葉</p> <p>5 交流する</p> <p>(1) 自分の考えを発表する。 (2) $7/10 + 3/10$の計算の仕方を説明する。</p> <p>6 まとめる</p>		<p>3 見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮分数になおして計算する。 ・ 整数と分数に分けて計算する。 <p>4 自力解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮分数になおす。 ・ 整数と分数に分ける。 <p>5 交流する</p> <p>(1) 自分の考えを発表する。 (2) $12/5 + 21/5$の計算の仕方を説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早く終わった児童には、別の方法も考えさせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図や式を用いて、分子だけ足すことの意味を理解させる。 ・ 式と言葉で説明させ、交流させる。 	<p>分数でもたし算ができるか調べよう。</p>		<p>帯分数のたし算のしかたを考えよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 整数の計算に帰着できることを確認する。 	<p>分数のたし算は、もともになる分数の何こ分で計算できる。(分子だけたす)</p>		<p>6 まとめる</p> <p>帯分数のたし算の計算のしかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整数部分と分数部分に分けて計算する。 ・ 帯分数を仮分数になおして計算する。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「□は、△の○こ分」と書かせながら問題を解かせる。 	<p>7 教科書の問題を解く</p>		<p>7 教科書の問題を解く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮分数になおす方法、整数と分数に分ける方法どちらにも取り組ませる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 上学年に学習したことや感想を伝え、共に学ぶ喜びを味わわせる。これから先の学習に関心をもたせるようにする。 	<p>8 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 板書で4年生との関連を確認する。 ・ 感想を発表する。 	同時終末	<p>10 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 板書で3年生との関連を確認する。 ・ 感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下学年に対する感想やアドバイスを伝える。既習の学習も振り返るようにする。本時の学習で分かったことを発表させる。 	

第5・6学年 算数科単元指導計画

◇花巻市立笹間第二小学校授業実践例

第5学年		第学年	
【領域】		【領域】	
A 数と計算		D 数量関係	
【単元名】		【単元名】	
偶数と奇数 倍数と約数 (東京書籍)		比と比の値 (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
・ 偶数・奇数・倍数・約数を知り、整数の性質の理解を深め、整数の見方や数の感覚を豊かにする。		・ 2つの数量の割合を表す方法として比について理解し、生活や学習で活用する能力を伸ばす。	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
	前単元	1	・ 二つの量の割合の表し方を考える。
		2	・ 比の表し方と意味を考える。
		3	・ 等しい比の意味と表し方を考える。
1	・ 「偶数」「奇数」の意味を考える。	4	・ 等しい比の作り方と比の性質を考える。
2 本 時	・ 偶数・奇数を2でわったときの余りに着目し、整数の分類について考える。	5 本 時	・ 比の性質・比の値の活用の仕方を考える。
3	・ 「公倍数」「最小公倍数」の意味について考える。	6	・ 小数や分数で表された比を簡単に表す方法を考える。
4	・ 数直線を使った公倍数の調べ方を考える。	7	・ 比の一方にあたる数量の求め方を考える。
5	・ 最小公倍数と公倍数を利用した公倍数の求め方を考える。	8	・ 全体量と比の関係を考える。
6	・ 3つの数の公倍数の求め方を考える。	9	・ 直角三角形の特徴をつかむ。
7	・ 約数・素数の意味を考える。	10	・ 単元のまとめをする。
8	・ 「公約数」「最大公約数」「素数」の意味を考える。	11	・ 発展問題に取り組む。
9	・ 公約数の求め方を考える。	次単元	
10	・ 単元のまとめをする。		
11	・ 発展問題に取り組む。		

第5・6学年 算数科学習指導案 (モデル1-1)

【本時の目標】	第5学年	【本時の目標】	第6学年
	・偶数・奇数の意味や性質，整数の分類を理解する。		・比の性質や比の値を用い，比を簡単にすることができる。

【本時の展開】(2/11時間)		【本時の展開】(5/10時間)	
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点
・共通の課題として教師が提示。	1 計算スキル・計算ドリル(前時，または既習の内容)	形態	1 問題を知る 4 : 10と6 : 15が等しい比かどうか調べよう。
・教師が提示する。	2 課題を知る		2 課題を作る (1)一目で判断できない原因を確認する。 (2)既習事項を確認する。 等しいか調べよう。
・ICT活用 ※数字を消して提示する。 (1)+1 (2)奇数 (3)言葉	3 表し方を理解する (1)図と式の関係 (2)数直線並び (3)ベン図	形態	3 3つの方法で調べる
	4 問題を解く ①②→気づきを書き込む(ノート・黒板) ③式で表す。		4 交流する ①公倍数を見つけて ②小さい整数にして ③比の値を求めて
	5 まとめる	形態	5 確認する ①の公倍数とは，比較対象の比同士で公倍数が使われている。 ②の小さい整数には公約数を一つの比の中で考えている。
	6 学習を振り返る ・板書で6年生との関連を確認する。		6 まとめる 比は「比を簡単にする」と比べやすい。
・上学年に学習したことや感想を伝え，共に学ぶ喜びを味わわせる。これから先の学習に関心をもたせるようにする。		形態	7 教科書の問題を解く
			8 学習を振り返る ・板書で5年生との関連を確認する。
			・3つの方法を想起させる。 ①公倍数 ②公約数 ③比の値
			・友達の考え等も記述させる。
			・3つの考え方のどれが効率が良いか考えさせる。
			・下学年に対する感想やアドバイスを伝える。既習の学習も振り返るようにする。本時の学習で分かったことを発表させる。

第5・6学年 算数科単元指導計画

◇岩泉町立門小学校授業実践例

第5学年		第6学年	
【領域】		【領域】	
B 量と測定		B 量と測定	
【単元名】		【単元名】	
単位量あたりの大きさ (東京書籍)		速さ (東京書籍)	
【単元目標】		【単元目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 平均の意味を理解し、それらを用いることができる。 異種の2量の割合としてとらえられる数量について、比べることの意味や比べ方、表し方を理解し、それを用いることができる。 		<ul style="list-style-type: none"> 速さについて理解するとともに、求めることができるようにし、生活や学習に活用する能力を伸ばす。 	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	<ul style="list-style-type: none"> 6個のオレンジから絞ったジュースの量から、1個当たりにはぼれる量について考える。 ならした量を計算で求める方法を考える。 用語「平均」を知り、求め方をまとめる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 走った距離、時間が異なる人の速さの比べ方を考える。 距離をそろえて1m当たりの時間で比べたり、時間をそろえて1秒当たりの距離で比べたりすればよいことをまとめる。
2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> サッカーの1試合当たりの平均得点について考える。 平均を求めるときは0を含めて考えることや、分離量であっても平均が小数になる場合があることが分かる。 	2 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線のはやて号とのぞみ号の速さを比べる。 速さを求める公式をまとめる。 用語「時速」「分速」「秒速」の意味を知り、公式を用いて速さを求める。
3	<ul style="list-style-type: none"> 平均を求める問題の解決を通して、平均の意味や求め方を確かめる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ツバメの速さと時間から道のりの求め方を考える。 道のりを求める公式をまとめ、公式を用いて道のりを求める。
4	<ul style="list-style-type: none"> 1個のオレンジからとれたジュースの平均の量から、20個ではどれだけになるか考える。 平均を使って、全体量を予測する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 台風の速さと道のりから時間の求め方を考える。 時間をx分として式に表し、時間を求める。
5	<ul style="list-style-type: none"> 〔やってみよう〕自分の1歩の歩幅を、平均の考えを使って求め、それを使って実際にいろいろな距離や道のりを求める。 	5	<ul style="list-style-type: none"> 〔やってみよう〕自分の歩く速さを求め、比べてみる。
6	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけよう」に取り組む。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 時間を分数で表し、動く歩道の速さや飛行機の時間を求
7	<ul style="list-style-type: none"> 面積とうさぎの数が違う4つの小屋の混み具合の比べ方を考え、匹数か面積のどちらかをそろえればよいことを考える。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 飛んだ時間をx分、飛んだ道のりをykmとして、道のりを求める式を書き、表にまとめる。
8	<ul style="list-style-type: none"> 面積をそろえて1m²当たりの匹数で比べたり、匹数をそろえて1匹当たりの面積で比べたりすればよいことをまとめる。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 飛んだ時間と道のりの関係を調べ、飛んだ道のりは、飛んだ時間に比例していることを確かめる。
9	<ul style="list-style-type: none"> 北京市とバンクーバー市の人口の混み具合を比べる。 「人口密度」を知り、人口密度を求める。 	9	<ul style="list-style-type: none"> 1時間に90枚印刷する機械と12分間に20枚印刷する機械の速さを比べる。
10	<ul style="list-style-type: none"> 米のとれ具合を、単位量あたりの大きさをを用いて調べる。 	10	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。
11	<ul style="list-style-type: none"> 1m当たり7gの針金で工作するとき、52.5gの作品では何mの針金を使ったか考える。 	11	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげのもんだい」に取り組む。
12	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りから単位量当たりの考えを使う場面等を探す。 	次単元へ	
13	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 		
14	<ul style="list-style-type: none"> 「しあげのもんだい」に取り組む。 		

第5・6学年 算数科学習指導案 (モデル2-3)

【本時の目標】	第5学年	【本時の目標】	第6学年
	・値に0がある場合の平均の求め方や、分離量でも平均は小数で表す場合があることを理解する。		・速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求めることができる。

【本時の展開】(2/14時間)		【本時の展開】(2/11時間)		
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点	
	1 問題把握	同時導入		
<p>下の数は、えみさんのサッカーチームの最近6試合の得点を表したものです。</p> <p>1, 4, 0, 5, 3, 2</p> <p>最近6試合では、1試合に平均何点とったことになりますか。</p>	<p>新幹線のはやて号は、3時間で630km 走り、のぞみ号は2時間で480km 走ります。</p> <p>どちらが速いでしょうか。</p>			
・0が入っていることを確かめる。	2 課題設定			
	0がある場合の平均を、計算で求めよう。		速さの表し方を考えよう。	
・教科書の友達の考えを提示する。	3 自力解決		3 集団解決	
・自分の考えを一方に決定し、その考えを基に、共通点や相違点を考えさせる。	(1) 平均の求め方を基にして、答えを求めてみる。		(1) 数直線図を基に、1時間あたりに走る道のりで比べることに気付く。	・速さを比べる基本概念について確認させる。
・学習リーダーが進行役となり、話し合いを進める。	(2) 教科書の2人の考えの共通点と相違点について話し合う。		(2) わり算の式を立てて、1時間あたりの道のりを求め、速さを比べる。	・比べ方で困るときは、教科書の友達の考えを参考にしてよいことにする。
	(3) どちらの考えが正しいといえるか話し合う。		(3) 速さの公式を導く。	
	4 集団解決		4 自力解決	
●平均を求める目的に応じて0も含めて平均を求めることや、分離量の場合も平均の値を小数で表してよいことを理解しているか。	(1) 教科書の考えを基に、0を含む場合でも平均を求める方法は変わらないこと、小数で表せないものも平均では小数で表すことがあることを確かめる。		(1) のぞみ号の速さを分速で表す。	・どちらが速いかを確かめた上で、速さの求め方について確かめる。
	(2) 教科書の適用問題に挑戦する。		(2) パシヨウカジキの時速、分速、秒速を求める。	●速さの表し方を基に、速さを求める公式をつくり、速さを求めることができたか。
	5 まとめる		5 まとめる	
	0があっても平均の求め方は変わらない。平均は小数で表すこともある。	同時終末		速さは、単位時間に進む道のりで表す。 速さ＝道のり÷時間
・自己の学習についてふり返らせることで、次時への意欲につなげる。	6 本時の学習についてふり返り、学習感想を書き、学習の成果を交流する。		6 本時の学習についてふり返り、学習感想を書き、学習の成果を交流する。	・自己の学習についてふり返らせることで、次時への意欲につなげる。
	7 次時の学習の見通しをもつ。		7 次時の学習の見通しをもつ。	

算数科の資料作成にご協力いただいた学校

- 葛巻町立小屋瀬小学校
- 葛巻町立五日市小学校
- 花巻市立笹間第二小学校
- 花巻市立内川目小学校
- 遠野市立附馬牛小学校
- 奥州市立広瀬小学校
- 岩泉町立門小学校
- 久慈市立小袖小学校

その他の教科

目次

【社会科】

- (1) 第5学年「食料生産を支える人々」 第6学年「武士の世の中をさぐろう」(モデル1-2) -----93

【音楽科】

- (2) 第2学年「ドレミになれよう」 第3学年「ドレミになれよう」(モデル2-3) -----95

【体育科】

- (3) 第5学年「サッカー」 第6学年「サッカー」(モデル2-3) -----97



第5・6学年 社会科単元指導計画

◇複式指導資料第29集「岩手の小規模・複式指導ハンドブック」掲載例

第5学年		第6学年	
【単元名】		【単元名】	
食料生産を支える人々「漁業は今・・・」（教育出版5年上）		武士の世の中をさぐる「時宗、元の大軍と戦う」（教育出版6年上）	
【単元目標】		【単元目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・農業や水産業がさかんな地域の様子を具体的に調べ、食料生産に携わる人々の生産を高まるための工夫や努力を理解するとともに、生産や輸送に関する費用や価格にも目を向け、日本の農業・水産業の現状と課題をとらえることができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・武士による政治のしくみや農業技術の進歩などを調べ、武士や農民・町人の暮らしが変化していった様子をとらえる。 	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	・魚が多くとれる場所を、スーパーで売られている水産物や地図資料を調べ、学習課題をつくる。	1	・武士のくらしと貴族のくらしを比較しながら、武士の世の中の特徴を予想し、学習課題をつくる。
2	・資料をもとに、さんま漁の苦労や工夫を調べ、海で働く人たちの願いや悩みについて考える。	2	・源氏が平氏を滅ぼす過程を調べ、武士が力をもった経緯をつかむ。
3	・水産業が盛んな根室港の様子を調べ、さんまを出荷する加工工場働く人たちの工夫や努力を考える。	3	・鎌倉の地形的特徴を読み取り、これまでの政治の中心との違いを考え、「御恩」と「奉公」の意味をつかみ、幕府（将軍）と御家人の関係を理解する。
4 本 時	・グラフから、漁業の生産量が減り続けていることを読み取り、その問題点について考える。	4 本 時	・元との戦いの絵や資料から元との戦いを調べ、幕府の命令にもかかわらず、ほうびがもらえなかった武士の気持ちを考える。
5	・写真や地図をもとに、宮古で養殖漁業や栽培漁業が盛んなわけを調べ、そこで働く人の思いについて調べる。	5	・金閣と銀閣の資料から、類似点・疑問点を見つけ、今に伝わる文化を調べる。
6	・さんまがどのようにして各地に運ばれているか、トラック輸送の働きやその問題などについて調べる。	6	・大和絵と水墨画を比べ、その違いを考える。 ・室町文化として、水墨画を体験する。
7	・さけの栽培漁業とはどんな仕事をしているかを調べ、携わる人たちの工夫や努力について考える。	7	・想像図や各地の特産物から農業の進歩の様子を読み取る。 ・力をつけてきた農民や町人が自分の暮らしを守るために様々な取り組みをしたことを調べる。
8	・「海は森の恋人」という言葉の意味を考え、自然環境を守ろうとする努力や願いを調べ、自分たちができることについて考える。	8	・鎌倉、室町の人物を一人選び、新聞に表現する。
次単元へ		次単元へ	

第5・6学年 社会科学習指導案 (モデル1-2)

【本時の目標】	第5学年	【本時の目標】	第6学年
	・ 漁業生産量のグラフから、生産量が減っている理由を考 えることができる。		・ 元との戦いの様子を調べ、鎌倉幕府が倒れたことを元と の戦いと関係づけて考えることができる。

【本時の展開】 (4/8時間)		【時の展開】 (4/8時間)				
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点		
<ul style="list-style-type: none"> 資料①「漁業別の生産量の移り変わり」のグラフを提示する。 * グラフの読み取りの観点は以下の3つ <ol style="list-style-type: none"> ①表題 ②変化 ③その原因を予想する 学習リーダーが黒板にまとめる。 ③について予想できない場合には養殖漁業がなぜ増えてきているのかを考えさせ、課題につなげたい。 	1 本時の学習課題をつかむ (1) 資料①から分かることをノートにまとめ、発表する。	1 本時の学習課題をつかむ (1) 資料①から分かることを発表する。 (2) 資料②から元との戦いであることを確認する。 (3) 課題を提示する。 (4) 予想する。	1 本時の学習課題をつかむ (1) 資料①から分かることを発表する。 (2) 資料②から元との戦いであることを確認する。 (3) 課題を提示する。	<ul style="list-style-type: none"> 資料①「蒙古襲来絵詞」を提示する。 鎌倉時代に起きた戦争の絵であることを確認する。 資料②「元の領域図」を提示する。 戦いが2回あったことを確認する。 		
	2 課題を提示する。		2 課題を追究する (1) 資料集で元寇について調べる。		2 課題を追究する (1) 元寇の戦いを振り返りまとめる。 (2) 幕府と御家人の気持ちを吹き出しに書く。	<ul style="list-style-type: none"> 幕府の勝敗を予想させ、その根拠を発表させる。 一人学びの流れを全体を紙板書にて確認させる。 * 調べる観点は以下の5つ。 <ol style="list-style-type: none"> ① 2回の元寇の名前 ② 2回の元寇の年号 ③ 当時の執権 ④ 領国の武器の違い ⑤ 勝敗とその理由 黒板に表を提示し、観点ごとに学習リーダーを中心に書き込ませる。
	3 予想する。		2 課題を追究する (1) 資料②から、漁業生産が減っている理由を考える。		3 課題をまとめる (1) 元寇の戦いを振り返りまとめる。 (2) 幕府と御家人の気持ちを吹き出しに書く。	<ul style="list-style-type: none"> 封建制度が崩壊していくことを理解する。
	2 漁業の種類について用語の確認をする。 資料②「水産業で働く人の移り変わり」を提示する。 年々働く人が減っていることから、漁業生産も減っていることに気付かせる。 資料③「200海里経済水域」を提示する。 一人学びの流れを全体を紙板書にて確認させる。 調べる観点は以下の3つ。 ① 200海里経済水域とは、何か。 ② 何のために作ったのか。 ③ なぜ、日本の漁業生産量が減ったのか考える。		(2) 教科書で、200海里経済水域について調べる。		(3) 吹き出しの内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 吹き出し用紙に書き込む。
	(3) 調べたことを発表する。		3 課題をまとめる (1) 生産量が減った理由についてキーワードでまとめる。		4 学習の振り返りをする 5 次時の予告をする	4 学習の振り返りをする 5 次時の予告をする
農業生産量が減っているのはなぜだろう？	4 学習の振り返りをする 5 次時の予告をする					

第2・3学年 音楽科単元指導計画

◇複式指導資料第28集「岩手の小規模・複式指導ハンドブック」掲載例

第2学年		第3学年	
【題材名】		【題材名】	
ドレミになれよう (教育芸術社)		ドレミになれよう (教育芸術社)	
【教材名】		【教材名】	
「ドレミのうた」「ドレミでうたおう」「かっこう」 「かりかりわたれ」「ぷっかりくじら」		「ドレミのうた」「ドレミでうたおう」「かっこう」 「かりかりわたれ」「海風きって」	
【題材の目標】		【題材の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 歌ったり身体表現をしたりして、音高感やフレーズ感を身に付ける。 階名で模唱や暗唱をしたり、これをもとに楽器で演奏したりする。 		<ul style="list-style-type: none"> 旋律を階名で模唱したり視唱したりして、楽譜を見て歌ことに慣れる。 ハ長調の音階を知り、楽譜を見て演奏することに慣れる。 	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	・ドレミの体操をしながら音楽を聴いたり歌ったりする。	1	・ドレミ体操をしながら、階名唱の練習をする。 ・ハ長調の音階と階名の読み方を練習する。
2	・曲の感じをつかみ、歌詞唱や階名模唱をしたり、ドレミあそびをしたりする。	2	・階名唱や歌詞唱をしたり、階名暗唱をしたりする。
3	・鍵盤ハーモニカで旋律やリズムフレーズを演奏する。	3	・楽譜を見ながら、「指またぎ」「指くぐり」などの奏法を意識し鍵盤ハーモニカの演奏をする。
4 本 時	・旋律を階名暗唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする。	4 本 時	・旋律を階名唱したり、リコーダーで演奏したりする。
5	・階名暗唱で歌ったり、短いふしをつくり楽器で演奏したりして楽しむ。	5	・短いふしをつくり、階名で歌ったり、楽器で演奏したりして楽しむ。

第2・3学年 音楽科学習指導案（モデル2-3）

【本時の目標】	第2学年	【本時の目標】	第3学年
	・旋律を階名暗唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする。		・旋律を階名視唱したり、リコーダーで演奏したりする。

【本時の展開】（4 / 5 時間）			【時の展開】（4 / 5 時間）			
指導の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導の留意点		
<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を生かし、楽しく歌わせる。 音高感を意識させながら、楽しく身体表現をさせる。 模唱を中心に、音高感を意識させながら楽しく活動をさせる。 三年生の視唱を抛り所に復唱させる。 鍵盤ハーモニカで演奏することを確認する。 	1 「ドレミのうた」を歌う 2 「ドレミのうた」に合わせ、ドレミの体操を行う 3 3音カードを核にしたドレミ遊びを行う 4 「かりかりわたれ」を聴いて、曲の感じをつかむ		1 「ドレミのうた」を歌う 2 「ドレミのうた」を階名唱で歌う 3 3音カードを核にした視唱を行う 4 「かりかりわたれ」を聴いて、曲の感じをつかむ	<ul style="list-style-type: none"> 音高感を意識させながら歌わせる。 ゆっくりとしたテンポで、音の高さを感じ取らせながら歌うようにさせる。 隣接する音3音の視唱になれさせる。 楽譜を見て視唱させ、それをもとにリコーダーで演奏することを確認する。 		
	「かりかりわたれ」のえんそうをしよう。					
	5 「かりかりわたれ」の暗唱をする 6 暗唱をもとに、鍵盤ハーモニカの練習を行う 7 演奏練習を行う 8 まとめの演奏をする 9 自己評価をする 10 次時の学習内容を知る		5 リコーダーの視奏練習を行う 6 「レ・ド・ラ」の運指練習を行う 7 運指に気をつけて視奏練習を行う 8 まとめの演奏をする 9 楽譜視奏を含めた自己評価をする 10 次時の学習内容を知る		<ul style="list-style-type: none"> 「レ」の音を確認する。 合奏したり、それぞれで聴き合ったりしながら、音の響き合いを意識させる。 ふしづくりを行うことを伝える。 	
	「かりかりわたれ」のえんそうをしよう。					
	「かりかりわたれ」のえんそうをしよう。					
	「かりかりわたれ」のえんそうをしよう。					
	「かりかりわたれ」のえんそうをしよう。					

第5・6学年 体育科単元指導計画

◇葛巻町立小屋瀬小学校授業実践例

第5学年		第6学年	
【領域】		【領域】	
E ボール運動		E ボール運動	
【単元名】		【単元名】	
サッカー		サッカー	
【単元目標】		【単元目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 互いに協力し、役割を分担し、練習やゲームを行うことができる。 課題にそって自己の学びのめあてを立てたり課題解決へ向けてルールに沿った作戦を広めながらゲームをすることができる。 ボールを足で操作し、自分の狙いたいところへボールをパスしたり、シュートしたりすることができる。また、ボールを保持する人と自分との間に守備者を入れないような場所に移動できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 互いに協力し、役割を分担し、練習やゲームを行うことができる。 課題にそって自己の学びのめあてを立てて学習に臨むとともに、ルールに沿った作戦を広めながらゲームをすることができる。 ボールを足で操作し、自分の狙いたいところへボールをパスしたり、シュートしたりすることができる。また、得点しやすい場所に移動し、パスを受けてシュートすることができる。 	
【指導計画】		【指導計画】	
時	学 習 活 動	時	学 習 活 動
1	・ドリル、パスゲームの仕方を知る。	1	・ドリル、パスゲームの仕方を知る。
2	・センタリングサッカーの仕方を知る。	2	・センタリングサッカーの仕方を知る。
3	・センタリングサッカーでボールを保持したとき、前が開いていない場合確実にサイドへ蹴る。	3	・センタリングサッカーでボールを保持したとき、前が開いていない場合確実にサイドへ蹴る。
4	・パスゲームやセンタリングサッカーで周りを見回しながらゲームする。	4	・パスゲームやセンタリングサッカーで周りを見回しながらゲームする。
6 本 時	・センタリングサッカーで、位置を考えて動く。	6 本 時	・センタリングサッカーで、位置を考えて動く。
7	・4：3でセンタリングサッカーを行う。	7	・4：3でセンタリングサッカーを行う。
8	・パスを出す人と、パスを受ける人の連動	8	・パスを出す人と、パスを受ける人の連動
9		9	
10	・4：3で大会を行う。	10	・4：3で大会を行う。

第5・6学年 音楽科学習指導案（モデル2-3）

【本時の目標】	第1学年	【本時の目標】	第2学年
	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗に対して公正な態度で相手を賞賛することができる。 ・場や用具の安全に留意し、練習やゲームを行うことができる。 ・チームの特性と課題を意識した作戦を立てることができる。 ・ゲーム中、ボールを保持する人と自分との間に、守備者を入れない位置にいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗に対して公正な態度で相手を賞賛することができる。 ・場や用具の安全に留意し、練習やゲームを行うことができる。 ・チームの特性と課題を意識した作戦を立てることができる。 ・ゲーム中、シュートができる場所に走り込み、シュートをすることができる。

【本時の展開】（6／10時間）		【本時の展開】（6／10時間）		
指導の留意点	学習活動	形態	指導の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・主要な部位をほぐさせ、けがの防止に努める。 ・個別の指導を的確に行う。動きながらトラップしているか、進む方向に適度な強さで、適切な方向にパスができるよう支援する。 ・パスゲームをする前に、パスされたボールへの接近、パスの方向、声かけの仕方などを再確認してから取り組ませる。 ・ゲームの状況を話し合い、事前に児童の「困り感」から学びたいことと、指導者側から見ての指導したいことを話し合いすり合わせしておく。 ・具体的にイメージのつかめない児童が出てくるのが予想される。実際に手を引き動かしながら、有効な場所を見つけさせる。 ・ワンプレーごとに評価し、作戦に自信をもたせるとともに、その作戦からバリエーションが広がっていく可能性を、負担のない程度に伝える。 ・作戦の確認と練習の場面で確認したボールを持たないときの動きについて、ゲーム中にフリーズさせながら動きを習得させる。 ・ボールを持っていないときの動きを確実につかませる。 ・パスをもらうための動きを確認する。 ・健康状態、怪我の把握を確実におさえ、次時の予告をする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶、服装確認、健康観察 2 ボール操作の能力を高めるドリル (1)音楽に合わせて、ボールタッチ、ボール操作。 (2)一人壁パス (3)ペアでパス&ラン 3 タスクゲーム【パスゲーム】を行う 4 本時の学習と課題の確認を行う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">パスをもらえる場所にしよう。</div> 5 作戦の確認と練習 ・本時の課題に沿ったチームの作戦を、次に行う「セントリングサッカー」のハーフコートで試す。 ・相手チームから2人借りてデフェンス役をしてみよう、4対2で行う。 ・待つチームは作戦の確認と、チームごとに個別練習を行う。 6 ゲーム「セントリングサッカー」を行う (基本のルール) ・4対4で行う。 ・バックコートで守ってよいのは2人だけ。 ・サイドのフリーゾーンでは手でボールを扱ってもよい。 ・エンドライン・サイドラインはない。壁の活用も可能。 ・キーパーはなし。 ・初得点は10点、全員得点は勝利。 ・ゲーム時間は5分間。(3チーム総当たりで行う。) 7 学びの振り返り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">守っている人の位を確認して動く。</div> 8 整理運動、健康観察、挨拶 	共通導入	<ol style="list-style-type: none"> 1 挨拶、服装確認、健康観察 2 ボール操作の能力を高めるドリル (1)音楽に合わせて、ボールタッチ、ボール操作。 (2)一人壁パス (3)ペアでパス&ラン 3 タスクゲーム【パスゲーム】を行う 4 本時の学習と課題の確認を行う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">シュートができる場所に走り込もう。</div> 5 作戦の確認と練習 ・本時の課題に沿ったチームの作戦を、次に行う「セントリングサッカー」のハーフコートで試す。 ・相手チームから2人借りてデフェンス役をしてみよう、4対2で行う。 ・待つチームは作戦の確認と、チームごとに個別練習を行う。 6 ゲーム「セントリングサッカー」を行う (基本のルール) ・4対4で行う。 ・バックコートで守ってよいのは2人だけ。 ・サイドのフリーゾーンでは手でボールを扱ってもよい。 ・エンドライン・サイドラインはない。壁の活用も可能。 ・キーパーはなし。 ・初得点は10点、全員得点は勝利。 ・ゲーム時間は5分間。(3チーム総当たりで行う。) 7 学びの振り返り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">相手を誰かが引きつけて、空いた場所に走り込む。</div> 8 整理運動、健康観察、挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な部位をほぐさせ、けがの防止に努める。 ・個別の指導を的確に行う。動きながらトラップしているか、進む方向に適度な強さで、適切な方向にパスができるよう支援する。 ・パスゲームをする前に、パスされたボールへの接近、パスの方向、声かけの仕方などを再確認してから取り組ませる。 ・ゲームの状況を話し合い、事前に児童の「困り感」から学びたいことと、指導者側から見ての指導したいことを話し合い、すり合わせしておく。 ・具体的にイメージのつかめない児童が出てくるのが予想される。実際に手を引き動かしながら、有効な場所を見つけさせる。 ・ワンプレーごとに評価し、作戦に自信をもたせるとともに、その作戦からバリエーションが広がっていく可能性を、負担のない程度に伝える。 ・作戦の確認と練習の場面で確認したボールを持たないときの動きについて、ゲーム中にフリーズさせながら動きを習得させる。 ・ボールを持っていないときの動きを確実につかませる。 ・シュートができる場所についてつかませる。 ・健康状態、怪我の把握を確実におさえ、次時の予告をする。

体育科の資料作成にご協力いただいた学校

- 葛巻町立小屋瀬小学校

参考資料名

- 複式指導資料第28集「岩手の小規模・複式指導ハンドブック」
- 複式指導資料第29集「岩手の小規模・複式指導ハンドブック」

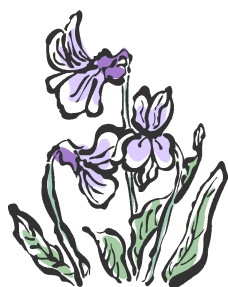
複式指導に使われる用語解説



用語	解説	掲載頁
◇学年別指導	・複式学級における学習指導の類型。それぞれ違う教科、あるいは同じ教科でも異なる内容を指導する方法。	理P7
◇同単元指導	・複式学級における学習指導の類型で、学年別指導以外の指導法。この方法は、さらに「同内容指導」と「類似内容指導」に大別される。	理P7
◇同内容指導	・同単元指導の一種で、異なる学年の児童に対して同じ内容を指導する方式を指す。	理P7
◇類似内容指導	・同単元指導の一種で、異なる学年の児童に対して類似の内容を指導する方式を指す。	理P7
◇直接指導	・一方の学年の児童が教師から直接指導を受ける学習指導。	理P8
◇間接指導	・一方の学年の児童が教師から指導を受ける間、もう一方の学年の児童が教師の指導を離れ、児童のみで課題解決を図る学習指導。	理P8
◇わたり	・2つの学年を移動して指導するときの教師の動き。	理P9
◇ずらし	・教師の直接指導を効果的に位置付けるために、2つの学年の指導過程の段階や時間をずらすこと。	理P11
◇同時直接指導	・2つの学年に共有する時間を設定して教師が直接行う学習指導。 →ねらいを共有する指導(共通導入) …ねらいは別々に設定するが、導入の段階はずらさずに行う場合は、同時導入と呼ぶ。 →まとめを共有する指導(共通終末) …学年相互で感想交流するなど、終末の段階はずらさずに行う場合は、同時終末と呼ぶ。 →2つの学年を自由にわたり、個別に行う指導。(同時個別指導と呼ぶ)	理P16
◇同時個別指導	・指導過程に両学年に共通した個別あるいはグループ学習を設定することによって、教師が学年間を自由にわたって一人一人への支援を可能にすることを目的とした個別指導の方法。	理P16

用語	解説	掲載頁
◇共通終末	・ 共通導入で共有したねらいに対する学習内容を確認し合い、共通性、連続性、発展性という視点からまとめを共有することで、学習を深めることを目的とした終末の方法。	理P17
◇同時導入	・ 2つの学年のそれぞれのねらいに沿った学習指導の中で、段階をずらさずに、両学年同時に導入(課題把握)を始める方法。	理P17
◇同時終末	・ 同時導入で始めた学習指導の終末方法。段階をずらさずに同時に終末を迎える。	理P17
◇共通導入	・ 同単元指導を行う場合に、2つの学年の学習内容に共通性・系統性・発展性を、学び方に連続性を見出しながら課題を設定するなど、ねらいを共有することで学習を深めることを目的とした導入の方法。	理P17
◇ガイド学習	・ 小集団学習の一形態で、児童の中から学習の案内役を決め、主に間接指導時の学習を進行する学習。	アP36
◇学習ガイド	・ 間接指導時に話し合い学習を促進したり、課題意識を強化したり、課題解決の効率化を図る役目をする。	アP36
◇リーダー学習	・ 間接指導の充実を図るために考えられた小集団学習の一形態。児童が主体的に学習を進めるために、学年全体による学習や、ペアやトリオなどのグループによる学習を行い、リーダー役が進行する。	アP36
◇学習リーダー	・ リーダー学習の進行役を指す。学習リーダーは、教師によって示された学習の流れに沿って司会進行する。	アP36
◇フォロワー	・ 学習リーダーに協力する学級の児童全員を指す。	アP36
◇合同学習	・ 学習においてある一定の集団が必要な場合や異学年集団による学習がより効果的であると思われる場合に行う教育方法。	アP40 P41
◇集合学習	・ その学校や学級単独では集団による学習活動が困難な場合に、近隣の2校以上の同学級の児童生徒または、各学校の全児童生徒を一カ所に集めて、各学校の教師の協力によって学習指導を行う教育方法。	アP40 P42

用語	解説	掲載頁
◇全習	・ 集合学習を行う際に使われる用語で、集合して学習を行う学習全体を指す。	アP42
◇分習	・ 集合学習を行う際に使われる用語で、集合学習以外の各校におけるそれぞれの学習を指す。	アP42
◇交流学习	・ 学校規模や生活環境の異なる学校(小規模校と大規模校, 国際姉妹校, 山の学校と海の学校,)や, 異校種(同中学校区)どうしが, 姉妹的な関係を結び, それぞれの学校独自では体験できない学習や, 生活経験をさせる教育方法。	アP40 P43



※掲載ページに示している「理」は理論編, 「授」は授業理論編, 「ア」は授業アイデア編を指しています。

※「共通導入」・「共通終末」・「同時導入」・「同時終末」・「同時個別指導」という用語は, この冊子における呼び方です。

引用文献

全国へき地教育研究連盟(1998)『21世紀を拓く教育シリーズⅠ 学習指導方法の工夫・改善』全国へき地教育研究連盟, P.44

文部科学省(1995),『小学校複式学級指導資料 算数編』, 東洋館出版, P.5~P.7, 24

文部科学省(1980),『小学校複式学級指導資料 算数編』, 教育出版, P.4, 16,

参考文献

青森県教育委員会(2007),『指導資料第33集 へき地・複式教育ハンドブック(一般編)』

青森県教育委員会(2007),『指導資料第34集 へき地・複式教育ハンドブック(事例編)』

青森県教育委員会(2007),『指導資料第35集 へき地・複式教育ハンドブック(授業実践編)』

岩手県教育委員会(2001),『複式指導資料第21集 岩手の小規模・複式指導ハンドブック』

岩手県教育委員会(2002),『複式指導資料第22集 岩手の小規模・複式指導ハンドブック』

岩手県教育委員会(2003),『複式指導資料第23集 岩手の小規模・複式指導ハンドブック』

岩手県教育委員会(2007),『複式指導資料第28集 岩手の小規模・複式指導ハンドブック』

岩手県教育委員会(2008),『複式指導資料第29集 岩手の小規模・複式指導ハンドブック』

岩手県立総合教育センター(2000),『複式指導資料 手引書Ⅰ~Ⅲ』

岩手県立総合教育センター(2014),『複式指導資料 研修講座資料』

岩手大学教育学部, 岩手県小規模・複式学校教育研究連盟(2004),『入門 複式授業—始めよう複式学習指導—』

全国へき地教育研究連盟(1998),『21世紀を拓く教育シリーズⅠ 学習指導方法の工夫・改善』, 全国へき地教育研究連盟

全国へき地教育研究連盟(1999),『21世紀を拓く教育シリーズⅡ 効率的な学習指導と学校・学級経営』, 全国へき地教育研究連盟

全国へき地教育研究連盟(2000),『21世紀を拓く教育シリーズⅢ へき地・複式・小規模学校Q&A』, 全国へき地教育研究連盟

北海道立教育研究所・北海道教育大学(2001),『複式学級における学習指導の在り方 ~はじめて複式学級を担任する先生へ~』, 北海道立教育研究所・北海道教育大学

北海道立教育研究所・北海道教育大学(2002),『複式学級における学習指導の在り方 ~学年別指導の実践事例~』, 北海道立教育研究所・北海道教育大学

宮崎県教育委員会(2011),『複式学級を有する学校のために—複式学級指導資料—』

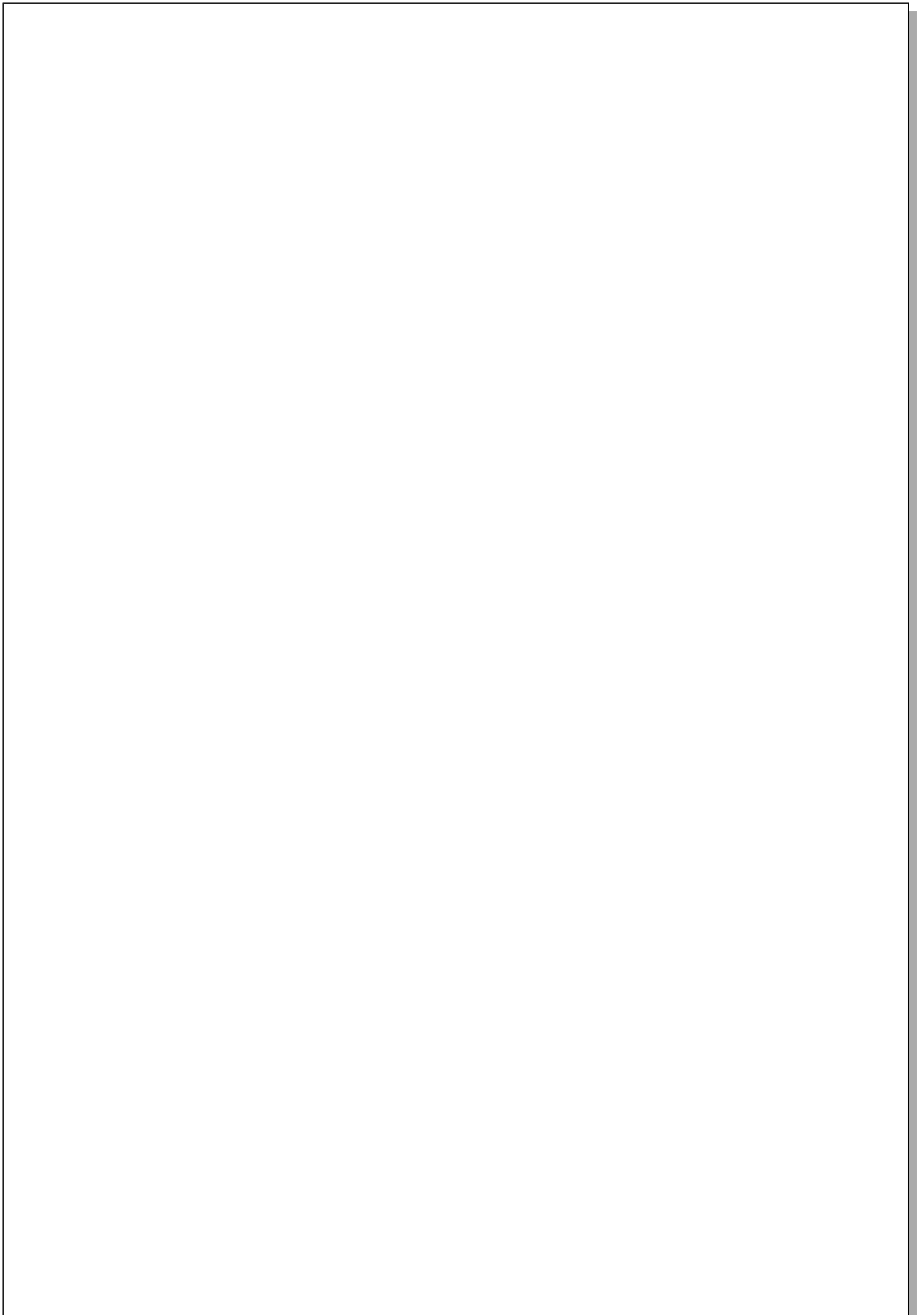
文部科学省(2008),『小学校学習指導要領』, 東京書籍

文部科学省(2008),『小学校学習指導要領解説 国語編』, 東洋館出版

文部科学省(2008),『小学校学習指導要領解説 算数編』, 東洋館出版

文部科学省(1980),『小学校複式学級指導資料 算数編』, 教育出版

文部科学省(1995),『小学校複式学級指導資料 算数編』, 東洋館出版





複式学級の特質を生かした
学習指導の進め方ガイド

平成27年2月

岩手県立総合教育センター

教科領域教育担当

吉田久美子・吉田武雄・吉田澄江・泉田学